

長野県松本市

YOKOTA-HURUYASHIKI

横田古屋敷遺跡

— 第1・2次発掘調査報告書 —

2012.3

松本市教育委員会

長野県松本市

YOKOTA-HURUYASHIKI

横田古屋敷遺跡

— 第 1・2 次発掘調査報告書 —

2012. 3

松本市教育委員会



416



404



408



416 出土状況





54 出土状況



54 (環状石斧)

卷頭カラー図版

例言

- 1 本書は平成9年6月19日から7月14日と平成20年7月7日から8月11日とにかけて行われた松本市元町2-22ほかに所在する横田古屋敷遺跡（よこた ふるやしき いせき）の第1・2次発掘調査報告書である。
- 2 第1次調査は遊技場（パチンコ店）建設に伴う緊急発掘調査であり、第2次調査は立体駐車場建設に伴う緊急発掘調査である。松本市が開発者から委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査・整理作業等を実施した。
- 3 本書の執筆分担は次のとおりである。
第Ⅲ章3節1土器・土製品：直井雅尚、2石器：内田陽一郎、その他：吉井理
- 4 本書の作成・編集にあたっての作業分担は次のとおりである。
遺物洗浄・接合：百瀬二三子、白鳥文彦 土器実測・トレース：竹平悦子、白鳥文彦
石器実測・トレース：荒井留美子、石井佑樹、内田陽一郎、原田健司 自然遺物：パリノ・サーヴェイ株式会社（人骨）
遺構図調整・整理・トレース：吉井 理、村山牧枝 図版組：（遺構）村山牧枝（遺物）内田陽一郎、白鳥文彦
写真撮影：（現場）1次：澤柳秀利、田多井用章、今村 克、荒木 龍 2次：三村竜一、吉井 理、横井 奏（遺物）宮嶋洋一
総括・編集：吉井 理
- 5 図中で用いた方位記号はすべて真北を指している。
- 6 本書で用いている任意座標（NS0、EW0を基準としたもの）は各調査時毎でそれぞれ基準を別にして記載している。
なお、第1次調査時のグリッド数字は該当するグリッドの北東の1点を示している。
- 7 表中等で用いたグリッド掘削中の出土遺物は帰属する可能性がある遺構名を（ ）内に表記した。
- 8 本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。
第○号竪穴住居址→○住、第○号土坑→土○、第○号掘立柱建物址→建○、第○号集石遺構→集○
第○号平地式建物址→平建○、第○号溝状遺構→溝○、第○号ピット→P○、第○号墓址→墓○
住居址以外は年次毎1番から付している関係で、土坑及び住居址外ピット、溝状遺構は略称も含め冠に次数を表記する。住居址内ピットは住居名を冠につけることで統一をした。
- 9 本書の中では遺構・遺物の細部を以下のスクリーントーンで表した。
焼土範囲： 炭化物範囲：
- 10 注釈は「○○⁽¹⁾」上付き文字で表記し、総括の後ろにまとめて記載している。
- 11 本調査における出土遺物及び測量図・写真等の諸記録は松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館に保管・収蔵されている。（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738番地1 TEL：0263-86-4710 FAX：0263-86-9189）
- 12 石器の原稿、図及び表作成にあたって関沢聡氏から指導、助言を得た。

目次

第Ⅰ章 調査の経緯	第3節 遺物
第1節 調査に至る経過…………… 1	1 土器・土製品……………24
第2節 調査体制…………… 2	2 石器……………47
第Ⅱ章 遺跡の環境	3 出土人骨……………66
第1節 地形・地質…………… 7	第Ⅳ章 総括
第2節 歴史……………10	第1節 礎床木棺墓……………72
第Ⅲ章 調査結果	第2節 集落と墓……………75
第1節 調査の概要……………12	第3節 まとめ……………76
第2節 遺構……………13	

第 I 章 調査の経緯

第 1 節 調査に至る経過

今回の調査地点は松本市元町 2-22 ほかにあたり、同敷地内にて 1 次調査を平成 9 年に、2 次調査を平成 20 年に行った。

本遺跡は昭和 57 年の分布調査⁽¹⁾の際に弥生土器が多量に黒色土中から採集されており、周知の埋蔵文化財包蔵地と知られてはいたが、本格的な調査は今回が初めてである。

合併前の本郷地区では「古屋敷遺跡」と呼ばれ、既刊行の報告書の一部では⁽²⁾「元屋敷遺跡」として記載されている。松本市内には「古屋敷」という遺跡名が大村地区や中山地区にも存在しており、混同を避けるためにそれぞれ字名をつけることで区別をして、本遺跡は「横田」の冠を付し、遺跡名称を「横田古屋敷遺跡」とした。

第 1・2 次調査及び試掘・立会調査に伴う文書記録等は以下のとおりである。

平成 9 年度（第 1 次調査）

- 5 月 9 日「市内遺跡に関わる開発行為に関する埋蔵文化財発掘届の提出について」旧文化財保護法第 57 条の 2 第 1 項
「土地所有者の承諾書」
- 6 月 16 日～ 横田古屋敷遺跡試掘調査実施。地表下 80～100cm で弥生時代の遺構・遺物を確認。
「開発事業に伴う横田古屋敷遺跡の保護意見書」
- 6 月 17 日「開発行為に伴う横田古屋敷遺跡保護協議」
「埋蔵文化財発掘調査通知の提出について」旧文化財保護法第 98 条の 2 第 1 項
「埋蔵文化財発掘調査実施について」
- 6 月 18 日「横田古屋敷遺跡内開発行為に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」を締結
- 6 月 19 日～7 月 13 日 横田古屋敷遺跡第 1 次発掘調査実施
- 7 月 15 日「市内遺跡に関わる発掘調査終了通知の提出について」
- 1 月 19 日「市内遺跡に関わる埋蔵物発見届及び埋蔵文化財保管証の提出について」
- 2 月 26 日「埋蔵物の文化財認定について（通知）」9 教文第 185-28 号
- 3 月 31 日「横田古屋敷遺跡埋蔵文化財発掘調査委託の完了報告書の提出について」

平成 12 年度

- 3 月 26 日 立体駐車場建設に伴う雨水浸透枡掘削の立会調査実施。遺物はなし。礫を含む土坑 2 基を確認。

平成 13 年度

- 5 月 9 日 立体駐車場建設に伴う基礎工事及び雨水・排水路掘削の立会調査実施

平成 20 年度（第 2 次調査）

- 4 月 25 日「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」文化財保護法 93 条
- 5 月 14 日「土地所有者の承諾書」
- 5 月 19～21 日 埋蔵文化財試掘調査（立体駐車場建設地）実施。地表下 130～165cm で遺構・遺物を確認。
- 5 月 28 日「横田古屋敷遺跡に関わる保護意見書」
- 5 月 29 日「埋蔵文化財試掘調査報告書（立体駐車場建設地）」
- 6 月 3 日「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」20 教文第 7 - 129 号
- 7 月 1 日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約」締結
- 7 月 4 日「埋蔵文化財発掘調査の実施について」

7月7日～8月11日 横田古屋敷遺跡第2次発掘調査実施

8月12日「発掘調査終了報告書」

「埋蔵物発見届及び文化財保管証の提出について」文化財保護法101条・108条並びに遺失物法

8月22日「埋蔵文化財認定及び出土品の帰属について」20教文第26号-67号

8月24～29日 埋蔵文化財試掘調査（遊技場建設地）実施

10月14日「埋蔵文化財試掘調査報告書（遊技場建設地）」

10月17日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査委託契約に関する変更契約」

10月21日「横田古屋敷遺跡内開発に伴う埋蔵文化財発掘調査業務委託完了報告書」

3月5日「出土文化財の譲与申請」

3月12日「出土文化財の譲与について（通知）」20教文第27-34～35号

整理作業：現場測量図と出土品の整理作業は平成22年4月から松本市立考古博物館において実施し、平成24年3月30日に発掘調査報告書(本書)を刊行することで完了した。

第2節 調査体制

平成9年度 第1次発掘調査

調査団長：守屋立秋（松本市教育長）

調査担当者：澤柳秀利、田多井用章、今村 克、荒木 龍

調査員：森 義直

発掘協力者：浅井信興、浅輪敬二、荒井留美子、石井脩二、入山正男、上兼昭一、大月八十喜、岡村行夫、上條道代、河上純一、神田栄次、清沢智恵、興 喜義、斉藤政雄、高橋登喜雄、田中一雄、寺島 実、中村恵子、林 武佐、藤井源吾、藤井道明、藤本利子、布野行雄、布山 洋、牧 久雄、丸山喜和子、宮田美智子、三代沢二三恵、甕 國成、百瀬二三子、横山 清、吉田 勝

事務局：松本市教育委員会文化課

木下雅文（文化課長）、熊谷康治（文化課長補佐）、村田正幸（文化財担当係長）、近藤 潔（主事）、田多井用章（主事）、川上真澄（嘱託）

平成20年度 第2次発掘調査

調査団長：伊藤 光（松本市教育長）

調査担当者：三村竜一、横井 奏、吉井 理

調査員：森 義直

発掘協力者：井口方宏、石川一男、折井完次、清水陽子、丸山俊樹、百瀬二三子、待井敏夫、待井正和、宮沢文雄、渡辺啓之助、渡辺順子

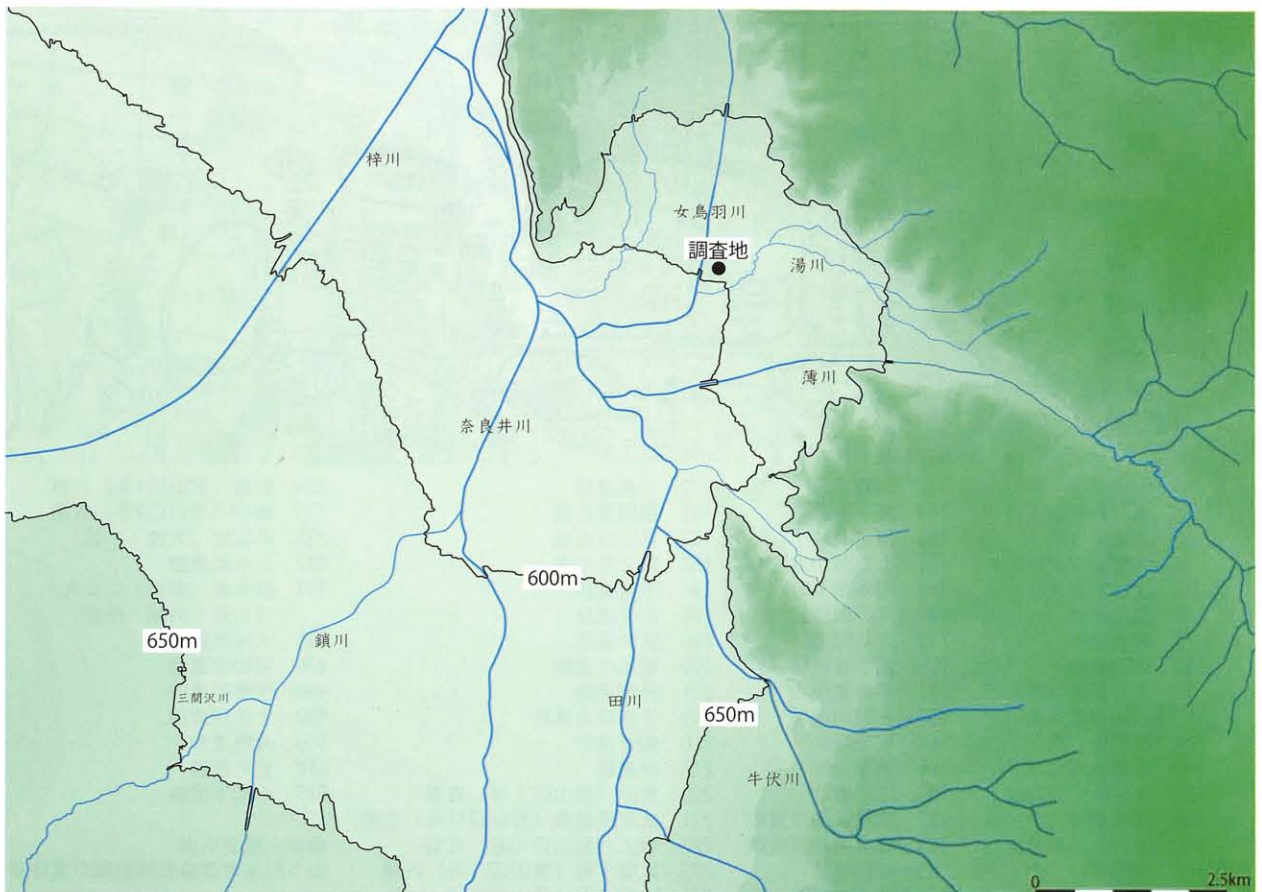
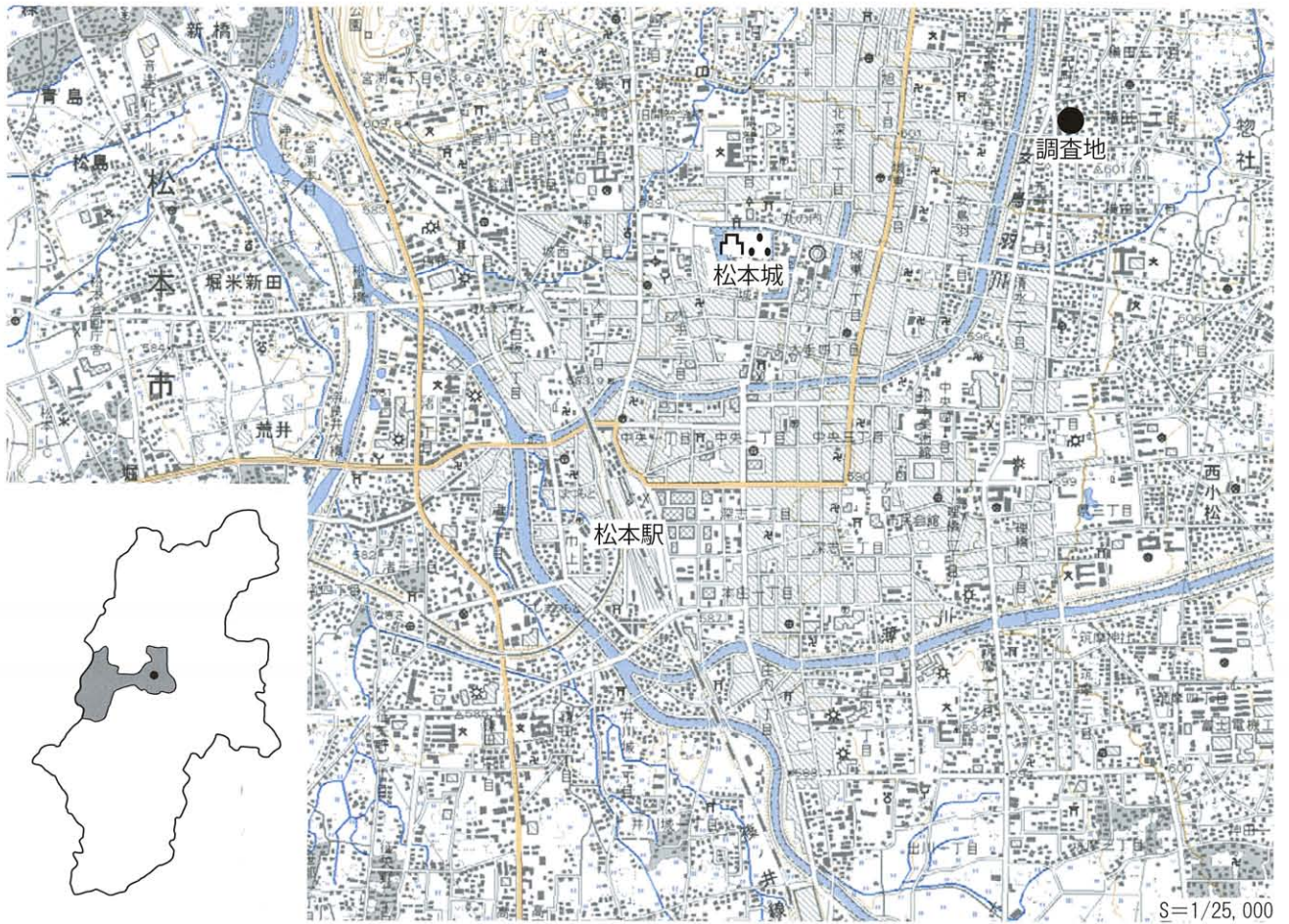
事務局：松本市教育委員会文化財課

小穴定利（文化財課長）、大竹永明（埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、櫻井 了（主事）、柳澤希歩（嘱託）

平成23年度 報告書刊行

事務局：松本市教育委員会文化財課

塩原明彦（文化財課長）、大竹永明（課長補佐 埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（主査）、柳沢希歩（嘱託）



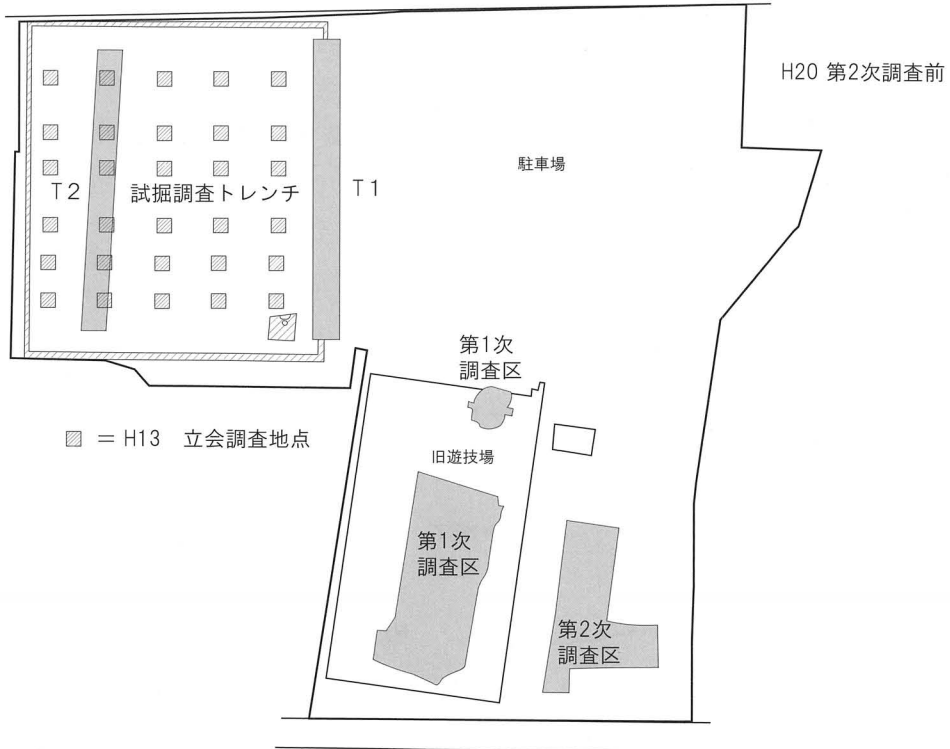
第1図 調査地の位置



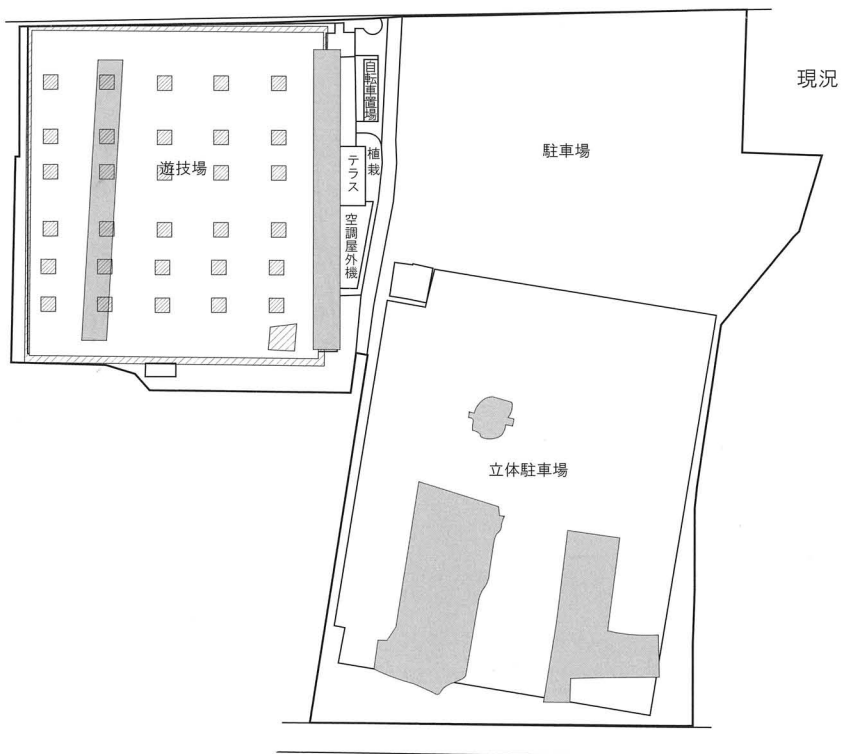
- | | | | |
|-------------|-------------|---------------------|---------------------------|
| 73 大村遺跡 | 148 沢村遺跡 | 173 小島遺跡 | 225 針塚(里山辺4号)古墳 |
| 74 大村古屋敷遺跡 | 154 蟻ヶ崎遺跡 | 185 饅頭塚古墳 | 230 御符(里山辺9号)古墳 |
| 75 大輔原遺跡 | 155 田町遺跡 | 187 県1号古墳 | 233 林城址(大城・小城) |
| 76 大村立石遺跡 | 156 女鳥羽川遺跡 | 188 県2号古墳 | 487 北小松遺跡 |
| 77 大村前田遺跡 | 157 松本城下町跡 | 194 下原遺跡 | 494 松本城(本丸・二の丸・三の丸・外堀・総堀) |
| 78 惣社遺跡 | 158 丸の内遺跡 | 195 新井遺跡 | 495 天神西遺跡 |
| 79 宮北遺跡 | 159 大名町遺跡 | 196 荒町遺跡 | 496 岡の宮遺跡 |
| 80 横田遺跡 | 160 四ツ谷遺跡 | 200 兎川寺遺跡 | 498 伊勢町遺跡 |
| 81 大村塚田遺跡 | 161 県町遺跡 | 201 針塚遺跡 | 499 土居尻遺跡 |
| 82 横田古屋敷遺跡 | 162 本町南遺跡 | 209 千鹿頭北遺跡 | 500 片端遺跡 |
| 104 国司塚古墳 | 164 埋橋遺跡 | 210 御符遺跡 | 510 堂町遺跡 |
| 109 惣社車塚古墳 | 165 筑摩遺跡 | 213 林遺跡 | 516 小松下遺跡 |
| 123 大村新切古窯址 | 166 三才遺跡 | 220 荒町(里山辺1号)古墳 | |
| 144 狐塚遺跡 | 167 筑摩北川原遺跡 | 221 北河原屋敷(里山辺11号)古墳 | |
| 145 旧射的場西遺跡 | 168 筑摩南川原遺跡 | 222 巾上(里山辺10号)古墳 | |
| 146 元原遺跡 | 169 神田遺跡 | 223 大塚1号(里山辺12号)古墳 | |
| 147 沢村北遺跡 | 172 井川城址 | 224 大塚2号(里山辺3号)古墳 | |
- 印：調査地点
No.：松本市遺跡台帳記載の遺跡番号

第2図 周辺遺跡図

4

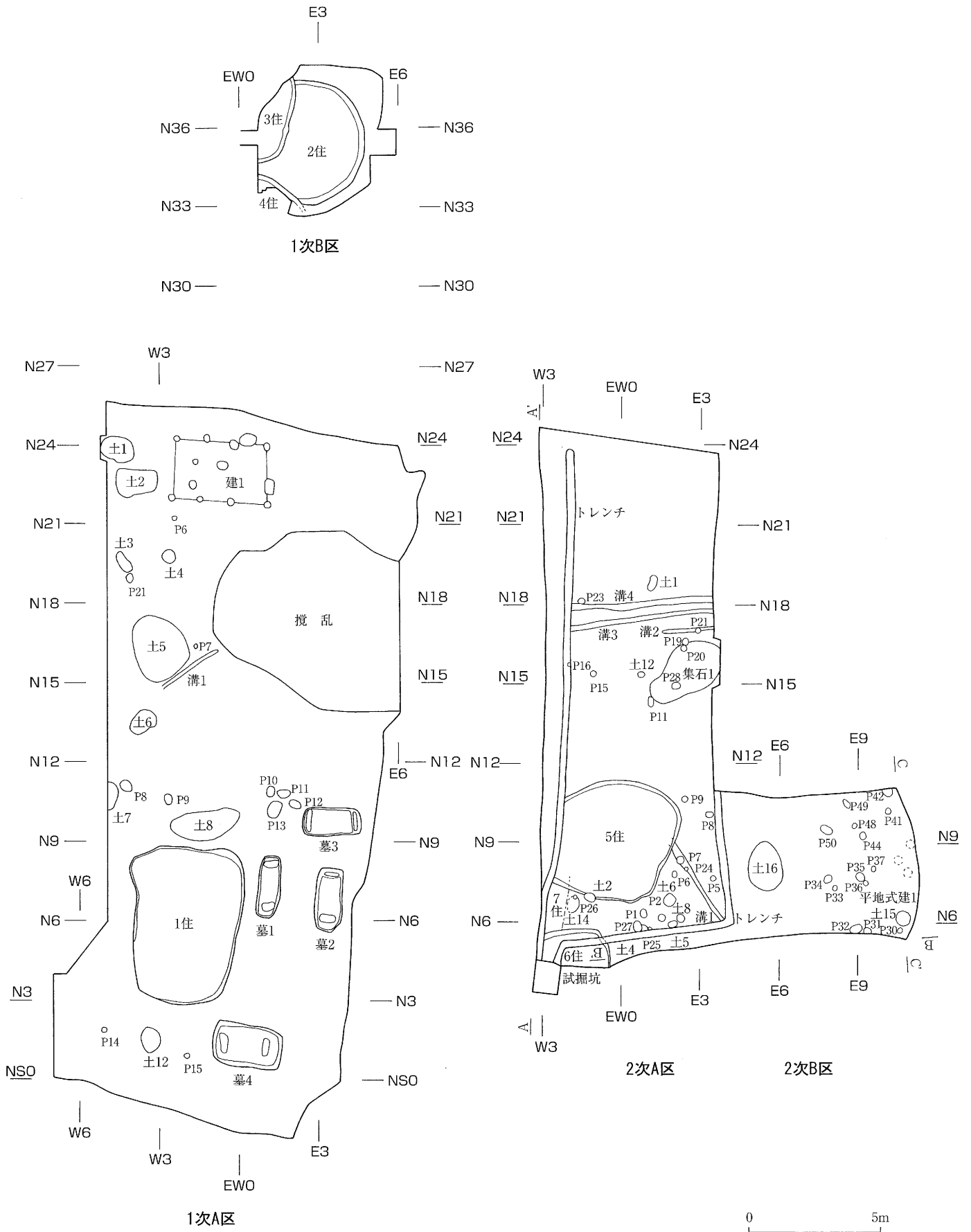


4



0 50m

第3図 調査範囲図



第4図 遺構配置図

第Ⅱ章 遺跡の環境

第1節 地形・地質

1 本遺跡と河川との関係

本遺跡は松本市市街地の東の元町地籍にあり、松本市東部を形成した薄川による扇状地と、女鳥羽川による扇状地との境界にあたり、女鳥羽川から東に約230mのところに位置する。

薄川は三峯山の西側を源流とし鉢伏山の東北を通り、美ヶ原付近の水を集め入山辺地区から西流し旧松本市南端を流れて田川と合流している。薄川の特徴は下流で堆積物が異常に厚いことであり松本市一帯の地盤沈下など構造上の問題にも関係すると考えられている。堆積物は流域の岩石である緑色変質火山岩、石英閃緑岩、安山岩、玢岩などの礫を主体としている。薄川により形成された扇状地は、扇頂を入山辺地区南方付近とし、南は和泉川付近、北は清水付近の湯川を境として女鳥羽川の扇状地に接し、西は旧松本市の市街地に達している。

女鳥羽川は三才山付近に源を発して西流し、本郷の稲倉で南流に転じて松本市街地の北から流入する河川で、松本市白板付近にて田川と合流する。堆積物は上流で新生界第三系の内村層とそれに貫入した玢岩を浸食して流下するため、砂岩、玢岩などの礫が多い。女鳥羽川により形成された扇状地は、本郷の稲倉付近を扇頂とし、本郷や岡田に広い扇状地をつくり、湯川を境として薄川の扇状地に接し松本市の北部を形成している。

2 遺跡の土層

第1次調査 調査区中央東壁、墓址付近の土層について概観する。Ⅶ層が本遺跡の遺構検出面にあたり、黄褐色土で現地レベルから-130cm以下に堆積する。Ⅵ層が20cm堆積し、漆黒色土で弥生土器遺物包含層にあたる。Ⅴ層も同じく20cmの堆積で色調は黒、古代の遺物包含層にあたる。Ⅳ層は黄褐色シルト質粘土、Ⅲ層は粗砂の堆積で流理構造が顕著に確認され、Ⅱ層黄褐色シルト質粘土となり、Ⅳ～Ⅱ層(-20～-97cm)は弥生時代以降の流路の痕跡である可能性が高い。Ⅰ層は表土及び攪乱となる。

第2次調査 (第5図)

A区西・南壁、B区東・南壁を図示した。

10～14層は弥生時代以前の堆積で褐色～暗褐色土、14層には流路堆積が認められた。

8・9層は弥生時代の遺構検出面で褐色砂質土、層中には炭化物の混入が認められ、1次調査のⅦ層にあたる。

5～7層は弥生時代の遺物包含層で、炭化物を含む黒色土が主で1次調査のⅥ層にあたる。

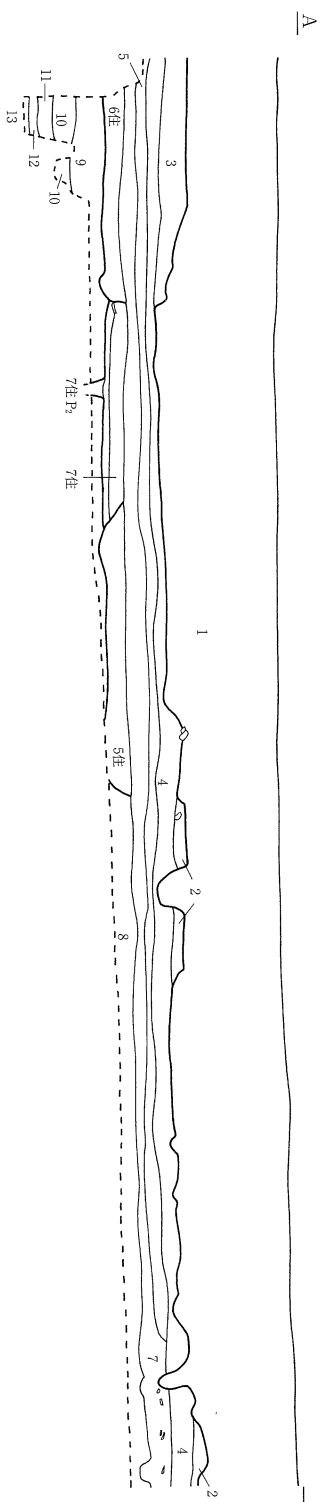
4～2層は古代以降の堆積で、部分的に遺構・遺物が若干認められたが生活面としての層を成してはいなかった。

13・14層の存在から弥生時代以前に河川による氾濫があったことは明らかであるが、2層以下、9層までそのほとんどが水平堆積をなしており、1次調査区、大規模試掘調査時に見られた顕著な流理構造を持つ層や氾濫痕跡と思しき堆積が2次調査区では検出されなかった。弥生時代以降の氾濫は1次調査地の範囲中に収まる可能性が高い。

大規模試掘調査 (第6図)

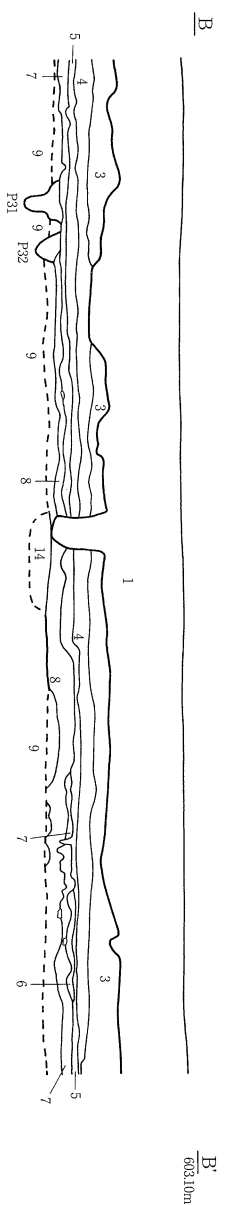
調査の結果、調査地には奈良～平安時代の遺物包含層である12・13層が部分的に残ることが分かったが、出土遺物はごく僅かに回収できただけである。2～11層中は幾度にもわたる流路堆積が確認でき、それらは平安以降の堆積と考えられる。なお、弥生時代の遺物包含層及び遺構は灰褐色砂礫層が破壊していると推定され、一切検出されなかった。1・2次調査で確認されている弥生時代の遺構・遺物が発見されなかったのは後世の洪水による影響が多いと考えられるため、岡の宮遺跡へと続くと思定される集落の連続性が確認されなただけであり、関連性がないとは断言することはできない。

調査区西壁

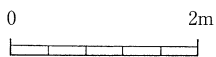
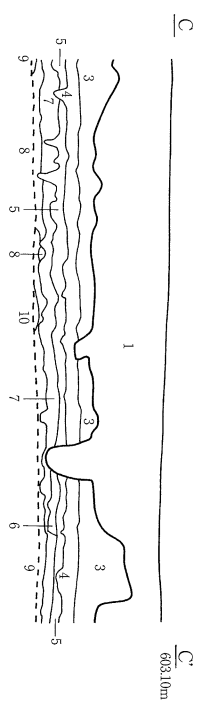


- 1 現代の造成土・掘削 灰色土塊少量
- 2 暗灰色土 (褐色土塊少量)
- 3 灰褐色土 (黄褐色土塊少量)
- 4 灰色粘質土 (黄褐色土塊少量)
- 5 灰色粘質土 (弥生時代の遺物を含む層 褐色土塊少量)
- 6 褐色シルト～粘質土 (弥生時代の遺物を含む層 暗灰色土塊少量 白色礫少量)
- 7 黒色シルト質土 (弥生時代の遺物を含む層 炭化物・白色礫少量)
- 8 暗褐色シルト質土 (炭化物・白色礫少量 弥生時代の遺物検出箇所)
- 9 褐色粘質土 (灰色土塊少量)
- 10 褐色土 (灰褐色土塊少量) 黄褐色土塊少量
- 11 暗褐色土 (褐色土塊少量)
- 12 褐色土 (灰色土塊少量 暗褐色土塊少量)
- 13 礫層
- 14 褐色粘質土 (大型礫少量 流路堆積)

調査区南壁

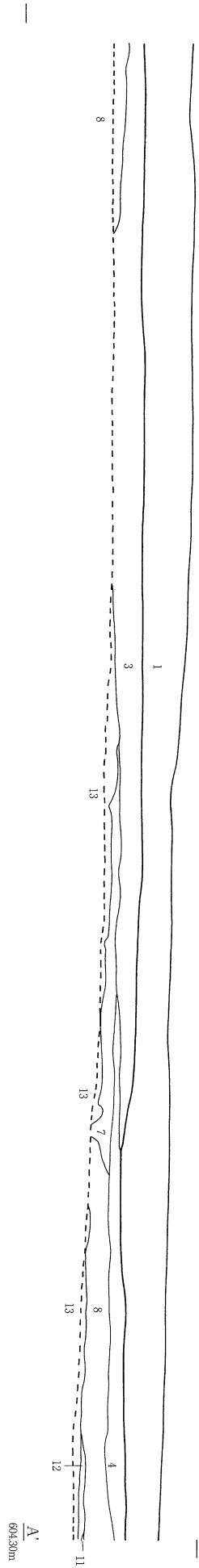


調査区東壁

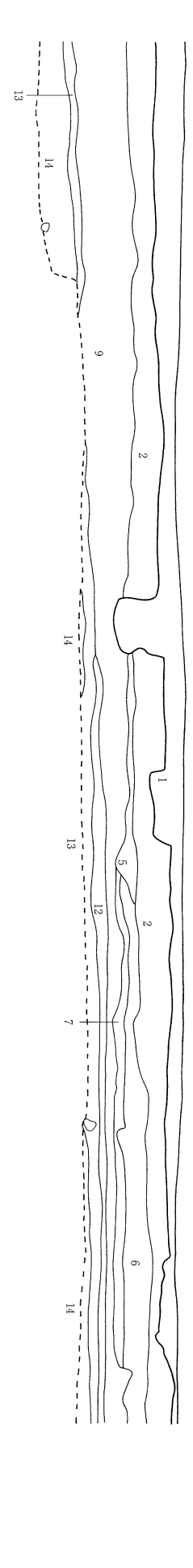


第5図 2次調査区壁面の土層断面図

A トレンチ1



B トレンチ2



- 1 現代の遺成土・攪乱
- 2 黄褐色砂質土
- 3 黄褐色砂礫 (流路堆積層)
- 4 黄褐色砂質土
- 5 暗黄褐色砂質土 (流路堆積層)
- 6 黄褐色砂礫 (流路堆積層)
- 7 暗黄褐色砂質土 (5・8層より勝)
- 8 暗黄褐色砂質土

- 9 暗黄褐色砂礫 (流路堆積層)
- 10 黄褐色砂礫 (流路堆積層)
- 11 暗黄褐色砂質土
- 12 灰褐色砂質土 (平安時代の遺物を含む 暗黄褐色砂質土混入)
- 13 灰褐色砂質土 (平安時代の遺物を含む 遺物量は僅少)
- 14 褐色砂質土
- 15 灰褐色砂礫 (弥生時代の遺物を含む層を破壊する)
- 16 暗黄褐色砂

第6図 大規模試掘土層断面図

第2節 歴史

本遺跡周辺の弥生時代の遺構・遺物が発見されている遺跡を中心にして概観する。なお、遺跡名はゴシック体で表記し、「遺跡」は省略して記載する。(数字)は第2図に対応するもので、松本市遺跡台帳に登録されている遺跡番号である。

1 女鳥羽川流域

本流域の特徴は左岸一帯の微高地上には南北に連なる各時代の集落が展開する点、その背後に薄川扇状地北部から続く湿田地帯を有する点の二つが挙げられる。弥生後期後半になると**大村古屋敷**(74)、**大村塚田**(81)等に住居址が営まれる。**大村古屋敷**は20軒近い住居址が発見された規模の大きいもので、東方に広がる湿地帯を耕地とする場所に集落を構えている。**女鳥羽川**(156)・**岡の宮**(496)からは栗林式中段階(栗林2式)の土器が出土している。市内遺跡での当該期の土器群と比較すると、**県町遺跡**、**百瀬遺跡**の出土土器群より古く、栗林式の中では最古級に位置付けられている。

2 湯川流域

女鳥羽川扇状地と薄川扇状地の接する一帯である。縄文時代中期から古代まで大きな広がりをもつ遺跡が分布する。弥生時代では**横田古屋敷**(82)、**四ツ谷**(160)などがある。

3 薄川流域

扇端に位置する**県町**(161)はこの地域で最も規模の大きい遺跡で、弥生時代中期後半から古代まで集落址が断続的に継続され続ける特異な遺跡である。なお、扇央部に位置する針塚からは弥生時代前期末の再葬墓が発見されている。弥生後期後半以降は集落も構えるようになり、**堀の内**(199)からは方形周溝墓も発見されている。

4 奈良井川、鎖川・三間沢川

本遺跡周辺ではないが、「**宮渚本村遺跡**」「**境窪遺跡**」の2遺跡からは礫床木棺墓と考えられる土壙が検出されている。

宮渚本村(153)は奈良井川右岸にあり、中期後半～後期の大集落址で80軒以上の住居址が発見されている。

鎖川西岸の扇状地に位置する、**境窪**(312)からは弥生時代中期前半の集落址が発見されている。集落内からは、平地建物址、掘立柱建物址、礫床木棺墓、再葬または乳幼児墓と考えられる土器棺墓、土坑墓が検出されている。

5 松本市内の礫床木棺墓

『宮渚本村遺跡一遺構編一』松本市文化財調査報告No.45、1986年

報告書掲載名は土坑25であり、礫床木棺墓と認識をして調査を行っていない。「Ⅱ区南部に位置し、第18号住居址を切っている。また、土坑東辺中央部から第18号住居址北東コーナーにかけて集石4によって切られている。長軸N-2-W、210×70cmの隅丸長方形プランの土坑である。覆土から床面にかけて、5～25cm大の礫を大量に含んでいる。」本址は、規模、プラン、礫の出土状況などから、礫床木棺墓の可能性を持っている。

『宮渚本村遺跡Ⅲ一遺構編一』松本市文化財調査報告No.77、1989年

土坑301・302・304・319・320・321の6基が該当する。

『境窪遺跡・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ』松本市文化財調査報告No.130、1998年

礫床木棺墓はB区中央、建7の北方で検出され、東西に長軸をとる長さ120×100cmの長方形の墓壙である。覆土は小円礫を多量に含み、その上面付近から少量の人骨片と土器片が出土したことから礫床をなしていたと考えられる。また、墓壙の東西壁下、木棺小口板部分は底面を一段低く掘り窪めていることから想定される木棺の大きさは長さ1m、幅0.8m程度である。

第三章 調査結果

第1節 調査の概要

調査地の設定 (第1・3図)

調査対象地は女鳥羽川から約230m東に位置し、1次調査以前は宅地であった。対象地内を試掘調査した結果、弥生時代の遺構・遺物が確認されたため、掘削が遺構検出面まで到達する箇所について調査を行なった。調査区は1・2次それぞれA・B区を設けている。調査面積は1次306㎡、2次157㎡、合計463㎡となる。前章で触れた大規模試掘調査は2次調査に次いで実施したもので、2本のトレンチ(幅3m×長40m×2=約240㎡)を設定した。

調査方法

発掘調査は大型建設用機械バックホーで表土から遺構検出面及び遺物包含層まで掘り下げ、それ以降は人力による調査を行った結果、各調査区全域で弥生包含層が検出され、住居址や土坑(検出時直径50cm以上を土坑、未満をピットとして扱った)、礫床墓などが発見された。竪穴住居は通し番号で付し、他遺構は年次毎1番から付している。

1次調査では、包含層中において大量の土器が出土したため包含層中で重機掘削を止め、3mグリッドを設定し、遺構検出が可能な深さまでグリッド毎の掘削を行った。

2次調査では、回収可能な遺物が包含層中に少なかったために、グリッド設定を行わずに掘削をし、遺構検出後に各遺構の掘り下げを行った。

測量方法

1次調査の平面測量は、調査区の南に任意の基準点(NS0.EW0)を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点(BM1=602.408、BM2=603.308)を設定した。

2次調査の平面測量は、調査区南に測量用基準点(X=26648.545、Y=-46168.352:NS0.EW0)を設定した後、基準点から3m毎の任意座標のグリッドを設定した。標高については、水準点(BM=602.292m)を設定した。

1・2次調査共通して、遺構図・出土遺物図の測量は簡易遣り方測量で行い、遺構配置図を1/100、土層・遺物出土・完掘図を1/20、詳細が必要なものについては1/10で作成した。なお、掲載している任意座標は1・2次、それぞれ独立した座標である。

調査成果

1・2次調査の発掘及び整理作業の結果、竪穴住居址7軒(弥生時代)、掘立柱建物址1軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット72基、溝状遺構5条、礫床木棺墓4基、集石遺構1基の遺構と、弥生時代～奈良・平安時代にわたる遺物が確認された。その概要は巻末の発掘調査報告書抄録に掲載している。

調査年次毎の検出遺構

- 1次：竪穴式住居址4軒、掘立柱建物址1軒、土坑・ピット26基、溝状遺構1基、礫床木棺墓4基
- 2次：竪穴式住居址3軒、平地式建物址1軒、土坑・ピット46基、溝状遺構4基、集石遺構1基

回収できた遺物量及び主な遺物

	土器	石器	主な遺物
1次遺構外	133,692g	8,698.9g	太首壺、短頸壺、台付甕、鉢、有孔土製品、磨斧、打斧、磨鎌、打鎌、砥石、凹・敲・磨石
1次遺構内	110,111g	50,466.4g	高坏、壺、短頸壺、甗、甕、台付甕、鉢、注口状土製品、土製紡錘車、土製耳飾り、環状石斧、磨製石庖丁、磨斧、打斧、磨鎌、打鎌、石錐、砥石、凹・敲・磨石、有孔石製品
2次遺構外	12,396g	796.5g	直口壺、壺、甕、鉢、磨斧
2次遺構内	12,250g	15,046.9g	壺、甕、台付甕、甗、磨鎌、打鎌、石錐、砥石

(2次遺構内の出土石器は12400.0gの砥石1点を含む)

第2節 遺構

各遺構の規模・主軸方位・平面形・炉・柱穴・遺物出土状況・時期・所見等については一覧表を参照されたい。

1 住居址（第1・2表、第8・9・12図） 弥生時代中期後半～後期の住居址7軒が検出された。

平面形態 平面プランが把握できた住居址は円形2軒と隅丸長方形1軒、1・2・5住の計3軒である。形態・柱配置・炉などのプランから、1住は後期に、2・5住は中期後半～末に位置づけられる⁽³⁾。なお、3住は検出されたプランのコーナーから隅丸長方形を呈すると推定される。

規模・方位 1・2・5住の規模は直径（長辺）が4.5～4.9mを測り、概ね近似する。面積は1住が21.6㎡と若干大きい、平面形態に抛るものと考えられる。柱痕はいずれの住居址も20～30cmを測り、柱穴規模の差異は特にみられない。主軸方位は遺構形態に関わらず、概ね北を指向する。

炉 本次調査で検出された炉は遺構形態に関わらず、いずれも円形で径40cm前後を測る地床炉である。5住及び6住は2基の炉を有する。

柱配置 1住は形態が長方形で6か所の柱穴、2住は方形で計6か所の柱穴、5住は方形で4か所の柱穴が検出された。3種3様であるため、形態と柱配置の規則性までは言及できない。壁際の支柱穴等は検出されなかった。

覆土 住居址覆土は主に暗褐色粘質土～黒褐色粘質土であった。人為的な埋め戻しと考えられる遺構覆土はみられず、炉址外の炭化材及び焼土は覆土、ピット内から微量に検出されたのみである。

床面 硬化面が検出されたのは2・6・7住の3基である。しかし、6住は壁面観察でのみの検出であり、7住は遺構プランが不明瞭であるため、遺構形態と床面の関係性は追究できない。なお、2住の硬化面は主柱穴の内側から検出されている。

その他屋内施設 2・3・4住は切り合い関係にあり、それぞれ周溝を有している。

出土遺物 出土土器量の面からみると2住が突出して多く、52,049gもの土器が出土している。次いで1住が19,618g、5住が8,458gを量る。環状石斧は2住から出土している。

分布状況 縁辺に墓域を造営していたとすれば、1住と5住の間に礫床木棺墓群が築造されていることから住居址支群が少なくとも2つ以上存在していたことが推測される。特に集落と墓域の関係については第IV章総括において述べることにする。

2 平地式建物址

第1号平地式建物址（第4表、第13図） 本址の土坑・ピットは全て2次調査分なので年次表記は省略する。2次B区東端部にて多角形に配置された柱穴列や住居址と同規模の地床炉が検出され、掘り込みが確認できなかったことから平地式建物址とした。

炉址は火床面が明瞭に残る3基が検出され、焼土の遺存状態から同時期に使用されていたと考えられる。

本址を構築していたと推測される柱穴はP31・33・34・37・41・42・48・49・50、土15の10基である。規模は30cm前後を測るものが多く、深さは検出面から20～30cmを測るものが多い。柱間隔は2.0～2.4mを測る。

炉址を中央とした場合、東半が調査区外にあることになるので柱配置の全容について明言はできないが、炉址を中央に据えた八角形の平地式建物址を想定し、P31・33・42・48の4基を主柱穴、他6基を支柱穴とした。主柱穴群と支柱穴群のほとんどが円形または円に近い楕円形状であるが、P49だけは長楕円形状を呈している⁽⁴⁾。板状の柱であったか、2本の柱をならべていたと考えられるが、堆積状況からは判然としなかった。

本址の主柱穴としたP42の底から逆位の壺底部(441)が半分に分かれた状態で出土した。

確実に平地式建物址に帰属する出土遺物はほとんど認められないが、他の遺構と同一の検出面において生活痕跡が確認できたことから5住などと同時期にあたる弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。なお、平地式建物址の特徴の一つである周溝は検出されなかった⁽⁵⁾。

古墳時代土器出土地点 2次A区北部に位置する。弥生包含層の上層から集中的に土器が出土した。これらの土器は古墳時代前期又は中期に位置づけられるが、遺構形態は不明瞭で捉えることができなかった。

3 掘立柱建物址 (第3表、第9図)

第1号掘立柱建物址 1次A区北部、1住と2住の間に位置する。柱穴列のほぼ中央の地点に炉址が検出されたことから、地床式住居址と考えられる。しかし、検出の段階で竪穴式住居址を床面まで削平してしまった可能性もある。なお、柱穴内出土遺物と、柱穴列内外の出土遺物は柱穴列に囲まれた範囲内包含層出土及び建物址周囲出土遺物として本址に帰属させている。出土遺物等から弥生時代中期後半～末の建物址と推定される。

4 礫床木棺墓 (第5表、第10・11図)

1次A区南部から4基の礫床木棺墓が検出された。墓1～3は1住東方に∩の字状に配置され、墓4は1住南方に位置する。墓1・2は主軸を南北にとって並列し、墓3・4は2基に対して直交方向である東西に主軸をとる。

径5cm～40cm以上の大小様々な亜円礫が、土坑外周、覆土中、床面等から大量に検出された(本報告では碎屑性堆積物の粒径区分を参考に、径5cm前後を中礫、径10～20cm前後を大礫、それ以上を巨礫とした)。いずれの墓址も礫床には中礫を主体的に用いている。出土した弥生土器は4基共に中期後半～末に位置づけられる。

以下、礫の検出状況、小口穴の状況等を記載する。

第1号墓址 本址の土坑部分については非常に浅く、検出時の礫出土状況において既に棺床面が確認されている。しかし、土坑周囲に配置された礫集積の在り方から、土坑上部を削平されたとは考え難い。したがって、深く掘り込んで埋葬されたのではなく、盛土をして埋葬するという形態をとったと考えられる。

小口穴は北・南共に土坑下端から20cmほど内側の位置に検出され、南端部のテラス状の段からは大礫が検出されている。20cmの幅をもつテラス状の段は北端が棺床より10cm程高く、南は棺床とほぼ同じ標高を測る。また、北小口中央からは外に向かって中礫が多く検出され、南小口内中央からは大礫が多く検出されている。小口穴内から出土した礫は木材が腐朽した時の崩落による可能性が否めないが、小口板の裏込め石として据えられた可能性も十分に考えられるだろう。

遺物は土坑周囲の礫集積に混じる様に出土しているものが多く、特に南側から壺の大形破片(207・214・215)が出土している。

第2号墓址 本址はグリッド調査時に付近の礫を取り上げてしまったため、礫集積の出土状況が不整形なものになっている。図示した礫範囲は、本来の礫集積の形態とは若干異なってしまう。

墓1と同方位を主軸とし並列するが、本址は40cm以上掘削した深さで棺床面が検出された。両者の遺構深度が示すなにかを具体的に言及することはできないが、土坑深度の他、礫床の厚み・礫範囲面積・土坑面積等、本址の方が若干大きい規模をもつ。遺構規模の大小のみで論じることは、憶測と成り得るが、あえて埋葬形態から上下関係を推し測ると墓2≧墓1と考えられるだろう。

小口穴間の範囲と検出時に礫が出土しなかった中央部の範囲がほぼ合致するため、この部分が遺体安置場と推定される。北端は土坑掘り方から小口穴底部までテラス状の段が確認されなかったが、南端は墓1の様にテラスが設けられていた。そのテラスは棺床面より10cm程低いが、礫は棺床面と同レベルから20cm程高い箇所まで礫を敷きつめていた状況が検出されている。以上のことから勘案すると小口穴を端部として、遺体を安置していたことがうかがえる。遺物は墓1同様に土坑周囲の礫集積に混じる様に遺物が多数出土した。特に、検出時に礫集積が少なかった北側に壺・甕の大形破片(197・203・205)が集中していたほか、中央から大礫1点が検出された。

第3号墓址 本址の特徴は東と西の2か所に礫集積が分断されていること、側部の礫集積が認められなかったことが挙げられ、想定される木棺周囲にも礫集積が存在しないことになり、他3墓とは異なる。

墓1同様に土坑深度は浅く、盛土を伴う埋葬が想定される。密度の高い礫集積は小口板の倒壊防止用と考えられるが、小口穴～中央にかけての木棺が安置されていた位置からも礫の出土が認められ、これらは土坑の上端と

ほぼ同標高地点にて検出されている。したがって、盛土状埋葬でかつ蓋板が存在していたことを前提にした場合に、木棺部が腐食して陥没したことを加味すると、木質部上に積載されていた礫や外側に積まれていた礫等も含まれると考えることが妥当であろう。なお、本址は土坑周囲の礫集積が墓 1 と比べて少ないため、土坑上部が削平されたと仮定することは容易であるが、他墓と同時性を想定している以上、同層理面から検出されている墓 1・2 の礫集積の状況から、積極的にその可能性を追求することは不適當と考えられる。

東端ではテラスが確認されず、西端には幅 10cm 程のテラス状部分が確認されている。テラスと棺床面はほぼ同レベルを測る。墓 2 と同じく、東端の小口穴と土坑形態の関係から小口穴を端部とする遺体安置場が想定される。

遺物は西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224~228・230~235・238~240)が出土している。ほかに、東部礫集積の南から土製耳飾(241)が 1 点出土している。

第 4 号墓址 本址は他 3 墓と比較すると 1.5~2 倍の面積を有する大型墓址である。

礫集積の配置は東西に大礫(間隙を中礫以下の礫で充填する)、南北に中礫の割合が多い。検出時中央部では中・大礫の出土が比較的少なく、墓標の役割を担っていたと考えられる巨礫が 5 点重なりあうように出土している。巨礫は礫床の最も上面である棺床面に接するように出土している。

礫床は棺床面~小口穴検出面まで中礫が約 30cm と厚く堆積し、木棺構築材固定の役割も兼ねていたものであろう。本址の礫床は中礫のみではなく、部分的に大礫も混じる。特に小口穴の周囲から土坑の下端までは大礫が集中的に出土した。

棺内にゆとりをもたせた遺体置き場を想定すると土坑に見合う安置場が構築されたことも考えられるが、礫の出土状況から他墓と同様に小口穴を端部とした遺体安置場が設けられていたと推測される。

本址は他墓よりも骨片の遺存状態が良好であったため、土砂の篩い分け作業を行った結果、人骨片約 2kg を回収することができた。ほか、磨製石鏃 1 点がみつかったが、玉類等の発見には至らなかった。

5 土坑・ピット (第 6・7 表)

総数は 72 基、1 次は土坑 9 基・ピット 17 基、2 次は土坑 10 基・ピット 36 基である。分布をみると 5 住~平建 1 の間に多くが密集している。遺物が出土した土坑の数は極僅かに過ぎず、また、切り合いから時期を推定できるものも少ない。以下特徴的な土坑について、記載していく。

1 次 第 1 号土坑 (第 9 図) A 区北西に位置する。頸部の欠損した壺(117)が出土し、その底部に穿孔が観察された。祭りが行われた可能性を踏まえ、墓址の可能性を考慮して調査を行ったが、骨等は検出されなかった。

1 次 第 2 号土坑 (第 9 図) 1 次土 1 の南に並列し、鉄分が多量に入る土坑である。墓址等の可能性を踏まえて調査をおこなったが、骨等は検出されなかった。

2 次 第 16 号土坑 5 住~平建 1 の中間に位置する。主な覆土は青灰色粘土層で、その下層に集積層が 1 層認められ、本址底面から鉄分が付着する礫が多数検出された。これらのことから本址は井戸址と推定される。なお、本址覆土から灰釉陶器小杯が 1 点出土していることから本址埋没時期は平安時代後期以降と考えられる。

6 溝状遺構 (第 8・9 表、第 13 図)

5 基が検出された。1 次溝 1 は調査区中央検出され、非常に浅く幅も狭い。規模・方向からは区画溝とは考え難い。2 次溝 1 は住居内で途切れるが 5 住に切られている。2 次溝 2~4 は調査区北部に平行に並ぶ一群として捉えることができる。いずれの溝も出土遺物が乏しく、滞水や流水痕跡はなく性格は不明である。

7 集石遺構

第 1 号集石遺構 (第 13 図) 礫の範囲は 3.2×2.0m を測り、深さ 10cm を測る土坑に伴って検出された。構成する礫の密度は低く散在しており、φ10~20cm の礫が主体的に用いられている。礫は覆土上層で検出された 1 面のみで礫下には灰褐色砂質土の堆積が認められた。なお、小口穴は検出されていない。人為的な集石と考えられるが、墓址である可能性は低く、性格は不明である。

第1表 1次住居址一覧表

()は残存値、深さは検出面からの最大値を示す

図No.	地区	平面形	規模(cm)		床面積(m ²)	長軸方位	炉・カマド形態		主柱穴	遺構所見	時期
			長軸×短軸×深さ				種類・位置				
1住	A	隅丸長方形	492×388×21		21.6	N-9-E	地床炉・中央北径40cm 火床面はドーナツ状	6基 P1・2・3・4・5・6	柱穴が長方形に配置され、北端の柱間から炉址が検出された。以上の形態は弥生時代後期によくみられる住居址形態である。出土数は比較的少ないが、遺物は住居址北部から散在的に出土している。	弥生後期	
2住	B	円形	476×(390)×43		12.3	N-3-W	地床炉・中央やや北径40cm	6基 P1・2、5~8	3・4住に切られる。本址覆土は暗褐色粘質土で、全体に焼土粒・炭化物が散らばる。床は黄褐色粘質土で三和土状に固くする状況が観察された。平均幅×深さ、25×16cmの周溝を検出。遺物は量・種共に非常に豊富で、特に炉址周辺に集中的に出土した。環状石斧や磨製石鏃等が出土している。	弥生中期後半	
3住	B	隅丸長方形?	(250)×(120)×40		3.0	不明	不明	1基	2住を切る。本址の大半は調査区外にかかる。検出されたコーナーから隅丸長方形を想定したが、明確な根拠はない。ピットが1基検出され深さが50cm以上を測るため、柱穴とした。2住との切りあい関係から1住と同時期の住居址ではないかと考えられる。	弥生後期?	
4住	B	不明	(170)×(70)×38		0.5	不明	不明	不明	2住を切る。切りあい関係と遺構覆土から3住同様の時代を与えてもよいが、遺物の出土もなく、3住より調査面積が狭い住居址であるため、これ以上は追究できなかった。	弥生後期?	

第2表 2次住居址一覧表

図No.	地区	平面形	規模(cm)		床面積(m ²)	長軸方位	炉形態		主柱穴	遺構所見	時期
			長軸×短軸×深さ				種類・位置				
5住	A	円形	454×(432)×26		17.0	N-22-E	地床炉 2基 中央径40cm 1基火床面がドーナツ状	4基 P3・6・8・12	7住を切る。2基ある地床炉は切りあ関係を持ち、焼土の残存状況と覆土の堆積状況から炉2を作り替えて炉1を構築したと考えられる。炉1と切りあ関係をもつP10は恐らく炉1・2使用時の炭化物廃棄坑と思われる。炉址の西側で甕(416)が、北側では小型壺(404)が、両者とも横たわった状態で出土。北壁からは置碓石(96)が出土している。Pitは総数14基検出されたが、P2・4・7・9・11の5基は極めて浅く、窪みに堆積した覆土と考えられるため、欠番とした。	弥生中期後半	
6住	A	不明	260×(138)×13		3.2	N-6-W	地床炉 2基 中央径40cm	不明	7住を切る。炉址は2基とも壁面で検出された。礫等が出土しなかったことから地床炉と推測した。おそらく、他址と同様の規模を持つ炉址であろう。ピットは3基検出されたが、柱穴と認められるものはなかった。P3は比較的大きいが、浅く性格は不明である。	弥生中期後半	
7住	A	不明	160×80 (硬化面範囲)		1.3	不明	不明	1基 P2	6住に切られる。大半が調査区外で、5住・6住に切られ遺構の上端はわからなかったが、硬化面は平面及び断面において明確に捉えることができた。床面を削いだところで柱穴が1基検出された。P1からは多量の炭化材検出されており、炉址の存在が考えられるが、炉址自体は検出されなかった。	弥生中期後半	

第3表 1次掘立柱建物址一覧表

(数字)は推定値、<数字>は残存値

No.	図No.	地区	平面形 柱配り	主軸方位 面積(m ²)	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴			炉 形態・ 位置	備考	時期
							平面形	規模(cm)	柱痕			
1		A	方形 側柱式	N-87-W 7.8	3間×1間 344×224	桁行120~160 梁間220~240	方形 円形	30~40		地床炉・中央	地床式建物址、または堅穴式住居址を重機掘削の際に削平したか。	弥生中期後半?

第4表 2次平地式建物址一覧表

No.	図No.	地区	平面形	主軸方位 面積(m ²)	規模 (cm)	柱間寸法 (cm)	柱穴				炉 形態・ 位置	備考	時期
							平面形	主柱穴	支柱穴	柱痕			
1		B	八角形	N-84-W 検出面積 12.04 全体推定 (25)	542×(284)	170~250	円形 一部楕円	P31・33・42・48	±15・P34・37 P41・50・49	有	地床炉・中央 3基	壁面観察において掘り込みを持たないことを確認している。柱穴と炉址のみが検出されたため、平地式建物址とした。	弥生中期後半?

第5表 礫床木棺墓一覽表

墓No.	平面形	礫範囲規模(m)			礫集積		礫床厚み(cm)	土坑規模(m)					推定木棺規模(m)		主軸方位	埋葬頭位	時期
		長	幅	礫範囲面積(m ²)	土坑周囲	木棺周囲		長	幅	上端~礫床比高(平均)	土坑面積(m ²)	床面積(m ²)	長	幅			
1	長方形	2.6	1.4	3.64	四方	あり	7	2.3	0.8	0.05	1.84	1.54	1.6	0.5	N-4-E	北or南	弥生中期後半
2	長方形	2.7	1.5	4.05	四方	あり	15	2.3	1.0	0.18	2.30	1.79	1.6	0.6	N-6-E	北or南	弥生中期後半
3	長方形	2.3	1.2	2.76	両端	なし	10	2.2	1.0	0.04	2.20	1.80	1.8	0.7	N-89-E	東or西	弥生中期後半
4	長方形	2.8	2.1	5.88	四方	あり	30	2.6	1.6	0.20	4.16	2.99	1.5	0.7	N-95-E	東or西	弥生中期後半

第6表 1次土坑・ピット一覽表 <数字>残存値

	No.	平面形	規模(cm)		備考	
			最大長×幅×深			
土坑	1	楕円	128×92×24		墓址か	
	2	長方形	156×94×16		墓址か	
	3	楕円	86×34×22			
	4	円	50×50×13			
	5	楕円	260×200×11			
	6	楕円	108×70×15			
	7	楕円	〈110〉×〈40〉×〈24〉		調査区外にかかる	
	8	楕円	260×110×6			
	12	楕円	100×70×15			
	ピット	1	円	43×36×9		建1 炉
		2	円	22×22×8		
		3	円	35×30×10		
6		円	22×18×22			
7		円	17×15×15			
8		円	50×40×9			
9		円	40×30×21			
10		円	42×32×12			
11		円	48×34×11			
12		円	44×34×10			
13		楕円	70×50×9			
14		円	24×20×-			
15		円	22×21×-			
20	円	70×52×5				
21	楕円	36×26×14				
22	円	26×24×26		建1 柱穴		
23	円	30×24×15		建1 柱穴		

第7表 2次土坑・ピット一覽表

	No.	平面形	規模(cm)		備考	
			最大長×幅×深			
土坑	1	楕円	64×30×11			
	2	楕円	44×34×7			
	4	不明	〈28〉×〈28〉×〈22〉		P27に切られる	
	5	楕円	38×24×52		柱穴か	
	6	円	50×42×30		柱穴か、検出面で囊出土	
	8	円	36×33×32			
	12	円	28×26×29			
	14	円	〈60〉×〈38〉×32		P26に切られる	
	15	円	54×54×42		平建1の柱穴	
	16	楕円	184×130×89		平安時代の井戸址	
	ピット	1	円	28×28×26		
		2	円	28×26×25		
		5	円	20×20×21		
		6	円	24×23×27		
		7	円	34×30×33		
		8	円	30×24×22		
9		円	22×22×24			
11		楕円	36×24×30			
15		円	24×24×20			
16		円	12×〈12〉×12			
19		円	26×24×26			
20		円	22×20×26			
21		円	24×22×20			
23		円	24×24×19			
24		円	16×16×6			
25		円	〈14〉×〈10〉×24			
26		円	12×16×18		土14を切る	
27		円	40×32×16		土4を切る	
28		円	36×33×7			
30		円	20×18×8			
31		円	28×〈20〉×27		平建1の柱穴	
32		楕円	47×〈30〉×10			
33		円	20×19×12		平建1の柱穴	
34		楕円	38×28×24		平建1の柱穴	
35		楕円	38×34×16			
36		円	21×19×7			
37		円	22×18×33		平建1の柱穴	
38		円	35×34×8		平建1の炉址	
39		円	33×33×10		平建1の炉址	
40		円	〈36〉×34×8		平建1の炉址	
41		円	26×22×34		平建1の柱穴	
42		円	40×〈32〉×60		平建1の柱穴、底面で土器出土	
44		楕円	32×24×9			
48		円	18×18×14		平建1の柱穴	
49	長楕円	42×20×25		平建1の柱穴		
50	楕円	50×28×25		平建1の柱穴		

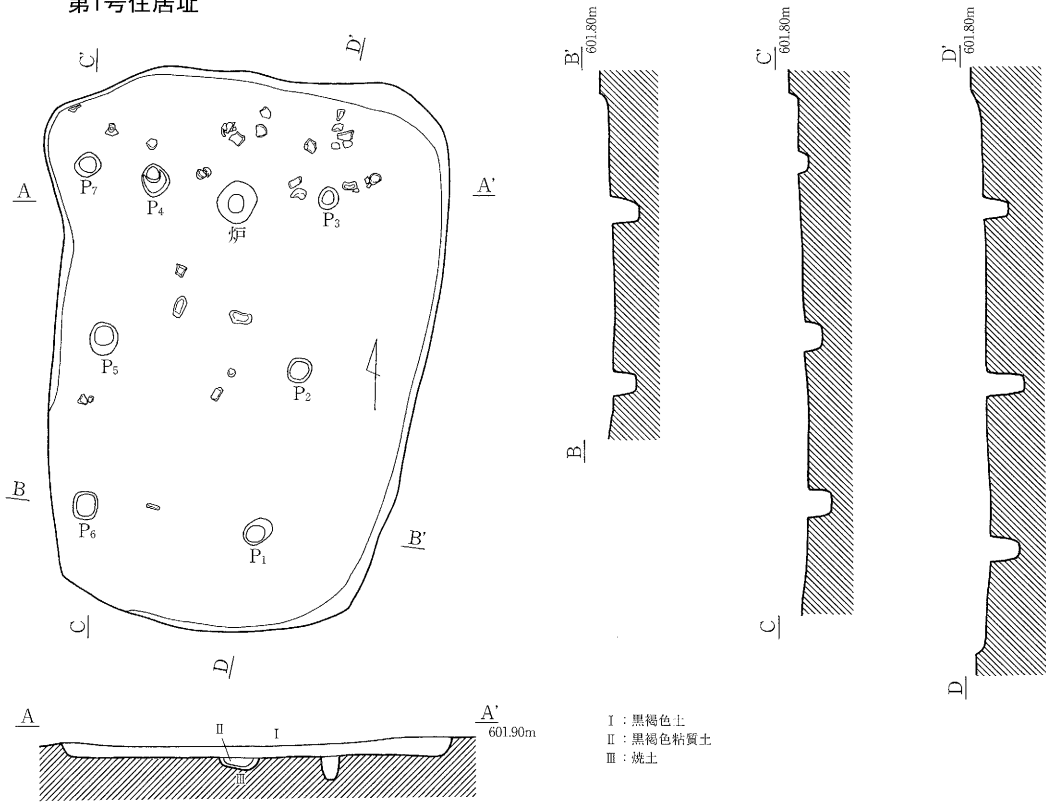
第8表 1次溝状遺構

No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-45-W	240×14×4		

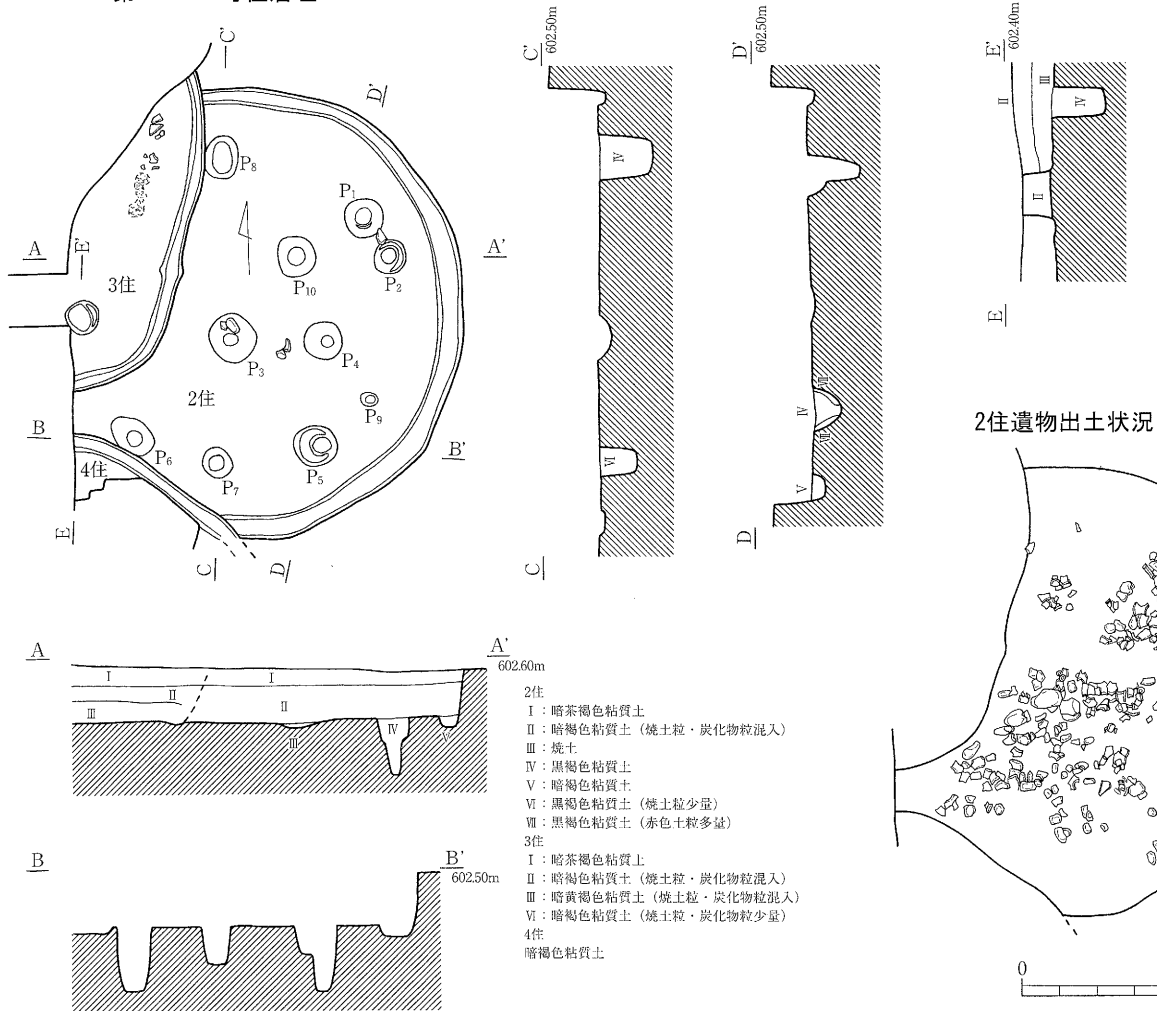
第9表 2次溝状遺構

No.	方向	規模(cm)	長×幅×深	備考
1	N-35-W	445×30×10		5住に切られる
2	N-84-E	200×17×7		2・3・4は平行に走る。
3	N-84-E	540×22×10		
4	N-84-E	540×35×11		

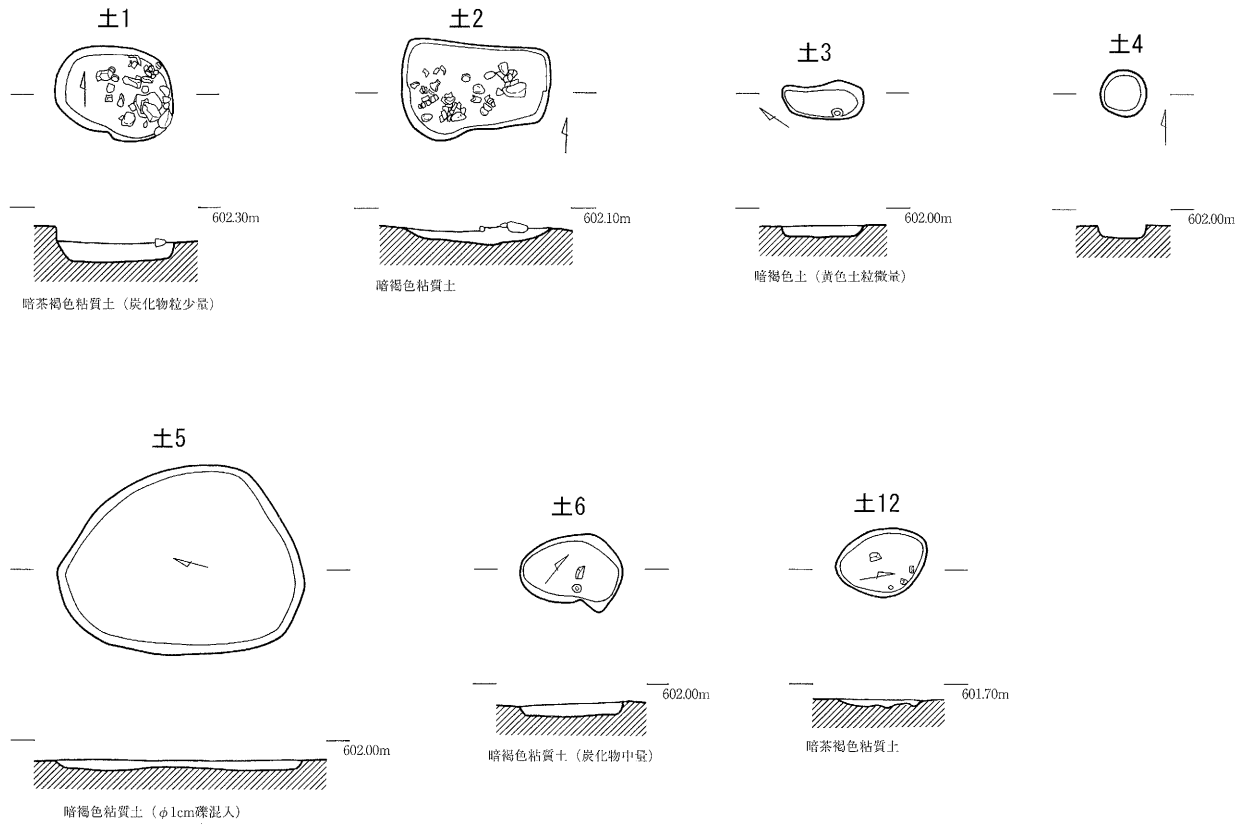
第1号住居址



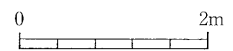
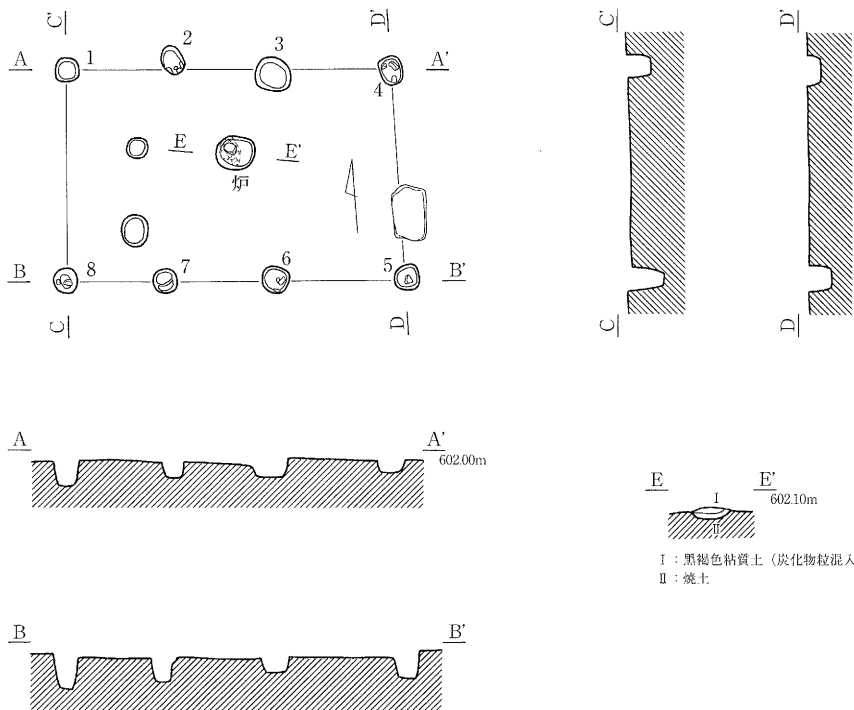
第2・3・4号住居址



第8図 1次遺構(1)

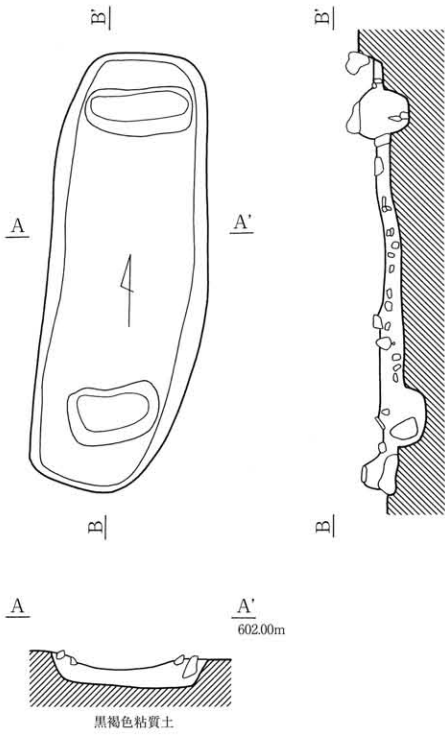


第1号掘立柱建物址

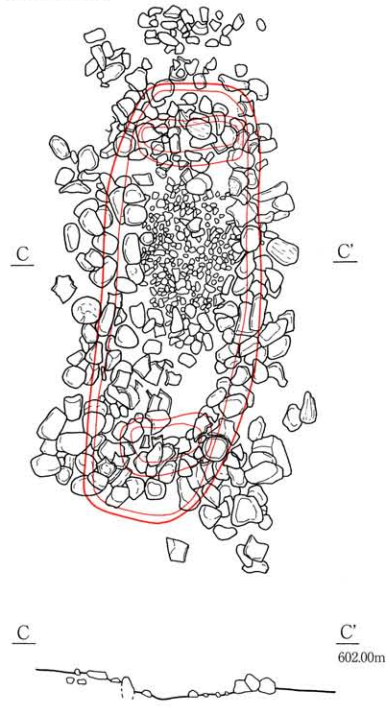


第9図 1次遺構 (2)

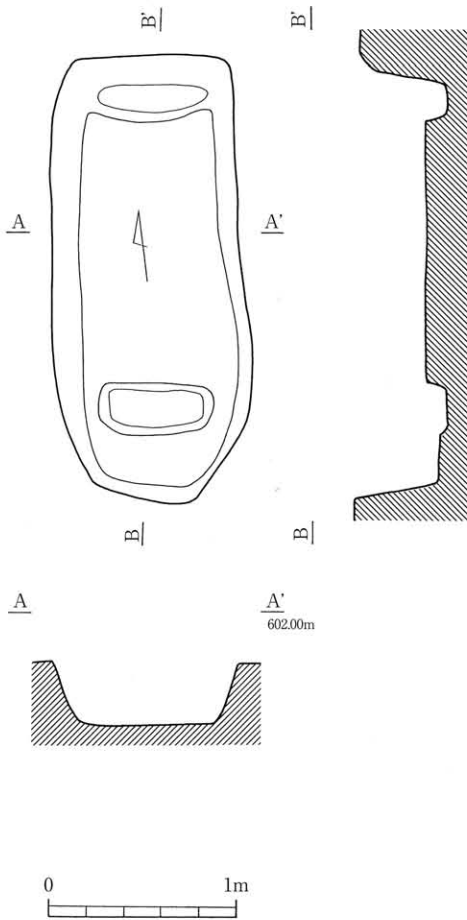
墓 1



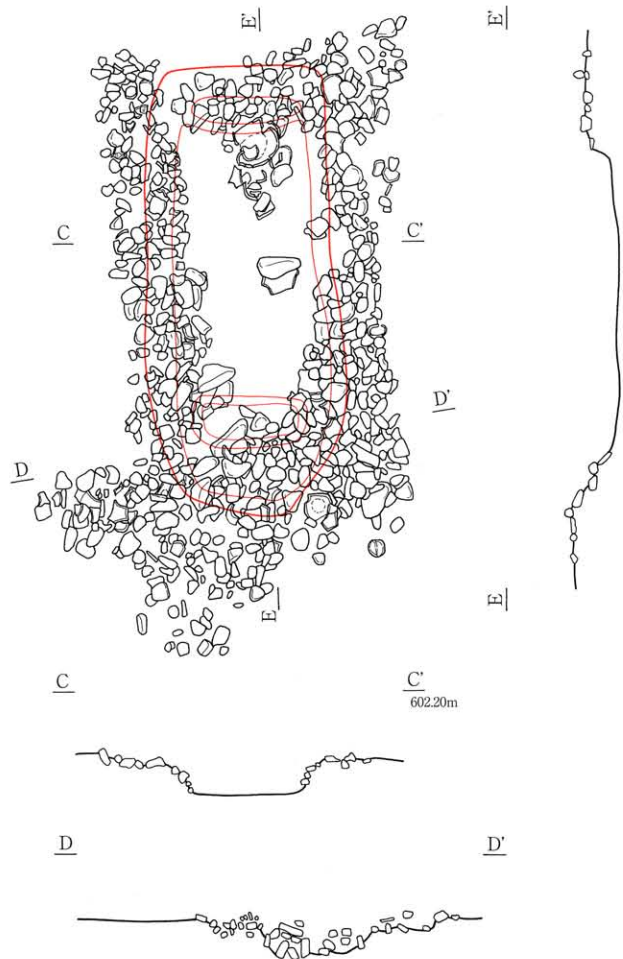
磔出土状況



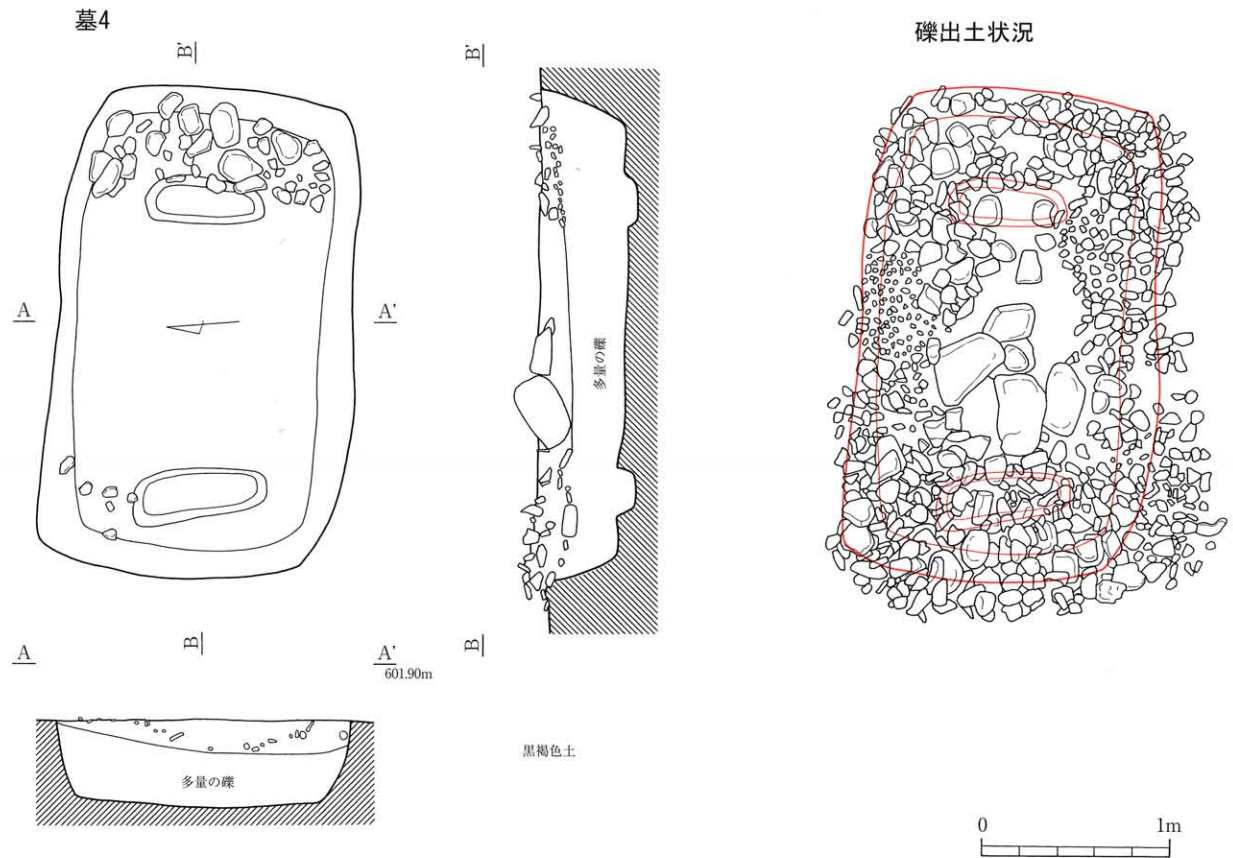
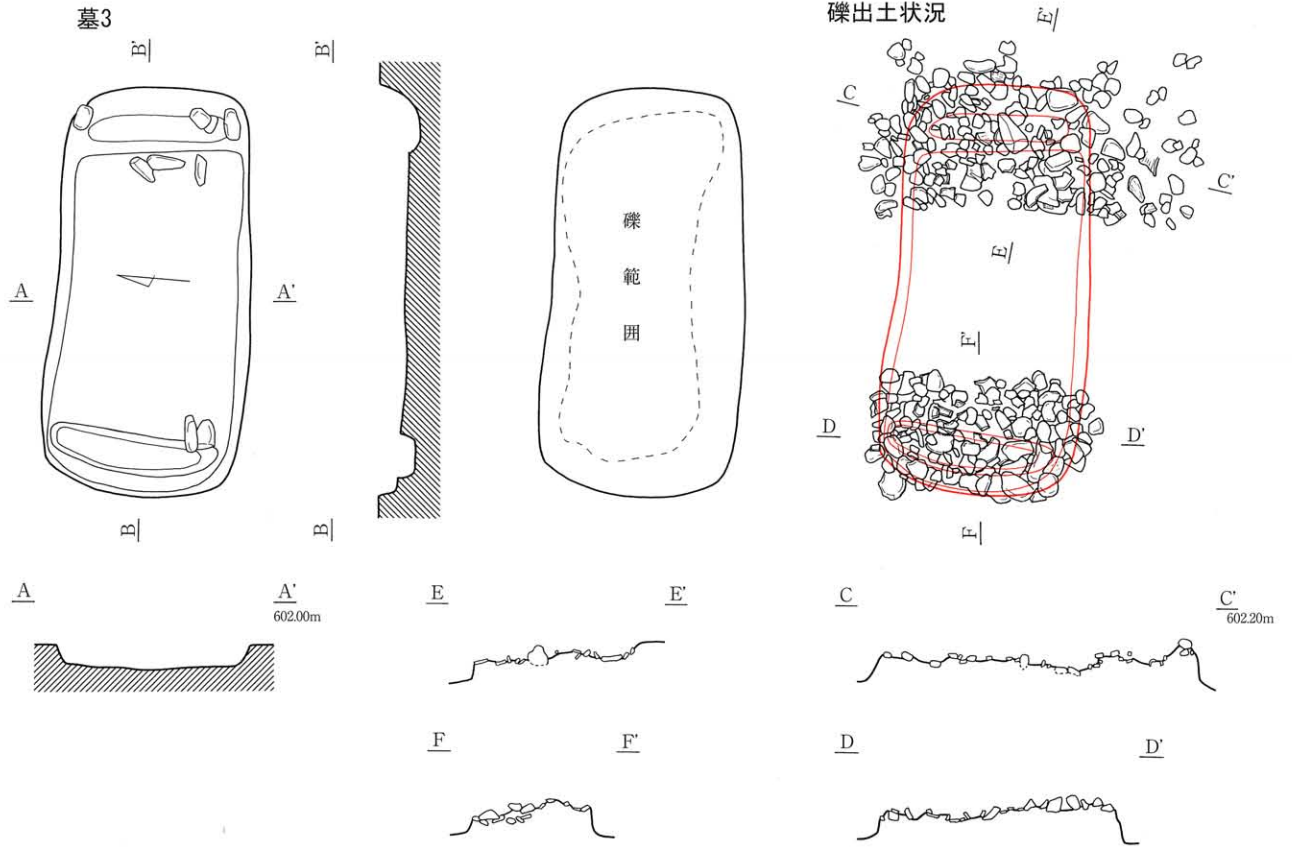
墓 2



磔出土状況

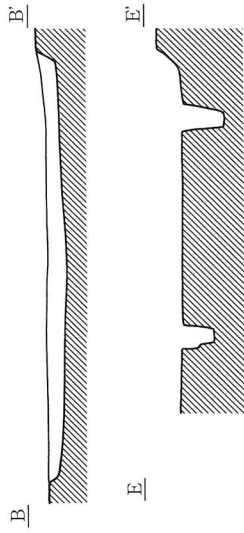
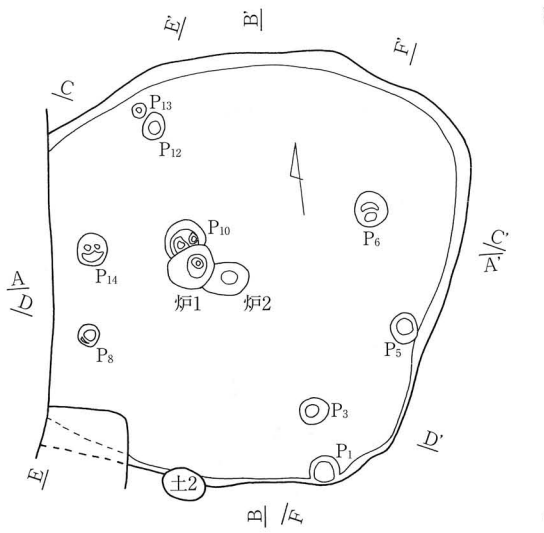


第 10 図 1 次遺構 (3)

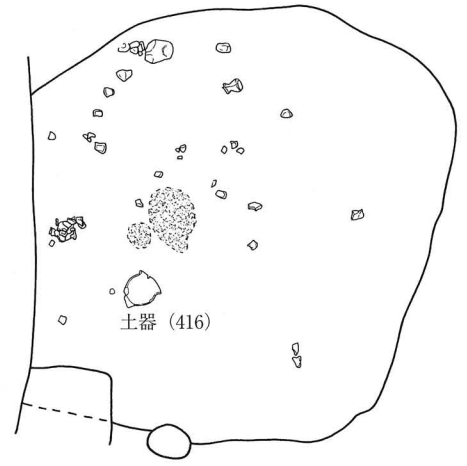


第11図 1次遺構 (4)

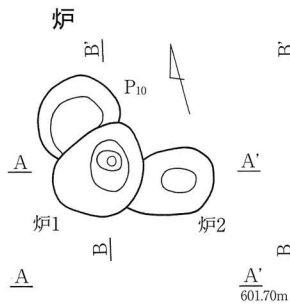
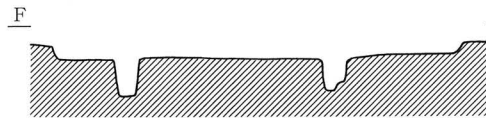
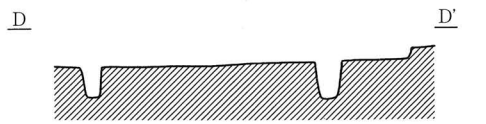
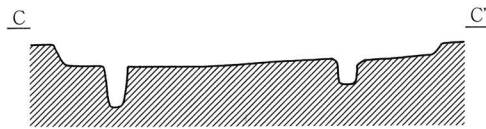
第5号住居址



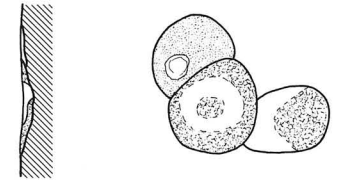
遺物出土状況



暗褐色土 (白色石粒多量 灰色土塊少量 炭微量)



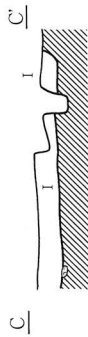
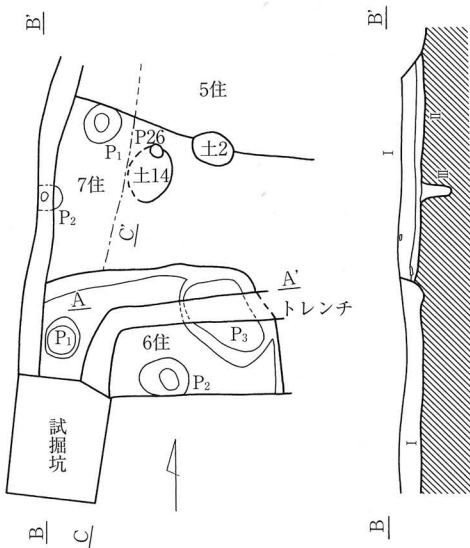
炭・焼土出土状況



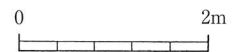
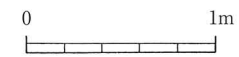
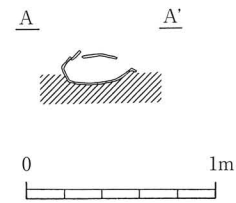
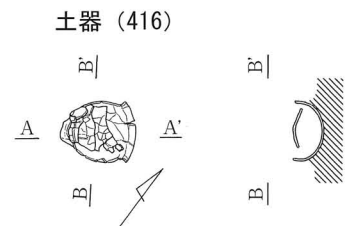
炉1 暗灰色粘質土 (炭化物少量)
炉2 暗褐色粘質土 (炭化物・褐色砂粒微量)



第6・7号住居址

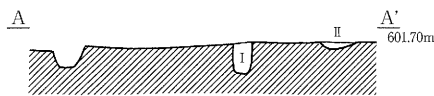
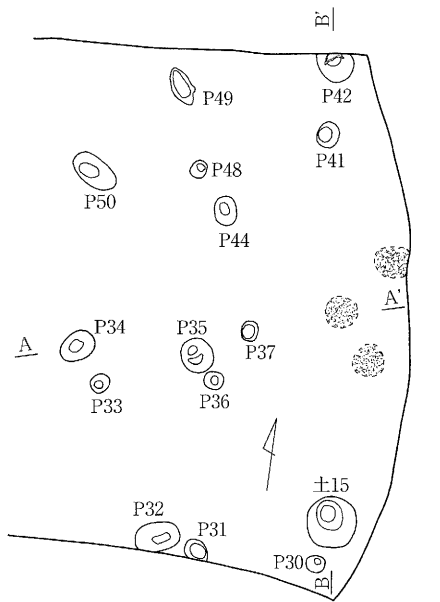


6住
I: 黒褐色土 (褐色土粒多量 黄褐色土粒少量)
II: 暗褐色土 (白色石粒多量 褐色土粒少量)
7住
I: 黒褐色土 (白色石粒少量 褐色土塊多量 黄褐色土粒微量)
II: 黒色土 (褐色土塊が帯状に入る)
III: 暗褐色土

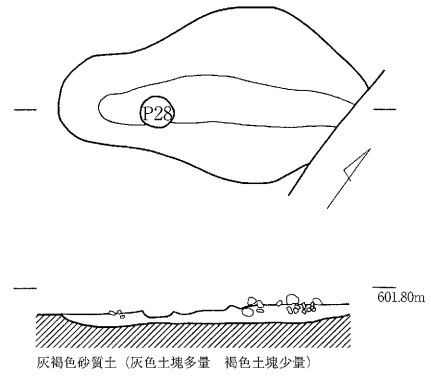


第12図 2次遺構(1)

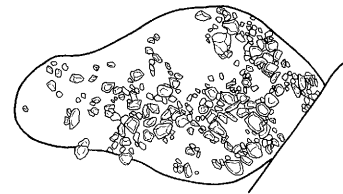
第1号平地式建物址



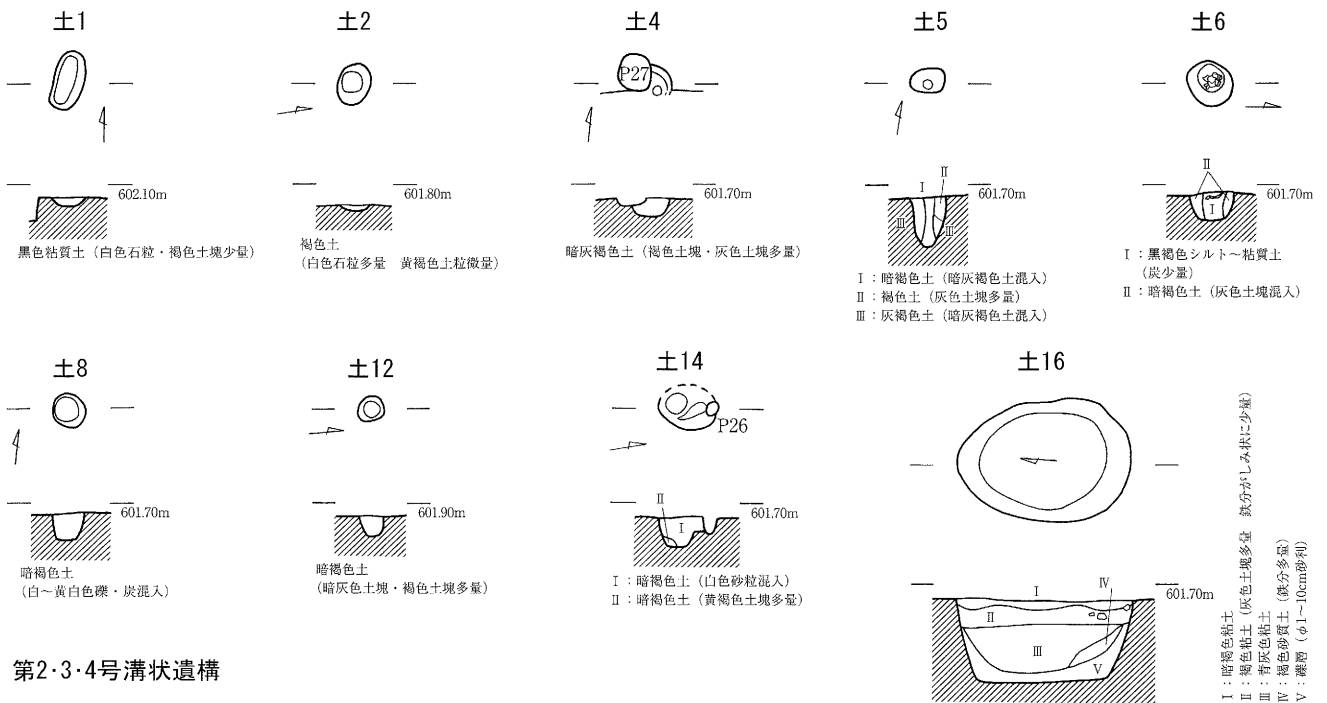
第1号集石遺構



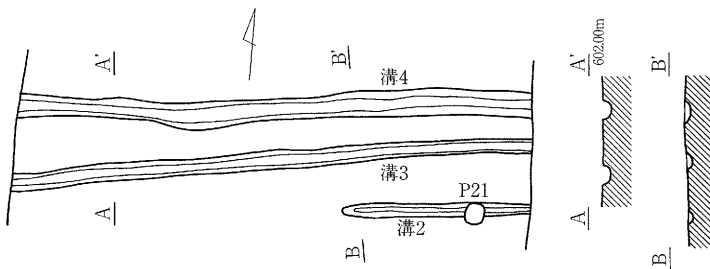
礫出土状況



- I: 灰褐色粘質土 (褐色土塊多量 灰色土塊・黒色土塊少量)
- II: 焼土
- III: 暗褐色粘質土 (黄褐色土粒・炭微量)
- IV: 灰褐色土 (暗褐色土塊多量 灰色土塊少量)
- V: 暗褐色土 (褐色土粒微量)
- VI: 黒褐色土 (φ1~10cm礫多量 褐色土塊・灰色土塊少量)
- VII: 暗褐色土 (褐色土塊多量)
- VIII: 暗褐色粘質土 (褐色土粒少量)
- IX: 褐色土 (黄褐色土粒少量 暗褐色土塊微量)

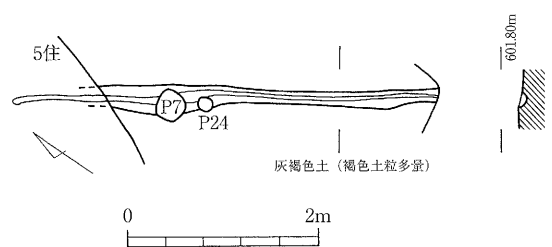


第2・3・4号溝状遺構



- 溝2 灰褐色土 (褐色土粒多量 白色石粒微量)
- 溝3 暗灰色土 (黄褐色土粒微量 白色石粒少量)
- 溝4 褐色土 (暗灰色土塊・灰色土粒多量 白色石粒少量)

第1号溝状遺構



第13図 2次遺構 (2)

第3節 遺物

1 土器・土製品（第14～24図、第10表）

出土土器・土製品の総量は1次調査243.8kg、2次調査24.7kg、計268.5kgである。内訳は、多量の弥生土器と微量の縄紋土器片、古墳時代の土師器、数点の土製品に区分される。弥生土器のほとんどは弥生時代中期後半から中期末に属するもので、わずかに弥生時代後期のものが混じっている。接合、図化実測できたものは458点で、これらを中心にして土器様相を観察した。

(1) 縄紋土器

図化できたものはないが、厚手で条痕状の沈線が窺える。縄紋時代中期末葉に属すると考える。弥生時代の包含層形成以前に該期の遺構か生活痕があったのか、氾濫等で流入したものかの判断はつかない。

(2) 弥生土器

ア 器種・器形

壺形土器（以下「形土器」は省略する。）、甕、高杯、鉢、甑がある。壺と甕は図化できた個体数が多く、口縁部形態で分類が可能である。壺Aと甕Aは口縁が外反、壺Bと甕Bは受け口や有段口縁を呈す。壺、甕の紋様には櫛描紋と篋描紋があり、高杯、鉢は赤彩が施される。

イ 時期

中期後半～中期末

ほとんどの弥生土器がこの時期に属する。器種・器形、形態、紋様構成などは土器型式では従来、栗林式土器と呼称されているものに等しい。紋様等からみると全体的に壺に櫛描紋が多用されるなど栗林式の終末期に近い様相に相当すると考えるが、82や272、400など若干古い要素をもつものも散見される。本時期の土器は個々の器形、紋様から見ると当地域の該期の豊富な土器様相を示す良好な資料といえるが、一括性・同時性という点においては2住や5住、墓址当の限られた遺構出土品を除き後述のとおり残念ながら参考資料にすぎない。

後期

5、16、18、36、128、325、372が該当する。128は壺の頸部破片であるが、後期に特徴的な櫛描紋であるT字紋が変化したJ字紋が認められる。16、36は甕で口縁部が長く伸びている点で中期のものとは区別できる。

ウ 土器群

遺構出土の土器群を考察することによって遺構の時期を探ることは通常の場合有効な方法であるが、今回の1次調査区は弥生時代中期後半～末の遺物を大量に含む包含層が全面的に発達しており、それ以降の遺構の覆土にも当該期の遺物が一緒に混入している。従って遺構から出土した土器群の総体的な様相をもって遺構の時期とするのは困難なものもある。しかし、遺物の出土地点を明らかにする必要性から各遺構出土土器群として提示し記述する。遺構の時期決定は出土土器の様相と遺構そのものの形態的特徴によって行った。

1 住出土土器群（第14・15図1～39）

第1号住居址覆土とその上部の包含層から出土（1～22）、本址周囲の包含層から出土（23～39）したものである。ほとんどが弥生時代中期後半のものであるが、16、36に弥生後期の甕がみられる。大半を占める中期後半のものは出土状況から本址の埋没時期を示しているとは考えられない。

2 住出土土器群（第15～17図40～115）

第2号住居址の覆土、床面から出土した。出土状況から明らかに本址に帰属するものであり、非常に良好な一括資料と認められる。器種組成は高杯、鉢、壺、甕、台付甕で構成され、当地域での弥生中期後半～末の土器様相、紋様構成等をよく示している。

5 住出土土器群 (第 23・24 図 402～430)

第 5 号住居址の覆土、床面から出土し、その状況から明らかに本址に帰属する一括資料である。すべて弥生中期後半～末の土器である。

6 住出土土器群 (第 24 図 431)

総量は少なく、1 点を図化できたに過ぎない。弥生中期後半～末の土器と考える。

建 1 出土土器群 (第 18・19 図 141～189)

量は多く、柱穴範囲内、柱穴範囲に隣接、柱穴範囲周辺の各包含層から出土した。すべて弥生中期後半～末に属する。包含層出土品であり出土状況も決定的なものはないが、本址の帰属時期を示すものと捉えたい。

土坑出土土器群 (第 18 図 116～140)

1 次調査区の土坑 1・2 とその周辺及び 2 次調査区の土坑 6 から出土した。弥生中期後半～末がほとんどであるが 128 は後期の壺である。土坑 1 は底部穿孔の壺(117)を伴っており中期に属すると考えるが、他はすべて覆土、包含層出土品で、弥生中期後半～末がこれらの土坑の埋没時期を示しているかは定かではない。

墓 1 出土土器群 (第 20 図 206～223)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の土器である。南側の内部からは壺の大形破片(207・214・215)が出土している。

墓 2 出土土器群 (第 19 図 190～205)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の土器である。北側の内部に壺・甕の大形破片(197・203・205)が集中していた。

墓 3 出土土器群 (第 20 図 224～241)

上層と内部から出土した。すべて弥生中期後半～末の土器である。西側の礫集積に混じる様に集中して壺・甕・鉢の大形破片(224～228・230～235・238～240)が出土している。

墓 4 出土土器群 (第 20 図 242～257)

上層と内部から出土した。他の墓址に比べて小破片が多い。すべて弥生中期後半～末の土器である。

墓址周辺包含層出土土器 (第 21 図 258～324)

集中して存在する礫床木棺墓の周囲の包含層から多量に出土しているので、他の包含層と区別して図示した。すべて弥生中期後半～末の土器である。

包含層出土土器 (第 22・23 図 325～392)

遺構に伴わない包含層出土品を扱う。多量の出土があり、大半は破片だがまれに 385 のような一括品もある。弥生中期後半～末に属するものがほとんどだが、325、372 のような弥生後期の土器がわずかに混じっている。

(3) 土師器 (第 24 図 448・449・457)

2 次調査区古墳時代土器出土地点からわずかに出土し、3 点を図示できた。いずれも古墳時代前期から中期に属する壺の破片である。弥生中期後半～末の包含層を切り込んでこの時期の小規模な遺構が存在したか、何らかの生活痕跡があった可能性を示す資料といえる。

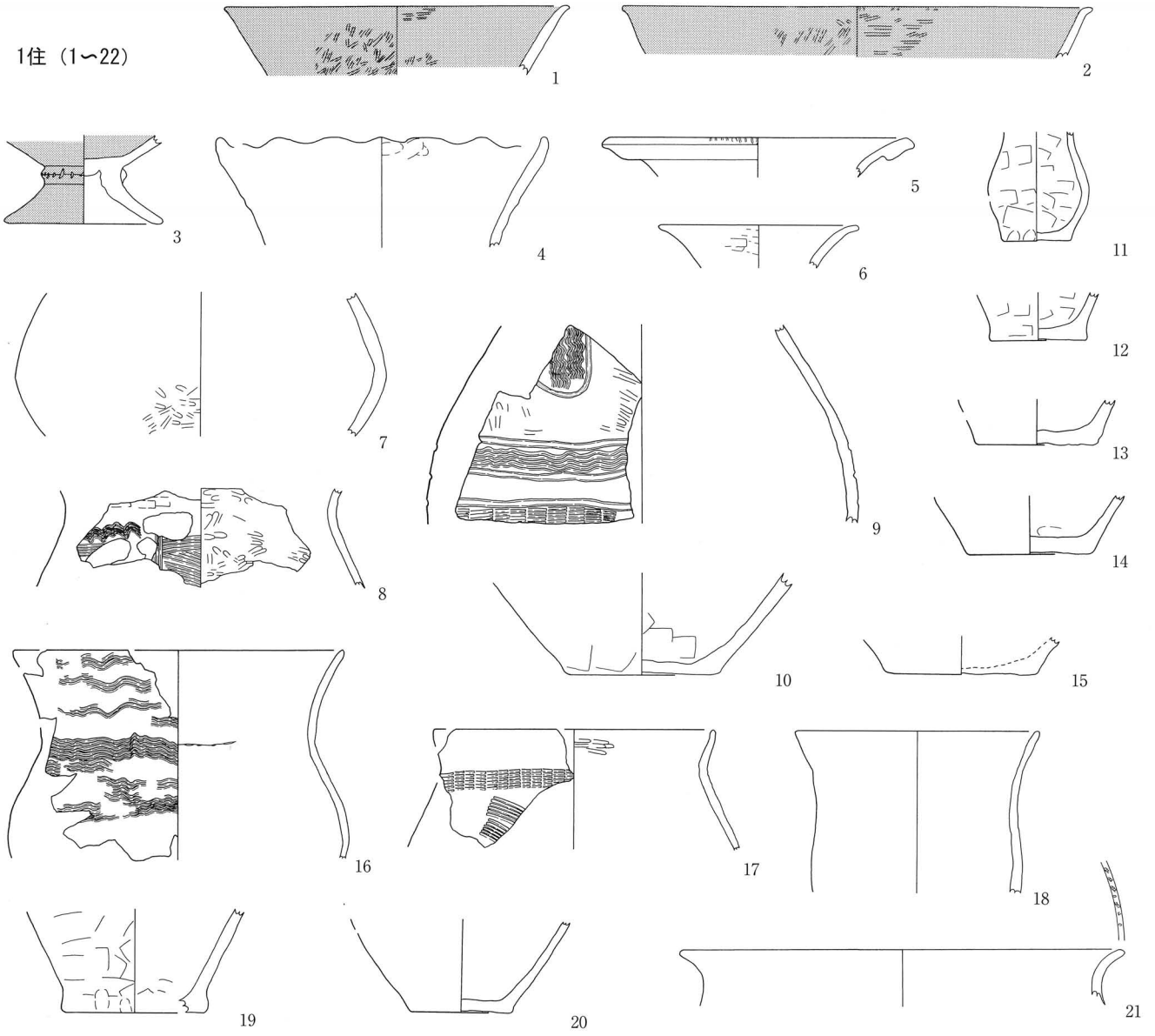
(4) 灰釉陶器

2 次調査区の土坑 16 から破片が出土したが図示していない。10 世紀代以降のものと考えられる。

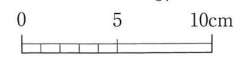
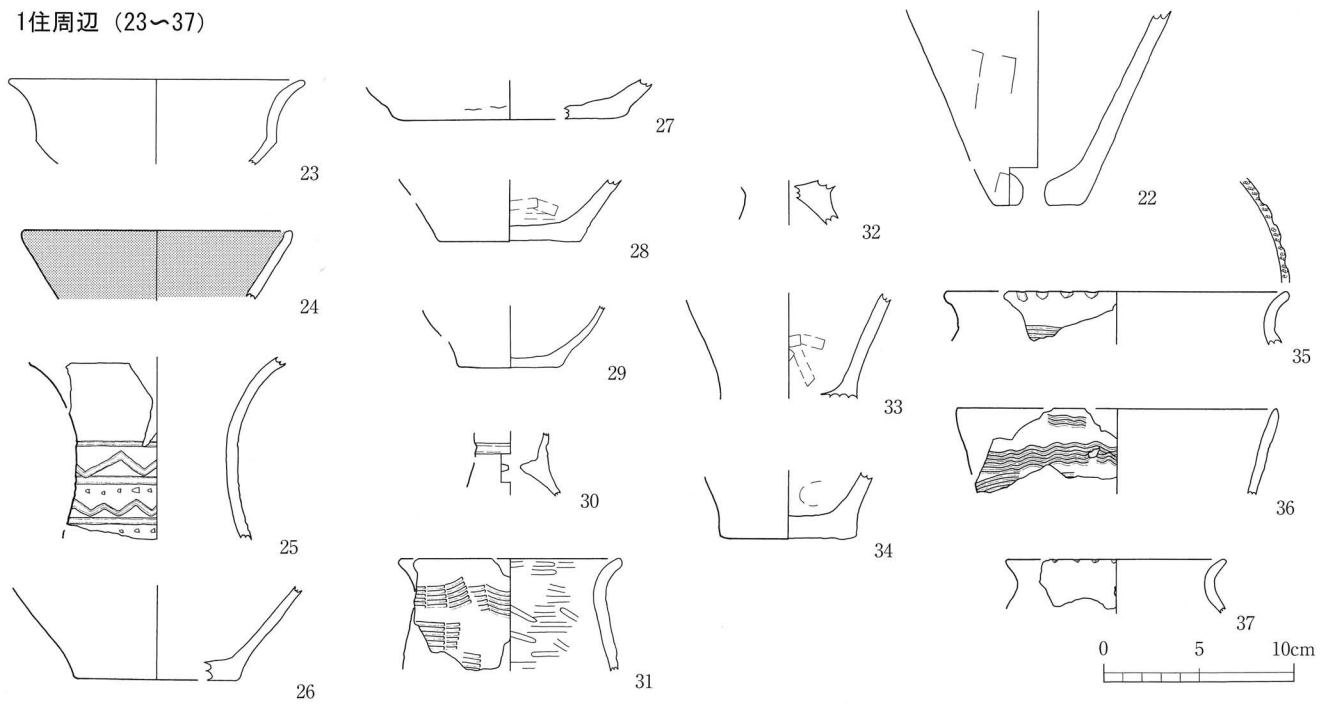
(5) 土製品 (第 17 図 108、115、第 20 図 241、第 21 図 289、第 22 図 344、第 24 図 430)

108 は 2 住の覆土中から出土した注口状土製品だが弥生土器に類例は少なく、本住居址出土土器群に伴うものは疑問である。115 も 2 住出土だが土器片を転用した土製円盤で紡錘車であろう。241 は耳飾状土製品で墓 3 から出土しており本址に伴うものである。289 の土製有孔土製品は外周を欠いているが焼成後の土器片に穿孔したとみられるもので有孔円盤の可能性もある。344、430 は用途不明の土製品である。

1住 (1~22)

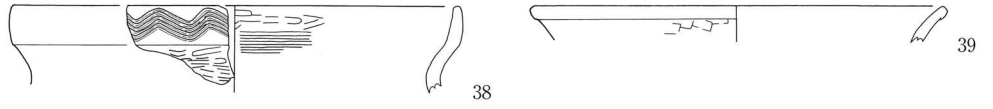


1住周辺 (23~37)

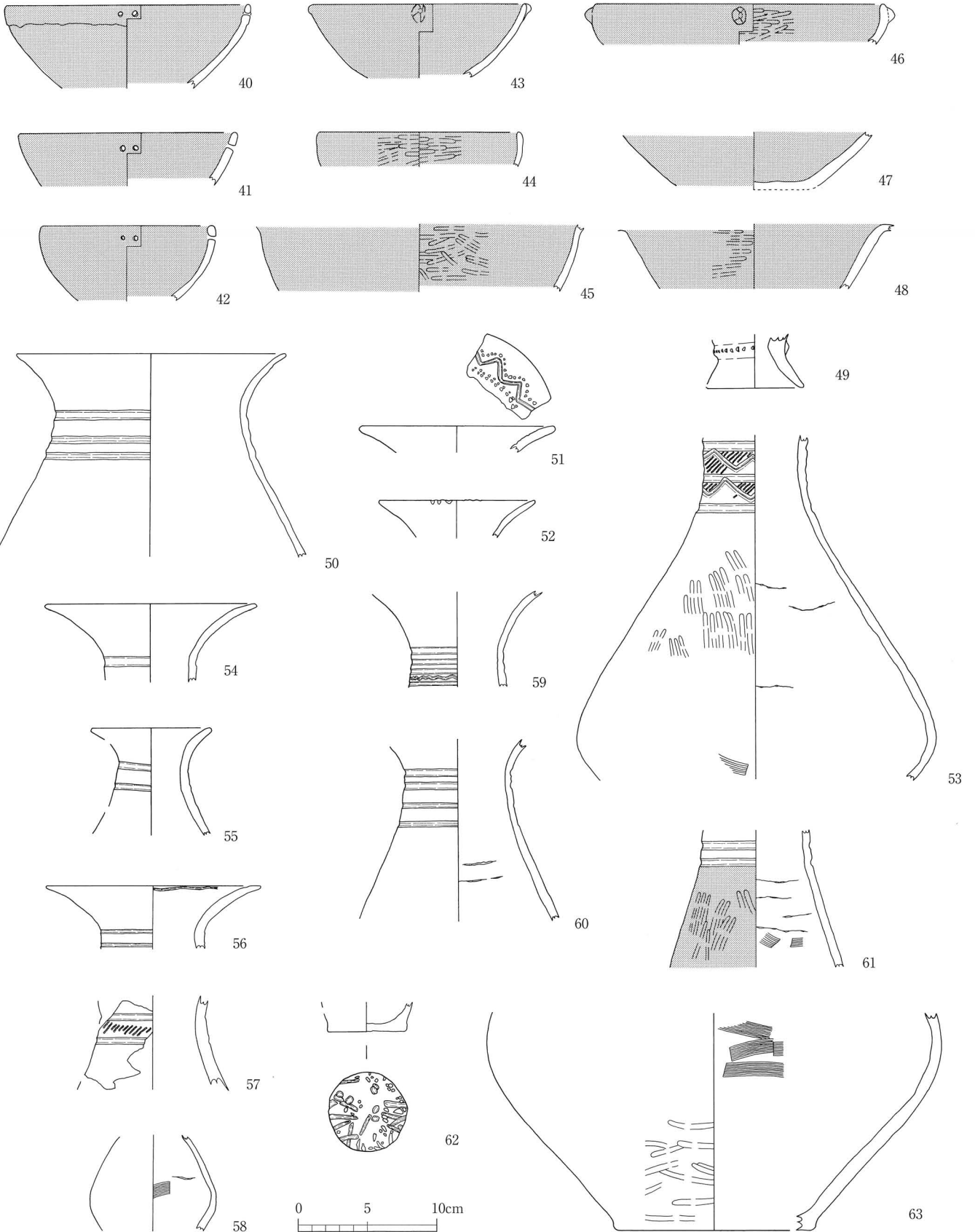


第14図 土器・土製品 (1)

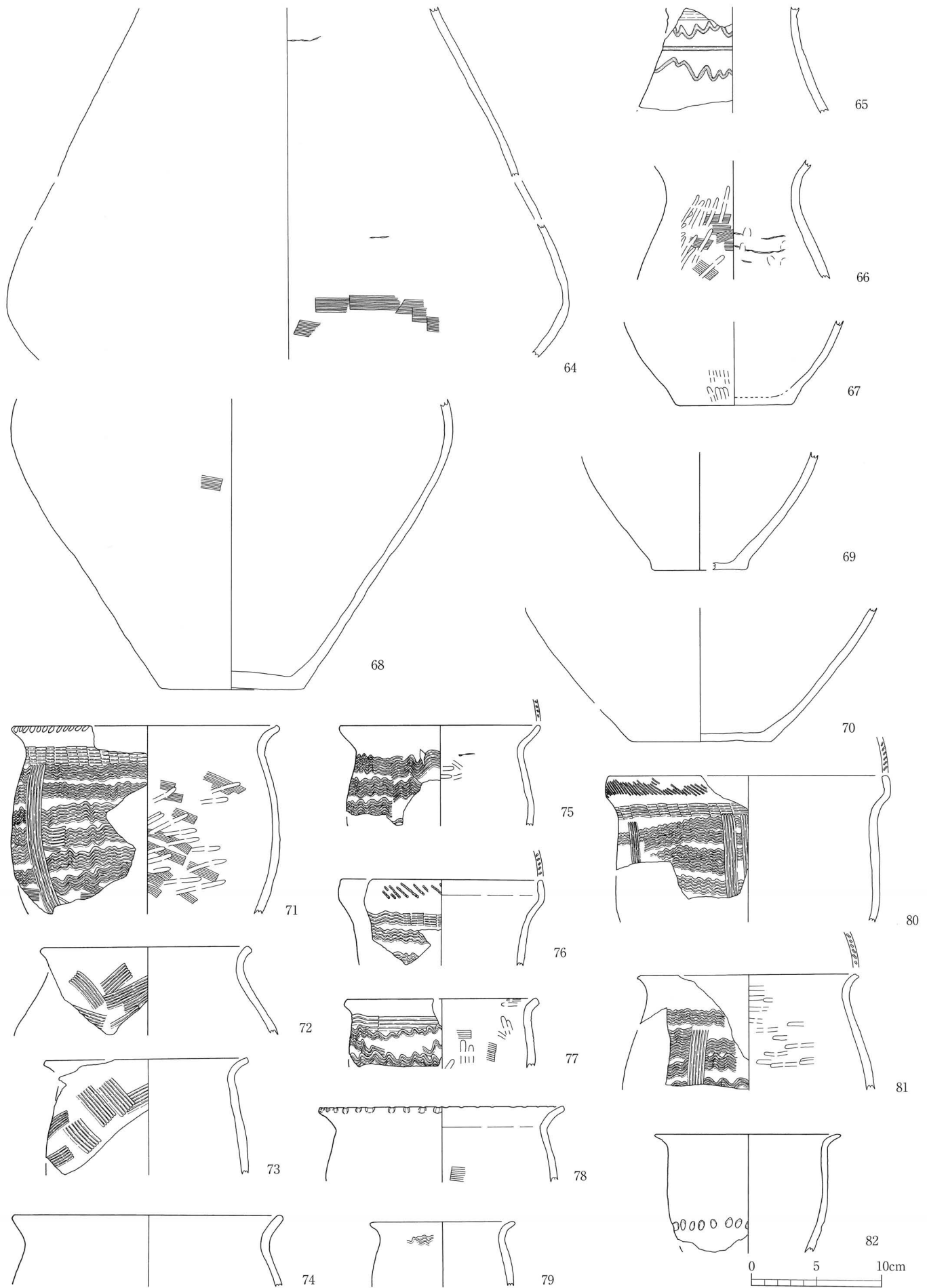
1住試掘トレンチ (38・39)



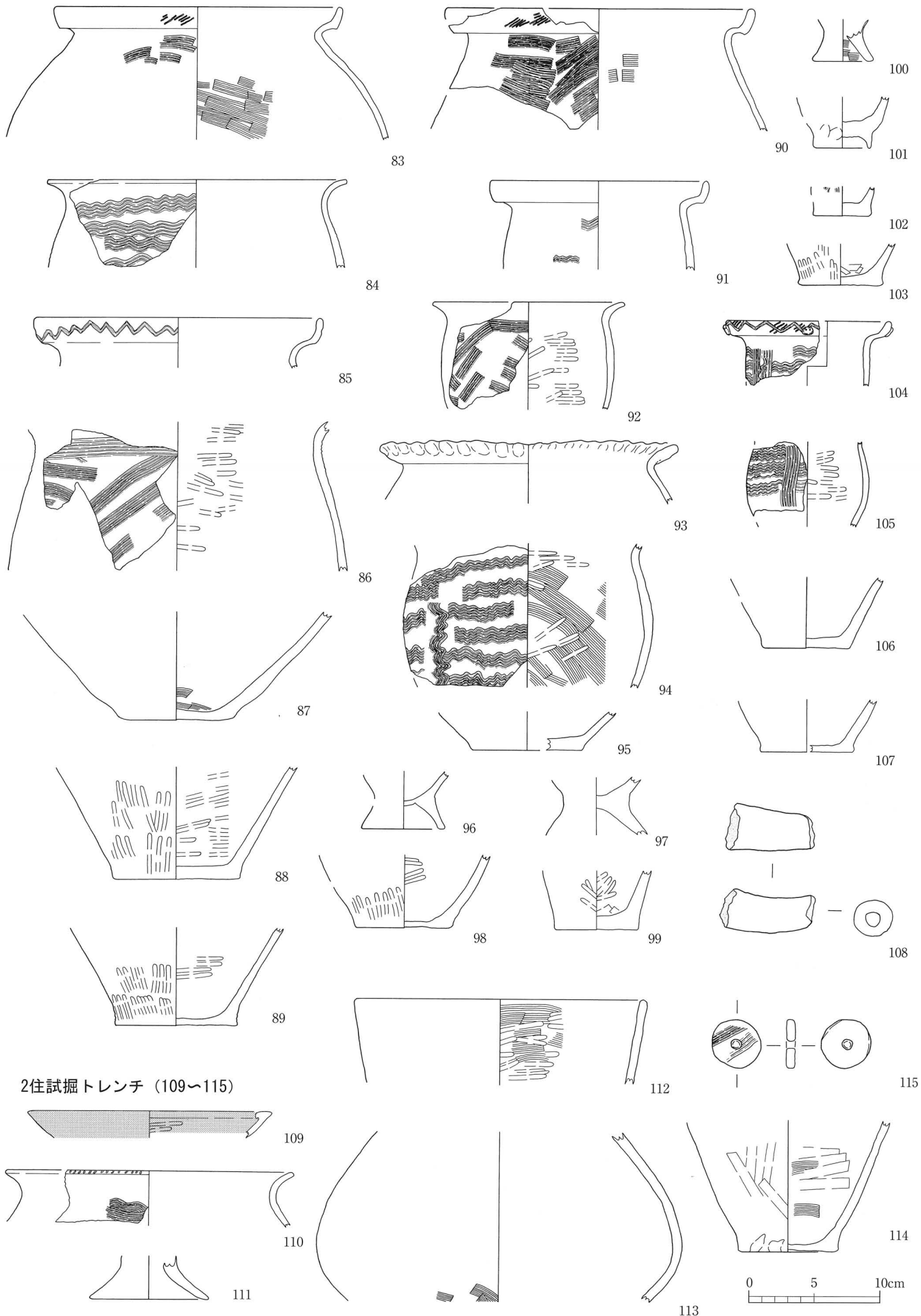
2住 (40~108)



第15図 土器・土製品 (2)

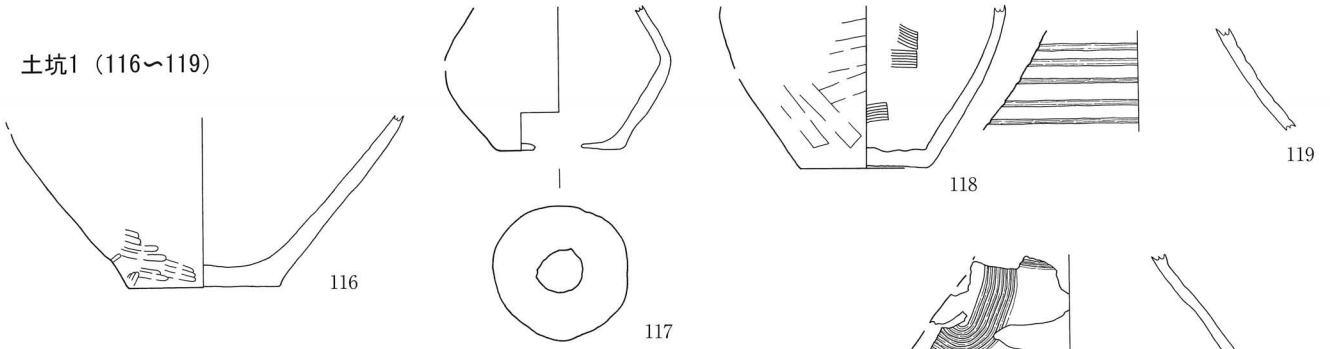


第 16 図 土器・土製品 (3)

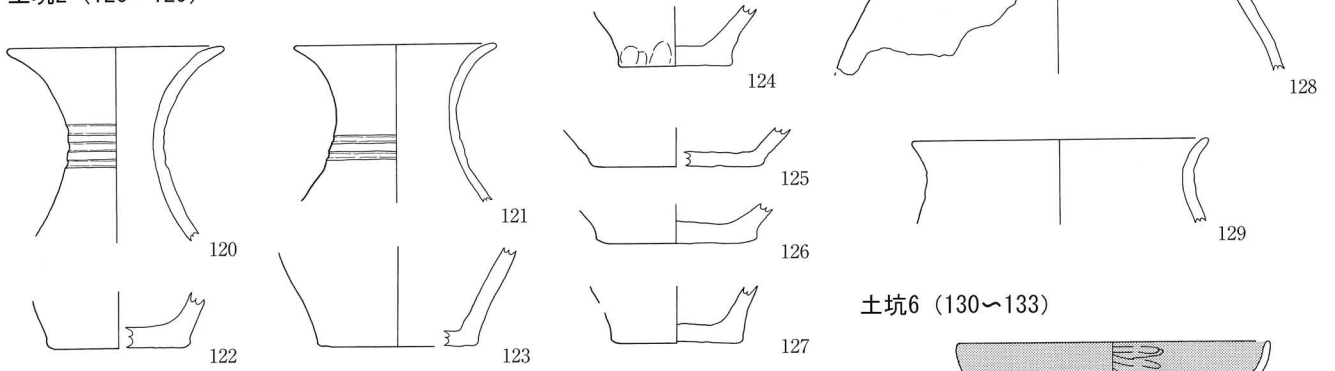


第 17 図 土器・土製品 (4)

土坑1 (116~119)

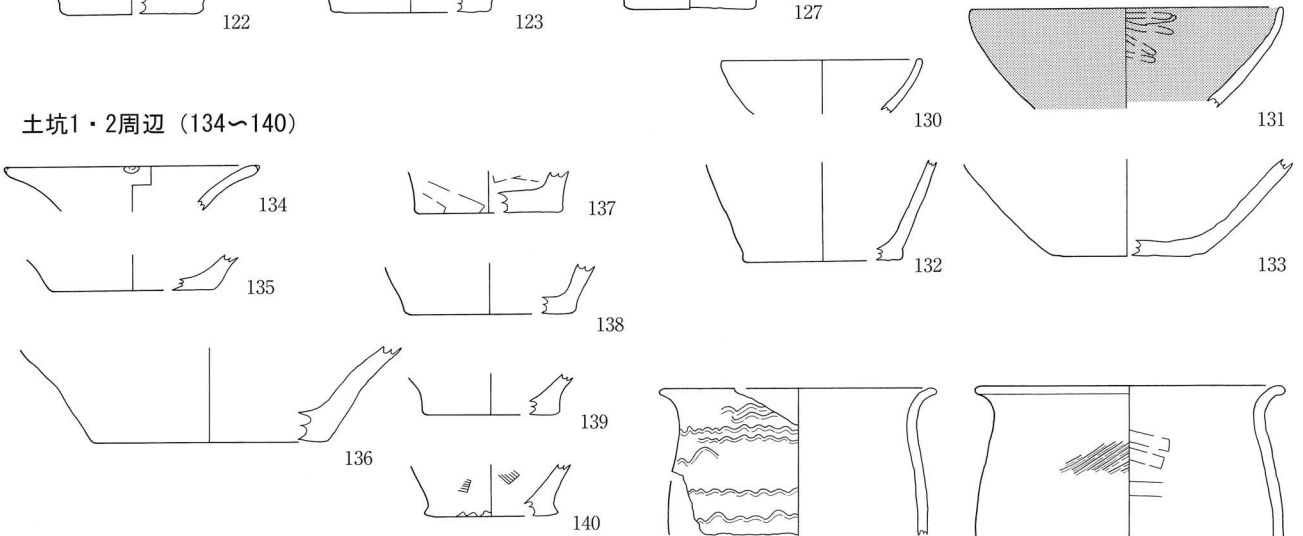


土坑2 (120~129)

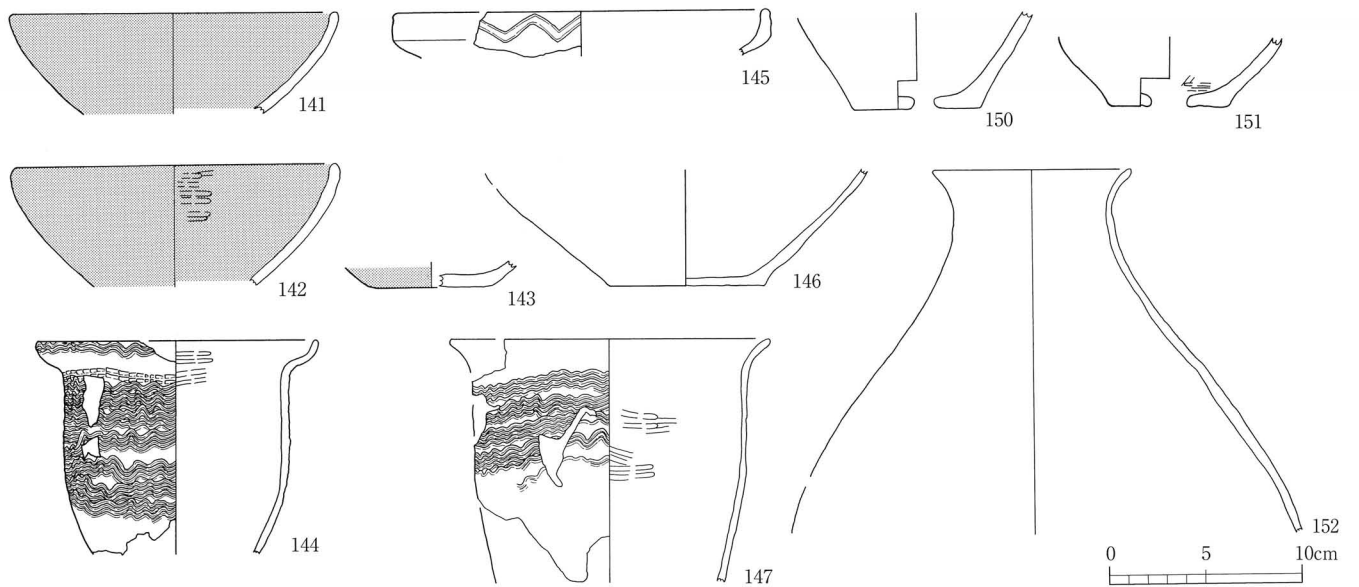


土坑6 (130~133)

土坑1・2周辺 (134~140)

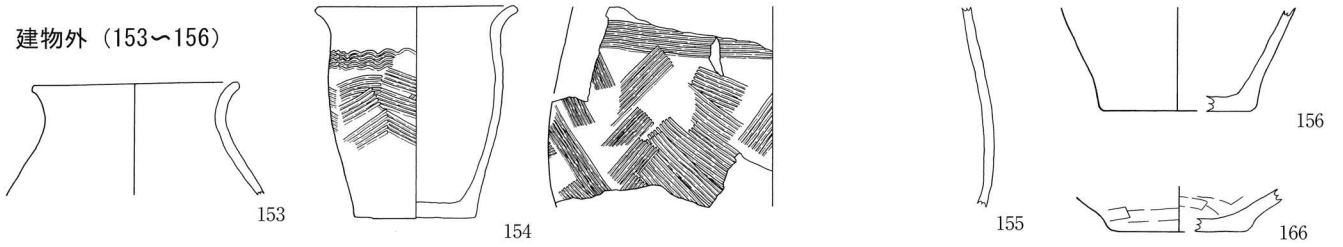


建物内 (141~152)

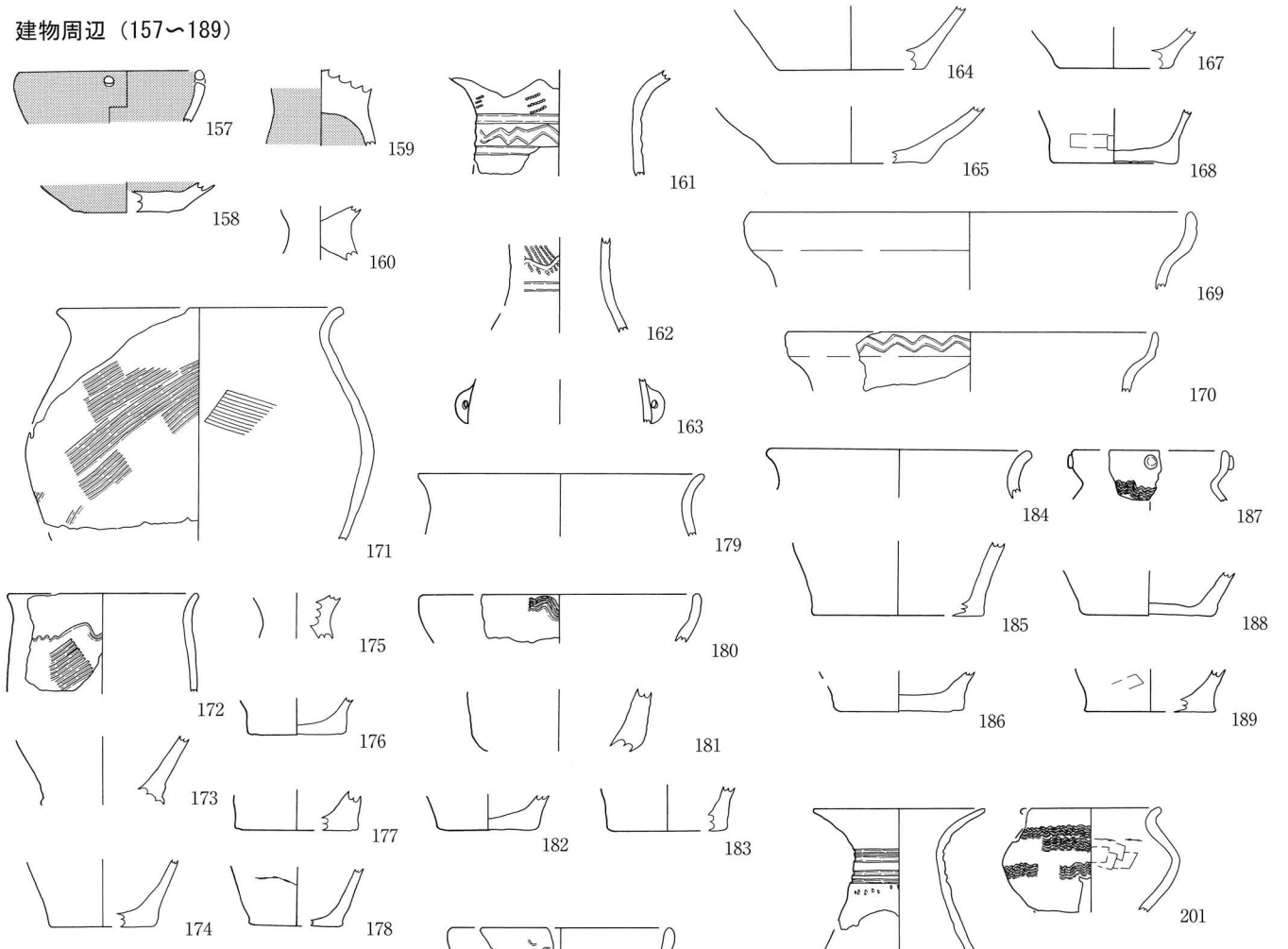


第18図 土器・土製品 (5)

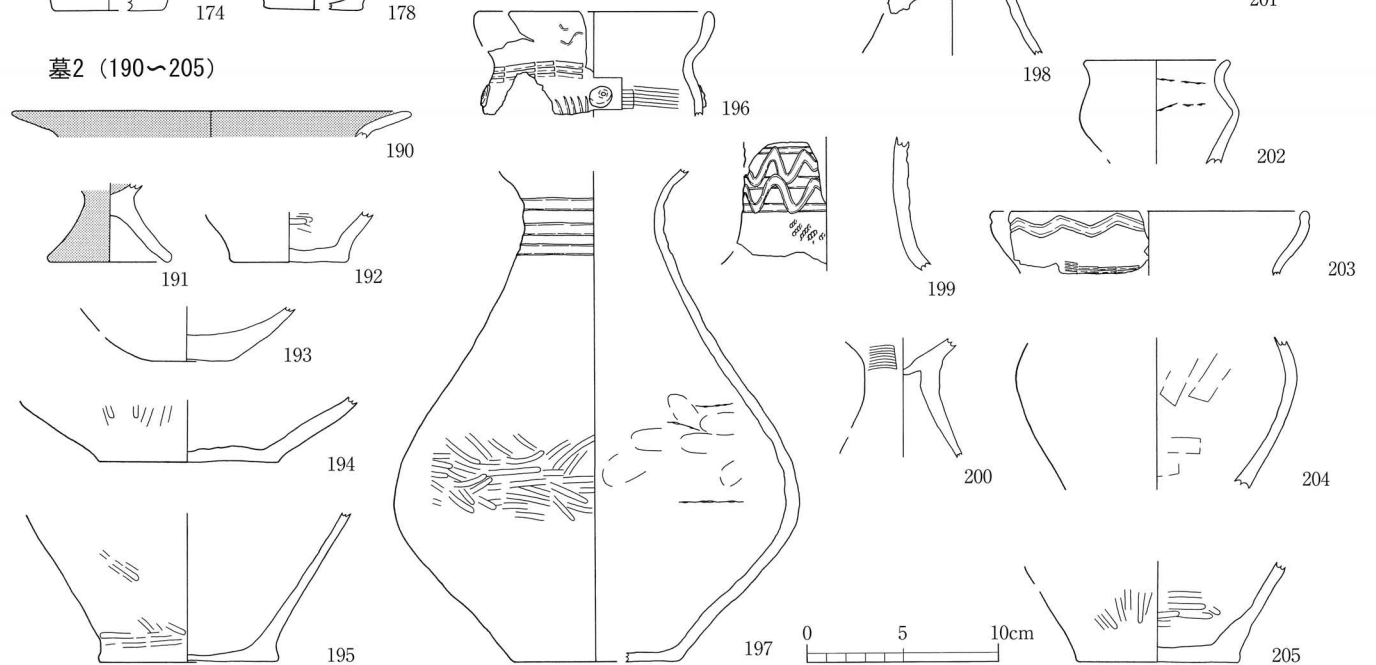
建物外 (153~156)



建物周辺 (157~189)

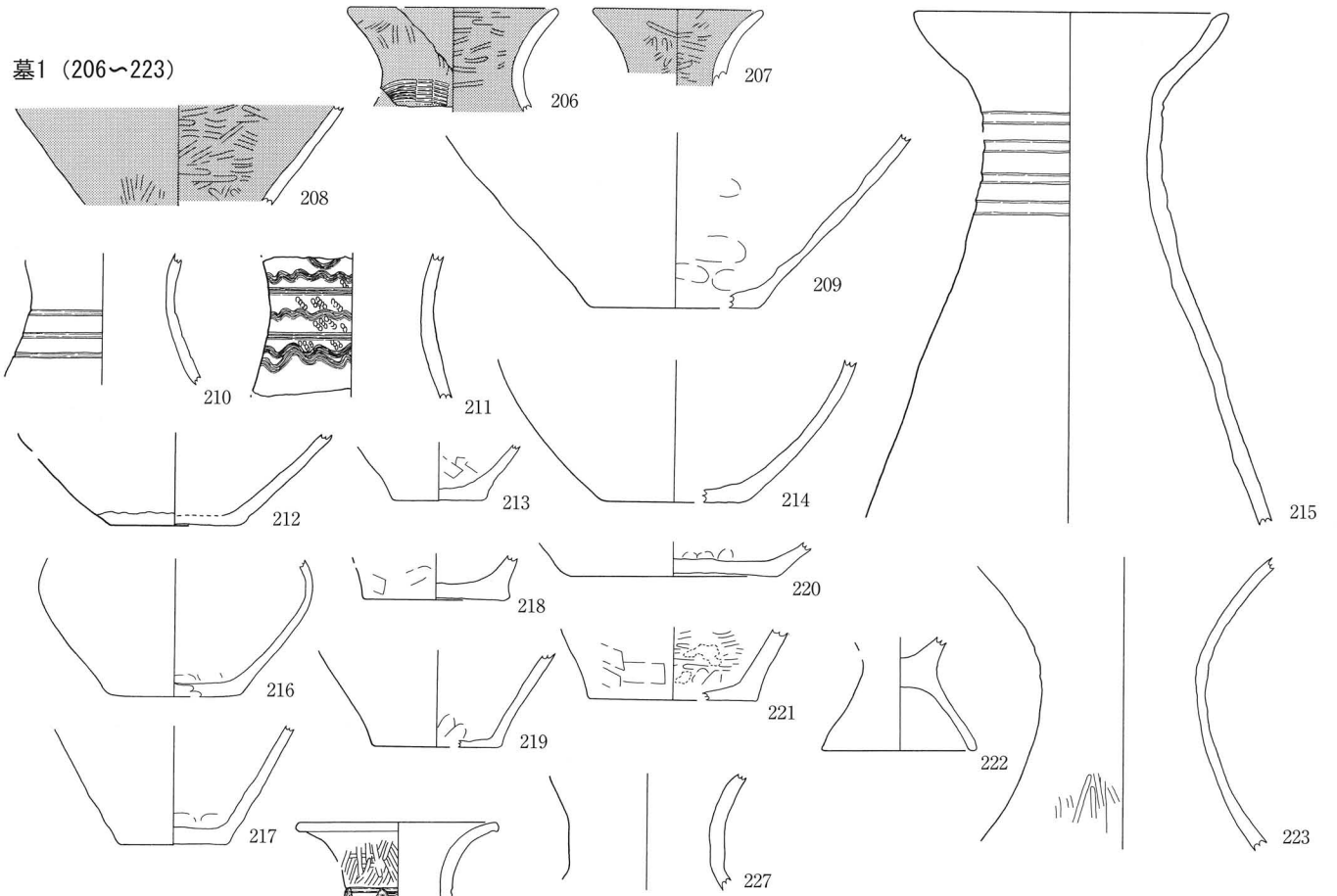


墓2 (190~205)

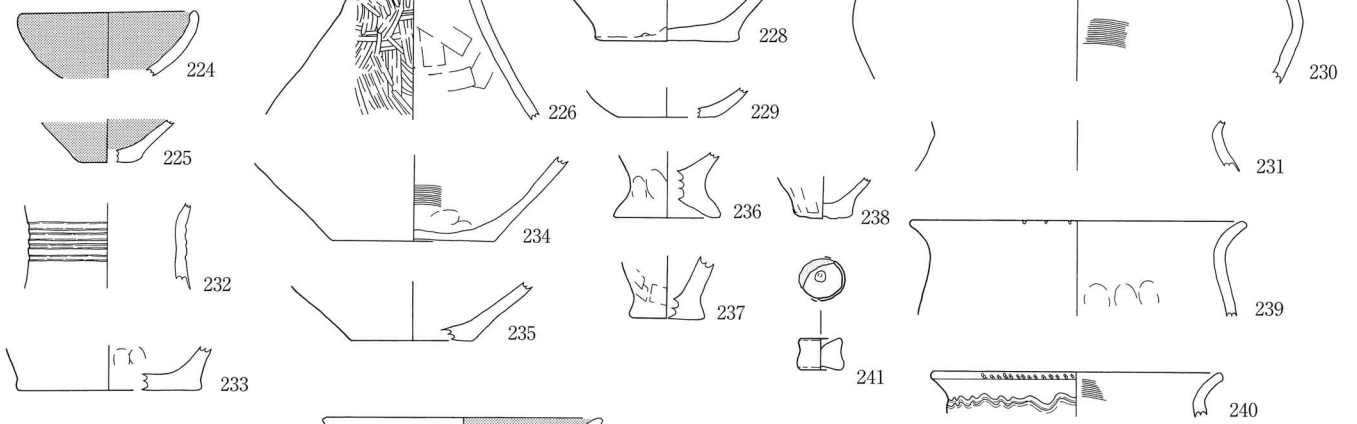


第19図 土器・土製品 (6)

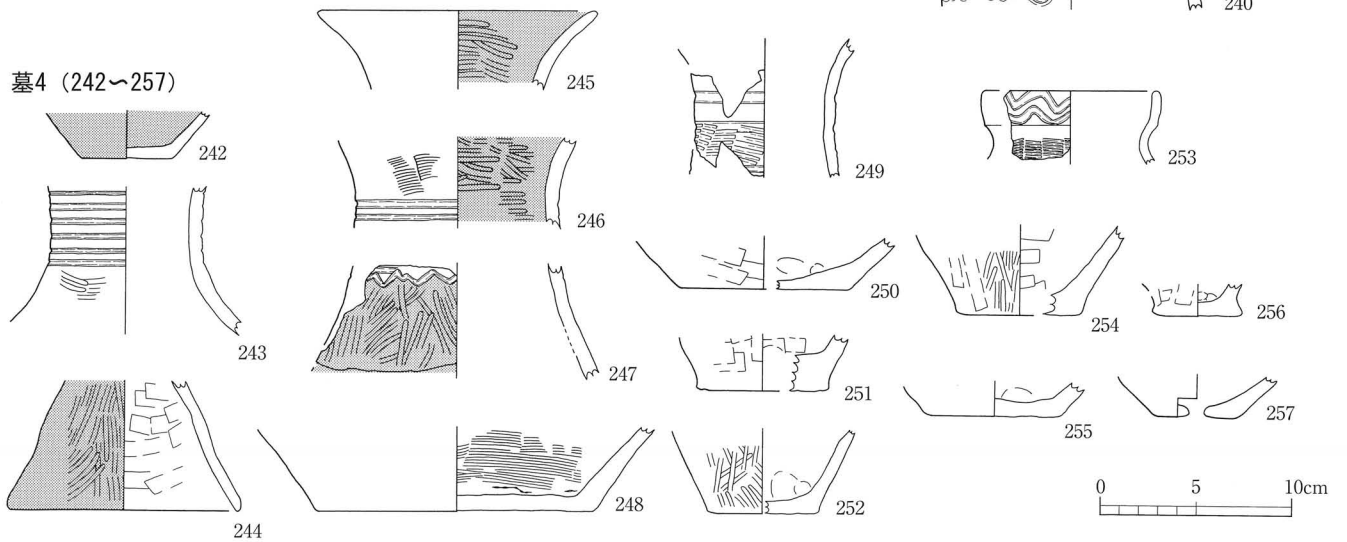
墓1 (206~223)



墓3 (224~241)

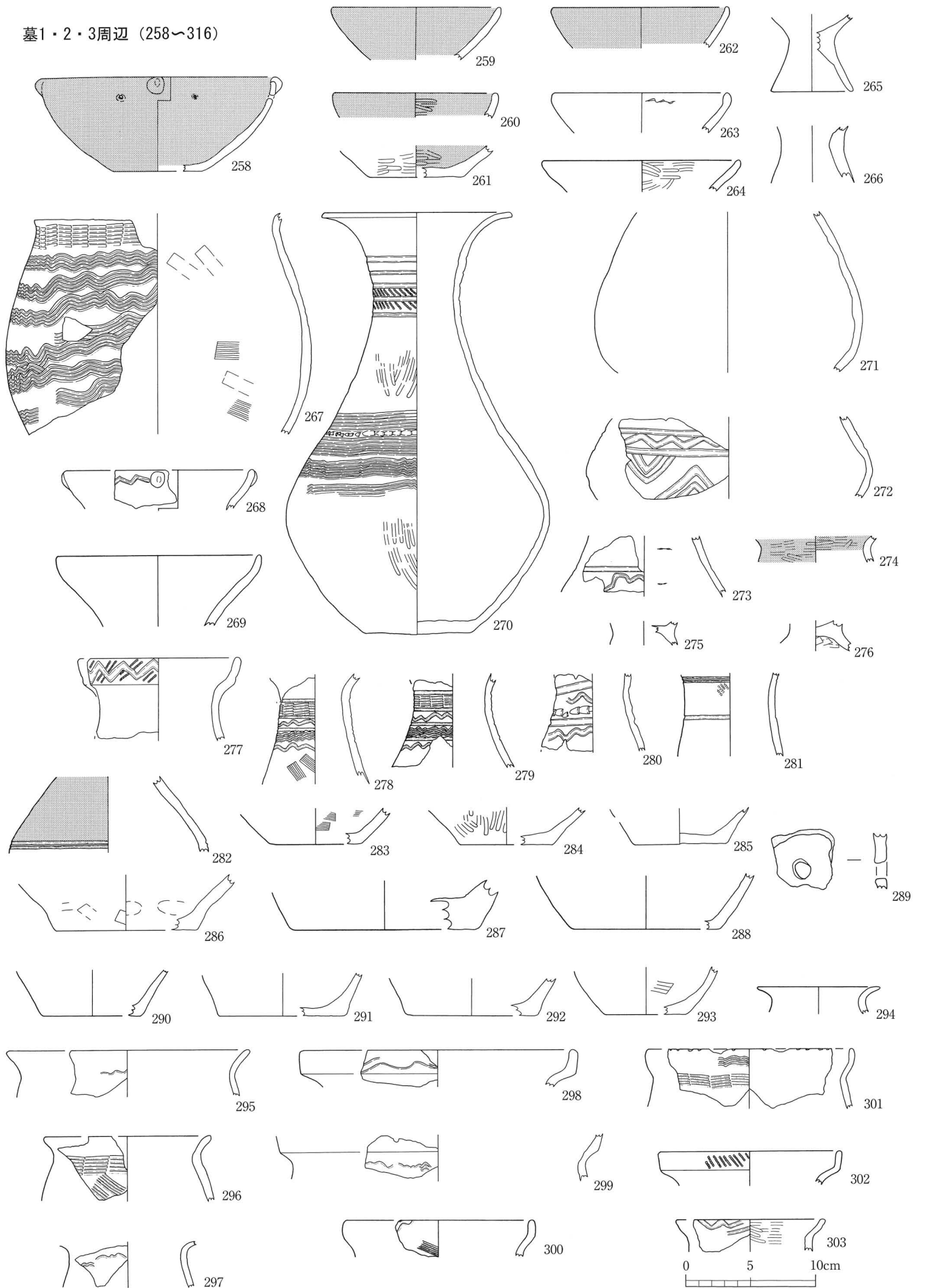


墓4 (242~257)

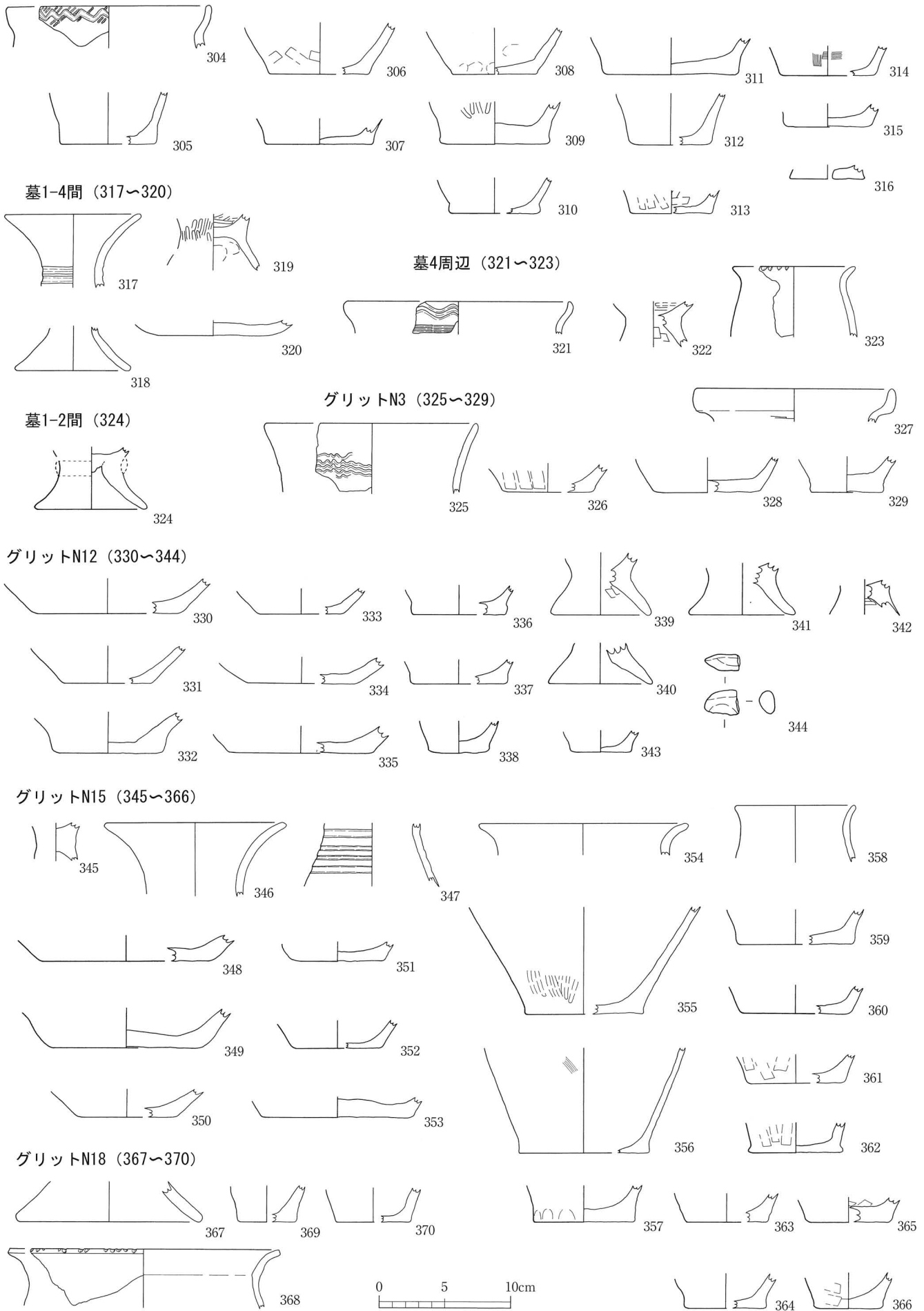


0 5 10cm

墓1・2・3周辺 (258~316)

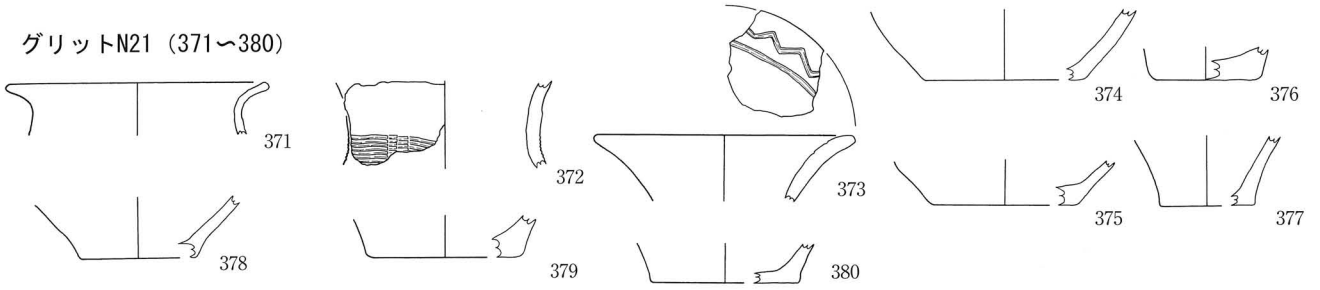


第21図 土器・土製品 (8)

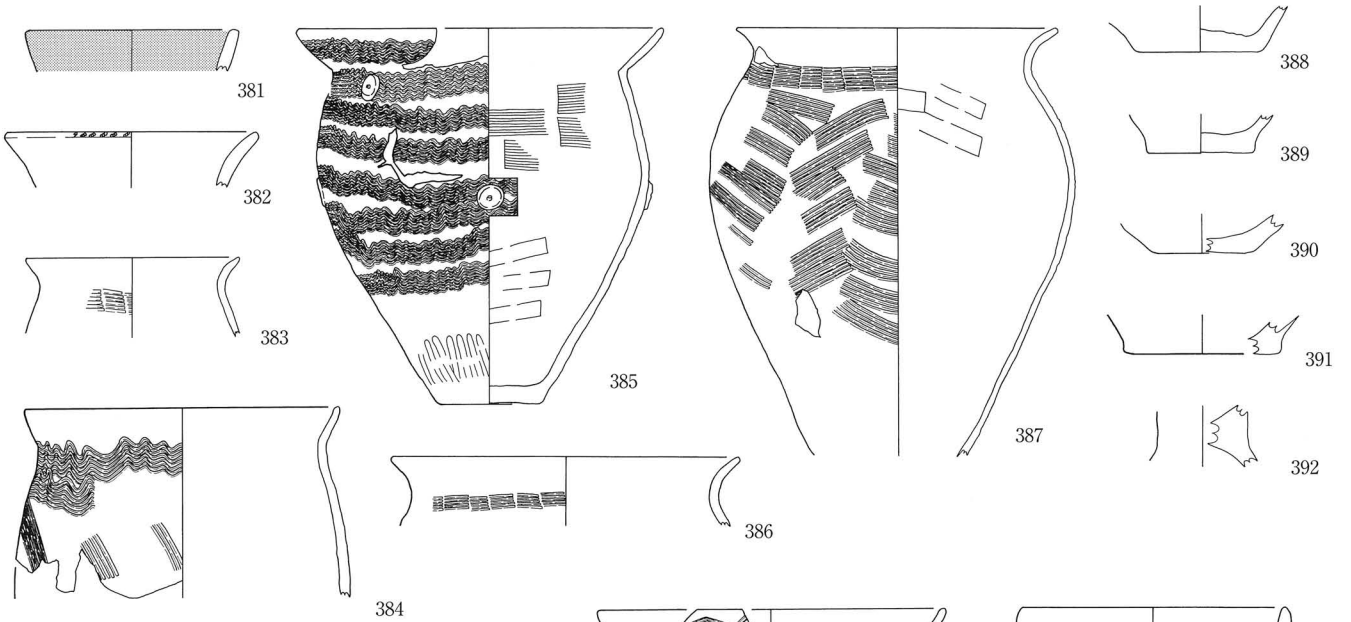


第22図 土器・土製品 (9)

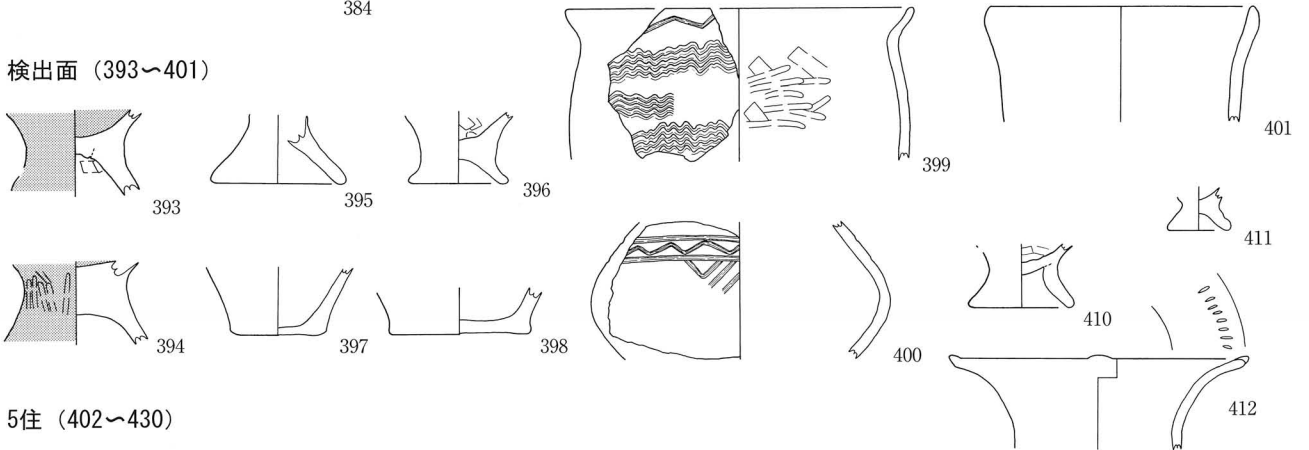
グリットN21 (371~380)



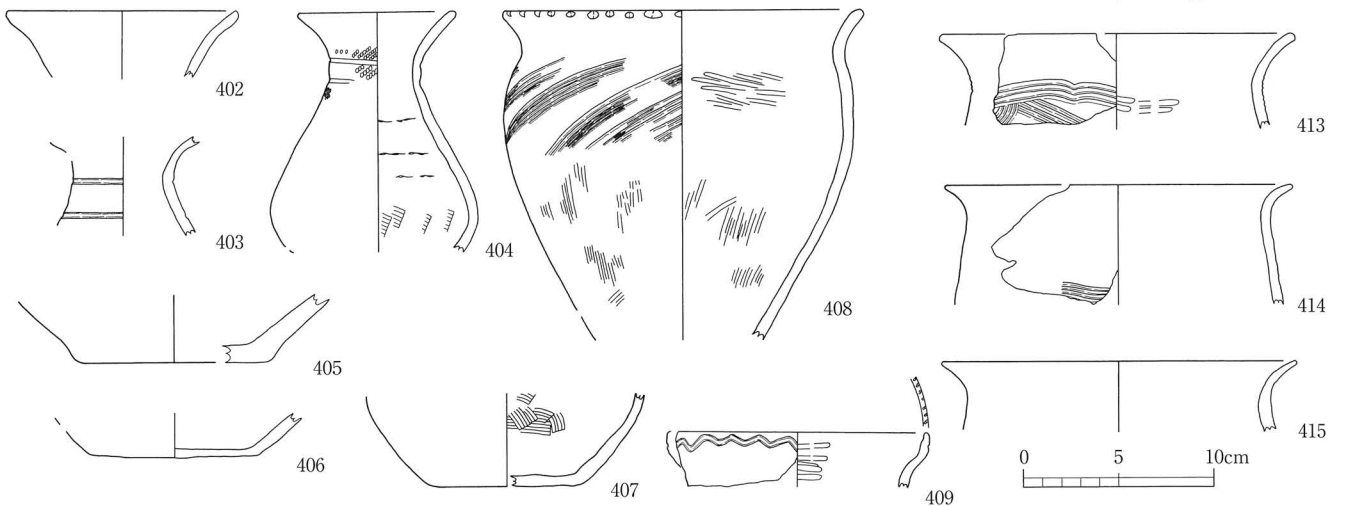
グリットN24 (381~392)



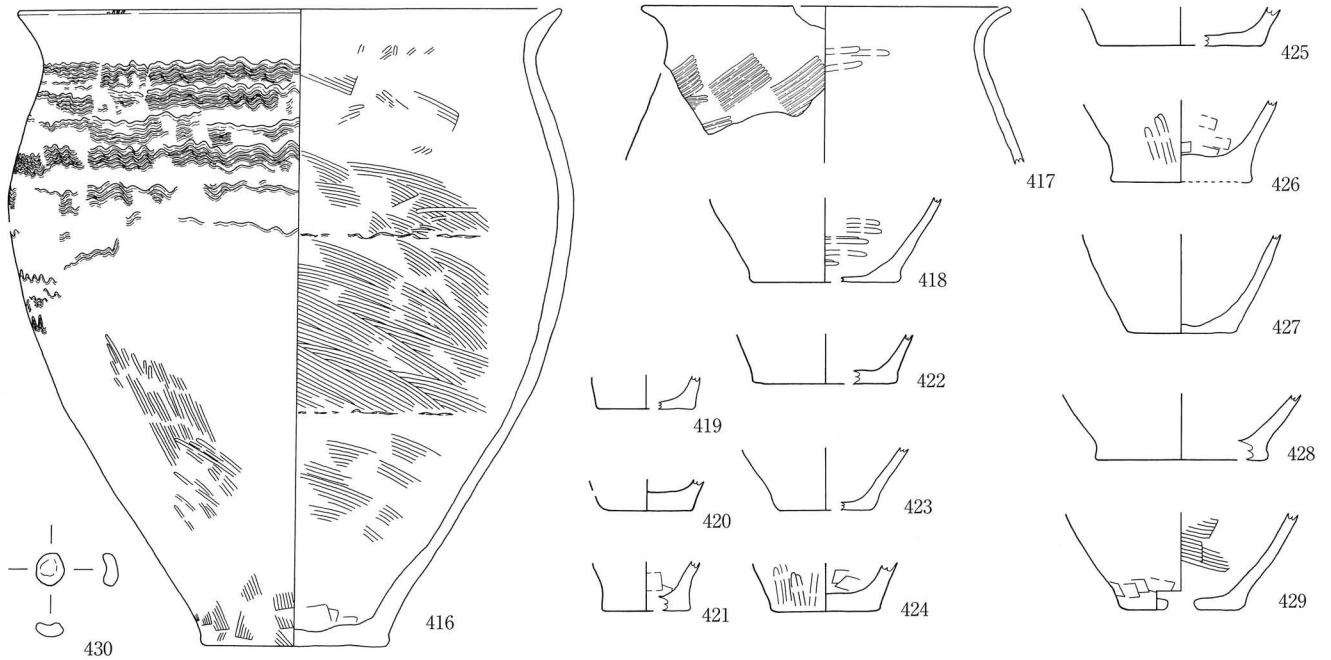
検出面 (393~401)



5住 (402~430)



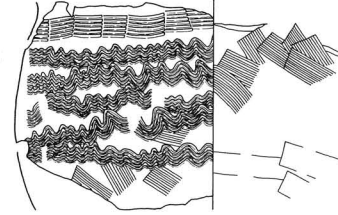
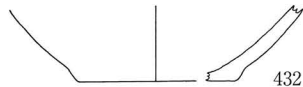
第23図 土器・土製品 (10)



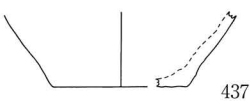
土坑6 (432~434)

土坑15 (435)

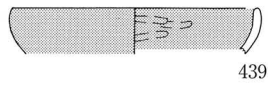
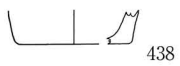
6住 (431)



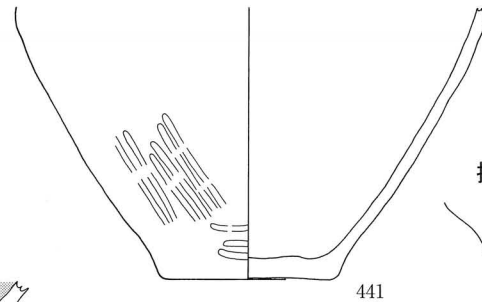
溝3 (437・438)



東トレンチ (439・440)



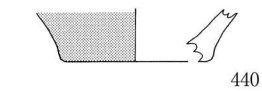
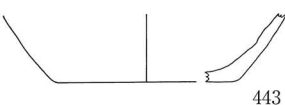
P42 (441)



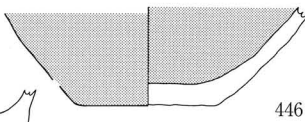
南壁 (436)



包含層 (443~445)



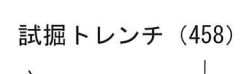
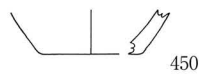
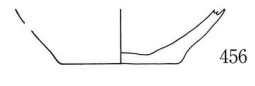
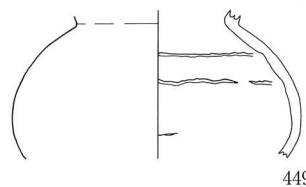
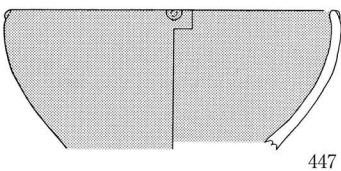
STI (446)



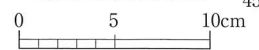
排土 (442)



検出面 (447~457)



試掘トレンチ (458)



第24図 土器・土製品 (11)

第10表 土器観察表

番号	地点	形式		寸法		残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径				底径	外面			
1	1住	高杯			(21.6)		口1/6 外赤褐色,内暗褐色~赤褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ナデのちミガキのち赤彩	ナデのちミガキのち赤彩	1住-6	1住-008 N9EW0-044	内外赤彩
2	1住	高杯			(28.6)		口一部 外赤褐色,内赤褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ナデのちミガキのち赤彩	ナデのちミガキのち赤彩	1住-7	1住-010	内外赤彩
3	1住	高杯			(9.7)		底一部 外褐色~赤褐色,内褐色~赤褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	ミガキ?(摩滅),凸帯貼付のちキザミ,ヨコナデ	ミガキ?(摩滅)	N9W3-1	N9W3-058	外面,杯部 内面赤彩
4	1住	壺	B2		(20.0)		口1/5 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキ(タテ方向)摩滅	指頭圧痕,ミガキ(ヨコ方向)摩滅	1住-12	1住-008	口縁部 18単位?
5	1住	壺	A		(19.0)		口一部 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデのちキザミ,工具によるナデ?(摩滅)	工具によるナデ(摩滅)	1住-10	1住-010	弥生後期
6	1住	壺	A		(12.2)		口一部 褐色~暗褐色	黒色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,工具によるナデ	ナデ?(摩滅)	1住-9	1住-012	
7	1住	壺					胴部片 褐色~黒褐色	褐色,灰色,微~砂粒	ミガキ(ヨコ方向)	ミガキ?(摩滅)	1住-15	1住-011, N9EW0-038	
8	1住	壺					頸部片 褐色~暗茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,波状紋,縦羽状条線紋のち懸垂紋	ミガキ	1住-13	1住-008	
9	1住	壺					胴部片 褐色~暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	懸垂波状紋,懸垂横帯紋,ミガキ,ヘラ描沈線,波状紋,簾状紋	ナデ?(摩滅)	1住-16	1住-014	
10	1住	壺			(9.6)		底2/3 淡褐色	長石褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,底部ナデ	工具によるナデ	1住-1	1住-008, N9EW0-043, 試T1-005	
11	1住	壺			4.2		底完 暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,指頭圧痕,底部ナデ	工具によるナデ	1住-5	1住-001・013	
12	1住	甕			6.0		底1/2 淡褐色~黒褐色	褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,底部ナデ	工具によるナデ	1住-3	1住-013	
13	1住	甕			7.5		底完 褐色	石英褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部ナデ(モミ圧痕あり)	摩滅	N9EW0-2	N9EW0-037	
14	1住	甕			7.9		底7/8 褐色~暗褐色	石英,褐色,灰色,微~粗粒	摩滅,底部ナデ(モミ圧痕あり)	摩滅,指頭圧痕あり	N9EW0-4	N9EW0-040・041	
15	1住	壺			(9.4)		底4/5 暗灰色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	剥離により不明	1住-18	1住-013, ハカ1-016, N9E3-052	
16	1住	甕	A		(21.0)		口一部 褐色~暗茶褐色	雲母,石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋	ミガキ(ヨコ方向)?,摩滅	1住-14	1住-009	弥生後期
17	1住	甕	B2		(17.2)		口一部 褐色~茶褐色	褐色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ナデ?,頸部簾状紋,縦羽状条線紋	ミガキ	1住-11	1住-014	
18	1住	甕			(14.8)		口一部 淡褐色~褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	1住-17	1住-008, A 検-006	弥生後期
19	1住	甕			(8.8)		底一部 暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,指頭圧痕,底部ナデ	工具によるナデ(ヨコ方向)	1住-4	1住-006	
20	1住	甕			6.3		底ほぼ完 褐色,灰色	褐色,灰色,微~粗粒	ミガキ(タテ方向)摩滅,底部ナデ	摩滅	N9EW0-1	N9EW0-038	
21	1住	甕	A		(27.0)		口1/10 暗褐色	雲母,褐色,灰色,微~砂粒	口唇LRヨコ方向縄摩滅,口縁ヨコナデ	ヨコナデ	1住-8	1住-010	
22	1住	甕			5.0		底完 褐色~暗褐色	石英,長石,褐色,灰色,微~小石	工具によるナデ,底部穿孔のちナデ	ナデ	1住-2	1住-008・012, N9EW0-049	
23	1住周 辺	高杯			(15.7)		口1/8 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	N6EW0-1	N6EW0-010	内外赤彩? (摩滅)
24	1住周 辺	鉢か 高杯			(14.4)		口一部 外淡褐色,内赤褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキ?(摩滅)	ミガキ?(摩滅)	N9EW0-12	N9EW0-044	内外赤彩 (外面摩滅)
25	1住周 辺	壺					頸部片 褐色~暗茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	ミガキ(摩滅),横帯沈線紋,山形沈線,刺突紋	摩滅	N9EW0-14	N9EW0-043・046, N9E3-051	
26	1住周 辺	壺			(8.8)		底1/4 褐色~茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部ナデ	摩滅	N9EW0-5	N9EW0-044	
27	1住周 辺	壺			(12.4)		底1/4 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N9EW0-7	N9EW0-042	
28	1住周 辺	壺			9.7		底完 褐色~茶褐色	石英,長石,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	工具によるナデ	N9EW0-8	N9EW0-044	
29	1住周 辺	甕			5.6		底完 褐色~暗褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部ナデ	摩滅	N6W3-1	N6W3-036	
30	1住周 辺	高杯?					脚部片? 褐色	石英,褐色,灰色,黒色,微~砂粒	横帯沈線,摩滅,ケズリ,穿孔?	摩滅	N9W3-3	N9W3-059	
31	1住周 辺	甕	A		(11.8)		口1/8 茶褐色~暗褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,簾状紋	ミガキ(ヨコ方向)	N9W3-2	N9W3-059	
32	1住周 辺	台付 甕					脚部片 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅	摩滅	N9EW0-9	N9EW0-044	
33	1住周 辺	甕					胴下部片 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅	工具によるナデ	N9EW0-6	N9EW0-044	
34	1住周 辺	甕			(7.2)		底1/3 褐色~茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部ナデ(モミ圧痕あり)	摩滅,指頭圧痕あり	N9EW0-3	N9EW0-044	
35	1住周 辺	甕	A		(18.2)		口1/12 暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口唇LRヨコ方向縄,口縁ヨコナデのちキザミ,ナデ,頸部簾状紋	ナデ	N9EW0-13	N9EW0-043	
36	1住周 辺	甕			(17.0)		口一部 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋	摩滅	N9EW0-11	N9EW0-043	弥生後期
37	1住周 辺	甕	A		(11.6)		口1/12 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデのちキザミ,摩滅	摩滅	N9EW0-10	N9EW0-044	
38	1住 試レ	甕	B1		(23.6)		口一部 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋,ミガキ(ヨコ方向)	ミガキ(ヨコ方向)のちハケメ	1住試T-2	試T1-005	
39	1住 試レ	甕	A		(21.9)		口一部 茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,折り返し口縁,工具によるナデ	ナデ(摩滅)	1住試T-1	試T1-005	
40	2住	鉢			(17.6)		口2/3 外褐色~暗赤褐色,内褐色~暗赤褐色	褐色,灰色,微~粗粒	口縁ヨコナデ,2孔穿孔,ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩	2住-49	2住-018・049	内外赤彩
41	2住	鉢			(15.6)		口1/12 外暗茶褐色~暗赤褐色,内淡褐色~赤褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,2孔穿孔,ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩	2住-23	2住-041	内外赤彩
42	2住	鉢			(12.4)		口1/5 外淡褐色~赤褐色,内淡褐色~赤褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,2孔穿孔,ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩	2住-22	2住-016・047	内外赤彩
43	2住	鉢			(16.4)		口1/2 外暗褐色~淡赤褐色,内褐色~赤褐色	石英,褐色,灰色,黒色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,4単位突起貼付のちナデ,ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキのち赤彩(摩滅)	2住-28	2住-18-2・048	内外赤彩

番号	地点	形式		寸法		残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径				底径	外面			
44	2住	鉢			(14.6)	口1/8	外暗褐色～赤褐色,内褐色～赤褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	2住-24	2住-045	内外赤彩
45	2住	高杯				杯部片	外褐色～赤褐色,内褐色～赤褐色	石英,褐色,灰色,黒色,微～粗粒	ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	2住-26	2住-041	内外赤彩
46	2住	鉢			(19.0)	口1/10	外淡褐色～赤褐色,内淡褐色～赤褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,4単位突起貼付のちナデ,ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	2住-25	2住-046	内外赤彩
47	2住	鉢				胴下部片	外褐色～暗赤褐色,内灰色～暗赤褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキのち赤彩(摩滅)	2住-21	2住-027	内外赤彩
48	2住	高杯				杯部片	外褐色～赤褐色,内褐色～赤褐色	石英,褐色,灰色,白色,微～砂粒	ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	2住-27	2住-046-050	内外赤彩
49	2住	高杯			(7.1)	底1/2	外淡褐色～褐色,内淡褐色～橙褐色	石英,褐色,灰色,白色,微～砂粒	凸帯貼付のちキザミ,ミガキ(摩滅),ヨコナデ	ケズリ(摩滅),ミガキ?(摩滅)	2住-50	2住-006	内外赤彩?
50	2住	壺	A		(19.4)	口1/3	褐色～暗褐色	石英,褐色,灰色,黒色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,頸部横帯沈線,摩滅	摩滅	2住-64	2住-009-030	
51	2住	壺	A		(14.0)	口1/5	褐色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	刺突紋,山形沈線紋,二本刃の刺突紋	2住-45	2住-018	
52	2住	壺	A		(11.2)	口1/4	茶褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデのちキザミ,摩滅	摩滅	2住-44	2住-041	
53	2住	壺				頸胴大片	褐色～暗茶褐色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	頸部LRヨコ方向縄,横帯沈線,平行山形沈線紋,胴部ミガキ(タテ方向)ハケメ	ナデ(摩滅)	2住-30	2住-023-026-1-026-2, 試T1-008	
54	2住	壺	A		(15.1)	口一部	褐色	褐色,灰色,黒色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅頸部横帯沈線,何らかの紋様?(摩滅)	摩滅	2住-6	2住-019	
55	2住	壺	A		(8.6)	口1/2	褐色	褐色,灰色,白色,黒色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅,頸部横帯沈線	摩滅	2住-65	2住-019	
56	2住	壺	A		(15.4)	口1/8	茶褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅,頸部横帯沈線	山形沈線紋,摩滅	2住-37	2住-011	
57	2住	壺				頸部片	淡灰褐色	褐色,灰色,微～砂粒	摩滅,頸部LRヨコ方向縄,横帯沈線	ナデ(摩滅)	2住-61	2住-033	
58	2住	壺				胴部片	淡褐色～暗褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	摩滅	上部摩滅,中部ハケメ	2住-52	2住-050	
59	2住	壺				頸部片	褐色	石英,褐色,灰色,微～粗粒	摩滅,頸部横帯沈線,波状沈線	摩滅	2住-38	2住-025	
60	2住	壺				頸部片	淡褐色～茶褐色	石英,褐色,灰色,白色,微～粗粒	摩滅,頸部横帯沈線	摩滅	2住-68	2住-009	
61	2住	壺				頸部片	淡褐色～暗褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	摩滅,頸部横帯沈線,胴部ミガキ(タテ方向)	上部摩滅,下部ハケメ	2住-39	2住-023	外面赤彩?
62	2住	壺				底完	褐色～暗褐色	石英,褐色,灰色,黒色,微～砂粒	工具によるナデ(摩滅),底部ヘラ状工具による紋様	ナデ(摩滅)	2住-29	2住-017	
63	2住	壺			(14.6)	底一部	褐色～暗褐色	褐色,灰色,白色,微～粗粒	摩滅,下部にミガキ(ヨコ方向),底部ナデ	ハケメ,ナデ	2住-63	2住-023-024-047-049, 試T1-008	内面上部に赤色顔料付着
64	2住	壺				胴部大片	褐色～暗褐色	褐色,灰色,微～砂粒	摩滅	上部摩滅,下部ハケメ	2住-20	2住-022-023-026-1-026-2-027-037-041-044-046-049, 試T1-007-008	
65	2住	壺				頸部片	褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	頸部横帯沈線,山形沈線紋,摩滅	摩滅	2住-48	2住-025-046	
66	2住	壺				頸部片	褐色～暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	ハケメのちミガキ(タテ方向)	ナデ	2住-46	2住-002	
67	2住	壺			9.1	底ほぼ完	橙褐色～暗茶褐色	褐色,灰色,微～砂粒	ミガキ(タテ方向)	摩滅	2住-3	2住-007	
68	2住	壺			11.4	底ほぼ完	淡褐色～暗褐色	褐色,灰色,黒色,微～砂粒	摩滅(ミガキ?),ハケメ,摩滅,底部ナデ	ナデ(摩滅)	2住-31	2住-017-018-1-023, 試T1-007-008	
69	2住	壺			(7.4)	底1/4	淡褐色～暗褐色	褐色,灰色,白色,微～粗粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	2住-55	2住-027-038-046	
70	2住	壺			11.2	底完	淡褐色～暗褐色	石英,長石,褐色,灰色,白色,微～粗粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	2住-53	2住-022-026-1-047	
71	2住	甕	A		(20.6)	口1/2	淡褐色～暗褐色	石英,褐色,灰色,白色,微～粗粒	口縁ヨコナデのちキザミ,頸部隆状紋,胴部ハケメのち波状紋のち垂下紋	ハケメのちミガキ(ヨコ方向)	2住-67	2住-023-047-048-049, 試T1-008	
72	2住	甕	A		(16.0)	口1/5	褐色～灰色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,頸部縦羽状条痕	摩滅	2住-18	2住-013	被熱による歪みあり
73	2住	甕	A		(15.6)	口一部	灰色～暗灰色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,縦羽状条痕	摩滅	2住-15	2住-014-047	被熱による歪みあり
74	2住	甕	A		(20.8)	口1/5	褐色～茶褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	2住-5	2住-023, 試T1-007	
75	2住	甕	B2		(15.4)	口1/3	褐色～暗褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口唇LRヨコ方向縄,口縁ヨコナデ,波状紋	ミガキ	2住-11	2住-018-1-046	
76	2住	甕	B1		(15.6)	口1/5	淡灰色～灰色	褐色,灰色,微～砂粒	口唇RLヨコ方向縄,口縁ヨコナデ,RLヨコ方向縄,簾状紋,波状紋	摩滅	2住-16	2住-047	
77	2住	甕	A		(14.8)	口1/4	褐色～暗褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,頸部簾状含む横線紋,波状紋	ハケメのちミガキ(ヨコ方向)	2住-8	2住-013	
78	2住	甕	A		(18.8)	口1/4	褐色～暗茶褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口縁指頭による圧痕,摩滅	摩滅,下部ハケメ	2住-13	2住-018-1	
79	2住	甕	A		(10.8)	口1/4	褐色～茶褐色	褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋	摩滅	2住-42	2住-020	
80	2住	甕	B1		(21.6)	口1/3	灰色～褐色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	口唇RLヨコ方向縄,口縁ヨコナデ,RLヨコ方向縄,頸部隆状紋,波状紋の垂下紋	摩滅	2住-17	2住-002-004-009	
81	2住	甕	A		(16.6)	口1/5	茶褐色～暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	口唇LRヨコ方向縄,波状紋の垂下紋	ミガキ(ヨコ方向)	2住-47	2住-025-045-046	
82	2住	甕	A		(14.3)	口1/2	褐色～暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅,胴部列点紋	摩滅	2住-66	2住-013-043-047, 試T1-008	
83	2住	甕	B1		(22.0)	口一部	灰色～褐色	褐色,灰色,白色,微～粗粒	口唇縄紋(摩滅),口縁ヨコナデ,LRヨコ方向縄,頸部縦羽状条痕,摩滅	摩滅,下部ハケメ	2住-10	2住-001-002-012	
84	2住	甕	A		(22.8)	口1/12	褐色～茶褐色	褐色,灰色,白色,微～砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋	摩滅	2住-12	2住-026-1	

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
85	2住	甕	B1		(22.0)		口1/5	淡褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	口唇縄紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, 縄紋(摩滅)のちヘラ描山形紋, 摩滅	摩滅	2住-7	2住-002-038	
86	2住	甕					頸脚片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	頸部櫛描横線紋, 胴部縦羽状条痕	ミガキ(ヨコ方向)	2住-62	2住-047, 試T1-008	
87	2住	壺			(9.0)		底2/3	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	上部炭化物付着, ハクメ, 指ナデ	2住-56	2住-015	
88	2住	甕			(9.8)		底3/4	茶褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	2住-54	2住-024, 試T1-008	
89	2住	甕				9.4	底ほぼ完	淡褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	2住-1	2住-026-1・026-2・037	
90	2住	甕	B1		(23.6)		口1/12	灰色～茶褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～粗粒	口唇縄紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, L R ヨコ方向縄, ヨコナデ, 縦羽状条痕	ハクメ	2住-9	2住-008-047	
91	2住	甕	B1		(16.6)		口1/2	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 胴部波状紋	摩滅	2住-40	2住-009	
92	2住	甕	A		(14.6)		口一部	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 頸部櫛描横線紋, 胴部縦羽状条痕	ミガキ(ヨコ方向)	2住-14	2住-041	
93	2住	甕	A		(22.7)		口1/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 黒色, 微～砂粒	口縁強い指押さえ, 摩滅	摩滅	2住-43	2住-020	
94	2住	甕					頸脚片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	波状紋のち垂下波状紋	ハクメのちミガキ(ヨコ方向)	2住-69	2住-026-1・044, 試T1-008	
95	2住	壺			(8.6)		底1/2	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ(摩滅), 底部ナデ	ナデ(摩滅)	2住-34	2住-024	
96	2住	台付甕?				6.4	底完	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	2住-59	2住-047	
97	2住	台付甕?					杯脚部片	褐色	褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	摩滅	ミガキ(摩滅)	2住-35	2住-050	
98	2住	甕				7.5	底完	淡褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部何らかの圧痕のちナデ	ミガキ(ヨコ方向)	2住-57	2住-026-1	
99	2住	甕			(6.4)		底1/4	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	工具によるナデのちミガキ(ヨコ方向)	2住-33	2住-018-2	
100	2住	台付甕			(4.6)		底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	ハクメ	2住-36	2住-037	
101	2住	台付甕				4.4	底ほぼ完	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 白色, 微～砂粒	指ナデ, ヨコナデ	ナデ	2住-60	2住-046	
102	2住	甕				4.4	底完	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	何らかの紋様, 底部何らかの圧痕のちナデ	ナデ	2住-58	2住-050	
103	2住	甕				6.5	底2/3	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部摩滅	工具によるナデ	2住-4	2住-024	
104	2住	甕	B1		(12.6)		口1/4	褐色～茶褐色	長石, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, L R ヨコ方向縄のち山形沈線紋のち4単位ボタン状貼付紋, 胴部波状紋のち垂下紋のち垂下波状紋	摩滅	2住-41	2住-008	
105	2住	甕					胴部片	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	波状紋のち垂下紋	ミガキ(ヨコ方向)	2住-51	2住-047・048	
106	2住	甕				6.9	底ほぼ完	褐色～灰色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	2住-2	2住-014・019	
107	2住	甕				7.2	底3/4	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ(摩滅), 摩滅	ナデのちミガキ(摩滅)	2住-32	2住-023・024	
108	2住	注口状土製品						褐色～暗茶褐色	石英, 長石, 褐色, 灰色, 白色, 微～粗粒	摩滅	摩滅	2住-19	2住-028	時期不明
109	2住 試ト	高杯			(18.8)		口1/8	外褐色～暗茶褐色, 内褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	試T-5	試T1-008	内外赤彩(外面はほぼ剥離)
110	2住 試ト	甕	A		(22.0)		口1/8	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～粗粒	口縁ヨコナデ, L R ヨコ方向縄, 頸部波状紋	摩滅	試T-3	試T1-008	
111	2住 試ト	台付甕?			(9.2)		底1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	試T-2	試T1-001	
112	2住 試ト	甕?			(22.4)		口1/12	茶褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	ハクメのちミガキ(ヨコ方向)のち黒色処理?	試T-4	試T1-007	弥生土器ではない?内面黒色処理か?
113	2住 試ト	壺					胴部片	淡褐色～褐色	褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	摩滅, 下部ハクメ	摩滅	試T-6	試T1-008	
114	2住 試ト	甕				7.7	底完	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ(何らかの圧痕あり)	上部ハクメのち工具によるナデ, ハクメ	試T-1	試T1-008	
115	2住 試ト	紡垂車						暗灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ナデ, 縦羽状条痕, 穿孔のちナデ	摩滅	試T-7	試T1-006	
116	土坑1	壺				8.2	底完	淡褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 下部ミガキ(ヨコ方向), 底部ナデ	摩滅	土1-1	土1-002・003, N24W3-132	
117	土坑1	壺				7.1	底完	橙褐色～暗灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部ナデ, 焼成後穿孔	摩滅	土1-3	土1-001	
118	土坑1	甕				7.1	底3/4	暗褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～粗粒	工具によるナデ, 底部ナデ	ハクメ	土1-2	土1-001・003	
119	土坑1	壺					頸部片	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線	摩滅	N24W3-5	N24W3-135	
120	土坑2	壺	A		(11.4)		口1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 頸部横帯沈線	摩滅	N24W3-16	N24W3-125・127	
121	土坑2	壺	A		(10.6)		口1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 頸部横帯沈線	摩滅	N24W3-14	N24W3-130	
122	土坑2	甕			(7.4)		底1/3	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N24W3-8	N24W3-124	
123	土坑2	甕			(8.4)		底一部	褐色～暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24W3-3	N24W3-131	
124	土坑2	甕			(6.0)		底2/3	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	指ナデ, 底部摩滅	摩滅	N24W3-2	N24W3-129	
125	土坑2	壺			(9.0)		底1/3	淡褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24W3-9	N24W3-127	
126	土坑2	壺			(8.4)		底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部ナデ	摩滅	N24W3-10	N24W3-124	
127	土坑2	甕				6.9	底4/5	褐色～暗灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	土2-1	土2-004	
128	土坑2	壺					胴部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～小石	櫛描横線紋, 櫛描丁字紋, 摩滅	ナデ	N24W3-17	N24W3-123	弥生後期
129	土坑2	甕	A		(15.6)		口1/10	暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 何らかの紋様?(摩滅)	摩滅	N24W3-12	N24W3-131	

番号	地点	形式		寸法		残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考	
		器種	器形	器高	口径				底径	外面				内面
130	土坑6	鉢			(10.4)		口1/12 外褐色,内褐色 ~暗赤褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキのち赤彩?(摩滅)	ミガキのち赤彩?(摩滅)	土6-4	土6-006	内外赤彩?	
131	土坑6	鉢(又は 高杯)			(16.4)		口1/8 外褐色~赤茶 褐色,内褐色~ 暗茶褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキ(摩滅)のち赤 彩	ミガキ(ヨコ方向) のち赤彩	土6-3	土6-006	内外赤彩	
132	土坑6	甕?			(8.2)		底1/5 暗灰褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	土6-2	土6-006	内外面赤色 部分あり	
133	土坑6	壺			(8.4)		底1/4 淡褐色~褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	土6-1	土6-006		
134	土1・2 周辺	壺	A		(13.2)		口1/5 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,4単位の突起貼付, 摩滅	摩滅	N24W3-13	N24W3-138		
135	土1・2 周辺	壺			(8.8)		底1/10 茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24W3-11	N24W3-139		
136	土1・2 周辺	壺			(12.6)		底一部 淡褐色~褐色	褐色,灰色,微~粗粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24W3-4	N24W3-138		
137	土1・2 周辺	甕			(7.8)		底1/3 暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,底部ナデ	工具によるナデ	N24W3-1	N24W3-138		
138	土1・2 周辺	甕			(9.0)		底1/6 褐色~暗茶褐 色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	ナデ	N24W3-5	N24W3-138		
139	土1・2 周辺	甕			(7.2)		底1/4 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24W3-7	N24W3-140		
140	土1・2 周辺	甕			(7.0)		底1/4 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	ハケメ?(摩滅),底部摩滅	ハケメ?(摩滅)	N24W3-6	N24W3-138		
141	建物 内	鉢			(17.2)		口1/8 外淡褐色~褐 色 内褐色~暗赤	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキのち赤彩?(摩滅)	ミガキ?(摩滅)のち赤 彩	N24E3-12	N24E3-106	内外赤彩 (外面はほ ぼ剥離)	
142	建物 内	鉢			(17.0)		口1/8 外淡褐色~褐 色 内褐色~暗赤	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)の ち赤彩	N24E3-16	N24E3-105	内外赤彩 (外面はほ ぼ剥離)	
143	建物 内	鉢			(6.8)		底1/4 淡褐色~赤褐 色	褐色,灰色,微~砂粒	ミガキ?(摩滅)のち赤彩,底部ミガ キ?(摩滅)のち赤彩	摩滅	N24E3-14	N24E3-105	外面,底部 赤彩	
144	建物 内	甕	B1		(14.6)		口1/3 褐色~暗茶褐 色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋,頸部縞状紋, 胴部波状紋	ミガキ(ヨコ方向)	N24E0- 18	N24E0-086・101		
145	建物 内	甕	B1		(19.8)		口1/12 褐色~暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口唇縞紋?(摩滅),口縁ヨコナデ,山 形沈線紋(地紋に縞紋?),摩滅	摩滅	N24E0- 14	N24E0- 085		
146	建物 内	壺			8.4		底3/4 褐色~暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24E0-9	N24E0-		
147	建物 内	甕	A		(16.8)		口1/8 褐色~暗茶褐 色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋,摩滅	ミガキ(ヨコ方向)	N24E0- 19	N24E0-085・101・102		
148	建物 内	甕	A		(14.4)		口1/6 褐色~暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋	摩滅	N24E3-7	N24E3-107		
149	建物 内	甕	A		(16.2)		口1/2 褐色~茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,縦羽状条痕	工具によるナデ	N24E0- 20	N24E0-083・084		
150	建物 内	甕			(6.8)		底2/3 褐色~暗褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅,穿孔のちナデ	摩滅	N24E0- 10	N24E0-085・090		
151	建物 内	甕			(6.4)		底1/2 淡褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅,穿孔のちナデ	ミガキ(摩滅)	N24E0- 11	N24E0- 097		
152	建物 内	壺	A		10.4		口2/3 褐色~暗褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	N24E0- 22	N24E0- 099		
153	建物 外	甕	A		(10.8)		口1/6 暗茶褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	N24E3-10	N24E3-110		
154	建物 外	甕	A	11.2 5	(10.7)	6.5	口1/2 底ほぼ 完	褐色~暗茶褐 色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,波状紋,縦羽状条痕, ミガキ?(摩滅),底部摩滅	ナデ(摩滅)	N24E0-1	N24E0-091・092	
155	建物 外	甕					胴部片 褐色~暗褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	櫛描横線紋,縦羽状条痕	摩滅	N24E3-18	N24E3-111・112・113・ 115・116		
156	建物 外	甕			(8.2)		底一部 淡褐色~暗茶 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	ナデ(摩滅)	N24E0-3	N24E0-102・ 103, N24E3-112・114		
157	建物 周辺	鉢			(10.2)		口1/8 外褐色~赤褐 色,内茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,穿孔のちナデ,ミガ キのち赤彩(摩滅)	ミガキのち赤彩(摩滅)	N24E3-11	N24E3-118	内外赤彩 (摩滅)	
158	建物 周辺	鉢			(6.6)		底1/4 外褐色~暗褐 色,内暗赤褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	ミガキのち赤彩(摩滅),底部摩滅	ミガキ(摩滅)のち赤 彩	N24E3-13	N24E3-116	内外赤彩 (外面はほ ぼ剥離)	
159	建物 周辺	高杯					脚部片 外褐色~赤褐 色 内褐色~赤褐	石英,褐色,灰色,微~砂粒	ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤 彩,ナデのち赤彩	N24E3-15	N24E3-115	外面,杯部 内面,高台 部内面赤彩	
160	建物 周辺	高杯					杯脚部 片 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅	摩滅	N24E3-17	N24E3-116		
161	建物 周辺	壺					頸部片 淡褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	R L タテ方向縄,横帯沈線,山形沈 線紋,摩滅	摩滅	N24E0- 16	N24E0-103, N24E3-115		
162	建物 周辺	壺					頸部片 淡褐色~灰褐 色	褐色,灰色,微~砂粒	R L ヨコ方向縄のち山形沈線紋,横 帯沈線,摩滅	摩滅	N27E3-4	N27E3-143		
163	建物 周辺	壺					胴部片 淡褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅	摩滅	N24E0- 17	N24E0- 100		
164	建物 周辺	壺			(8.4)		底一部 淡褐色~褐色	褐色,灰色,黒色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24E3-4	N24E3-115		
165	建物 周辺	壺			(8.8)		底1/6 淡褐色~暗褐 色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24E3-5	N24E3-116		
166	建物 周辺	壺			(7.2)		底1/2 暗褐色	褐色,灰色,白色,微~砂粒	工具によるナデ,底部工具によるナ デ	工具によるナデ	N24E0-8	N24E0- 101		
167	建物 周辺	壺			(6.4)		底1/10 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24E3-6	N24E3-115		
168	建物 周辺	甕			(7.0)		底1/3 褐色~暗茶褐 色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	工具によるナデ,底部摩滅	ナデ	N27E3-1	N27E3-143		
169	建物 周辺	甕	B1		(24.8)		口1/12 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,摩滅	摩滅	N24E3-8	N24E3-116		
170	建物 周辺	甕	B1		(20.6)		口1/10 褐色~茶褐色	褐色,灰色,黒色,微~砂粒	口唇縞紋?(摩滅),口縁ヨコナデ,地 紋に縞紋?(摩滅),山形紋	摩滅	N24E3-9	N24E3-118		
171	建物 周辺	甕	A		(15.8)		口1/3 淡褐色~暗茶 褐色	石英,褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,頸部摩滅,胴部櫛描 斜線紋	ハケメ	N24E0- 21	N24E0-101, N24E3- 108・112, N27E0-141		
172	建物 周辺	甕	A		(10.6)		口1/16 茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	口縁ヨコナデ,頸部波状紋,胴部縦 羽状条痕	摩滅	N24E0- 15	N24E0- 102		
173	建物 周辺	甕					胴部片 暗茶褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅	摩滅	N24E0- 12	N24E0- 103		
174	建物 周辺	甕			(6.0)		底1/6 褐色	褐色,灰色,微~砂粒	摩滅,底部摩滅	摩滅	N24E3-3	N24E3-115		

番号	地点	形式		寸法		残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径				底径	外面			
175	建物 周辺	台付 甕				脚部片	褐色	褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅	摩滅	N24EW0-13	N24EW0-100	
176	建物 周辺	甕			(5.4)	底1/4	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N24EW0-6	N24EW0-101	
177	建物 周辺	甕			(6.8)	底1/3	褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N27E3-2	N27E3-143	
178	建物 周辺	甕			(5.2)	底1/2	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24E3-2	N24E3-115・116	
179	建物 周辺	甕	A		(15.9)	口1/8	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N27EW0-3	N27EW0-141	
180	建物 周辺	甕	B2		(15.6)	口1/10	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口唇細紋?(摩滅), 口縁ヨコナデ, 波状紋	摩滅	N27EW0-5	N27EW0-141	
181	建物 周辺	甕?				胴部片?	褐色	褐色, 灰色, 黒色, 微~砂粒	摩滅	摩滅	N27E3-3	N27E3-143	
182	建物 周辺	甕			(5.6)	底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24EW0-5	N24EW0-100	
183	建物 周辺	甕			(6.6)	底1/6	褐色~灰褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24EW0-7	N24EW0-101	
184	建物 周辺	甕	A		(14.6)	口1/10	暗褐色	石英, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N27EW0-2	N27EW0-141	
185	建物 周辺	甕			(9.6)	底1/6	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N24EW0-4	N24EW0-103	
186	建物 周辺	甕			7.3	底ほぼ 完	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~粗粒	摩滅, 底部ナデ(モミ圧痕あり)	摩滅	N24EW0-2	N24EW0-100	
187	建物 周辺	甕	B1		(8.4)	口1/10	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~粗粒	口唇細紋?(摩滅), 口縁ヨコナデ, 何らかの紋様?(摩滅), ボタン状貼付, 波状紋	摩滅	N27EW0-4	N27EW0-142	
188	建物 周辺	甕			(7.4)	底1/4	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24E3-1	N24E3-115	
189	建物 周辺	甕			(7.2)	底1/3	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	工具によるナデ, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N27EW0-1	N27EW0-141	
190	墓2	高杯			(20.9)	口1/8	外褐色~暗赤褐色, 内褐色~赤褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキのち赤彩(摩滅)	墓2-8	外2-015	内外赤彩
191	墓2	高杯			6.5	底3/4	外淡褐色~赤褐色, 内淡褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(摩滅)のち赤彩, ヨコナデ	ミガキ(摩滅)のち赤彩	N6E3-9	N6E3-027	内外赤彩
192	墓2	甕			(6.2)	底1/4	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ナデ(ヨコ方向), 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	墓2-5	外2-012	
193	墓2	壺			5.3	底完	橙褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N6E3-1	N6E3-028	
194	墓2	壺			(9.8)	底1/2	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	摩滅	墓2-2	外2-009・015・017・019	
195	墓2	壺			9.4	底ほぼ 完	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(ヨコ方向), 底部ナデ	ナデ	墓2-1	外2-008	
196	墓2	甕	B2		(12.4)	口一部	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋, 籐状紋, 櫛状沈線, 4単位ボタン状貼付紋	摩滅, 胴部ハケメ	墓2-10	外2-005 N9E6-054	
197	墓2	壺			(9.1)	底ほぼ 1/2	淡褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	頸部横帯沈線, 胴部ミガキ(ヨコ方向), 摩滅, 底部ナデ	ナデ, 指頭圧痕あり	墓2-14	外2-001・013, N9E6-054	
198	墓2	壺	A		(9.6)	口1/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 頸部横帯沈線, 刺突紋, 摩滅	ナデ?(摩滅)	墓2-12	外2-009	
199	墓2	壺				頸部片	淡褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~粗粒	横帯沈線, 山形沈線紋, L R ヨコ方向縄	ナデ(摩滅)	墓2-13	外2-010	
200	墓2	台付 甕				脚部片	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ハケメ又は工具によるナデ, 摩滅	ナデ	墓2-11	外2-015・017・018, N9E6-054	
201	墓2	甕	A		(7.8)	口一部	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋	工具によるナデ	墓2-7	外2-007	
202	墓2	甕	A		7.6	口完	暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ?(摩滅)	指ナデ?(摩滅)	墓2-6	外2-006	
203	墓2	甕	B2		(16.6)	口1/6	灰褐色	長石, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 山形沈線紋, 摩滅, 籐状紋	摩滅	墓2-9	外2-013, N9E6-054	
204	墓2	甕				胴部片	淡褐色~暗茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅	工具によるナデ	墓2-4	外2-010	
205	墓2	甕			8.5	底完	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	墓2-3	外2-002	
206	墓1	壺	A		(11.3)	口1/6	外褐色~赤褐色, 内褐色~赤褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ(タテ方向)のち赤彩, 籐状紋	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩, ナデ?	墓1-11	外1-006	内外上部赤彩
207	墓1	壺	A		(9.2)	口一部	外赤褐色, 内赤褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ(タテ方向)のち赤彩	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	墓1-8	外1-002	内外赤彩
208	墓1	高杯				杯部片	外褐色~赤褐色, 内褐色~赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向)のち赤彩	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	墓1-10	外1-009	内外赤彩
209	墓1	壺			(9.6)	底2/3	淡褐色~褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部ナデ?(摩滅)	摩滅, 指頭圧痕	墓1-14	外1-014, N9E3-051	
210	墓1	壺				頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 横帯沈線	摩滅	墓1-9	外1-006	
211	墓1	壺				頸部片	淡褐色~暗茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	R L ヨコ方向縄, 波状紋, 横帯沈線, ミガキ?(摩滅)	摩滅	墓1-16	外1-011	
212	墓1	壺			7.6	底ほぼ 完	淡褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E3-1	N9E3-049・051	
213	墓1	壺			(5.0)	底1/2	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ?(摩滅), 底部ナデ	工具によるナデ, 指頭圧痕	墓1-3	外1-012	
214	墓1	壺			(8.4)	底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部ナデ?(摩滅)	摩滅	墓1-13	外1-002・010, N9E3-052	
215	墓1	壺	B2		16.9	口完	褐色	褐色, 灰色, 微~粗粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 横帯沈線	摩滅	墓1-17	外1-002・003・020, N9E3-051・052	
216	墓1	壺			7.4	底2/3	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ?(摩滅), 底部ナデ	ハケメ?(摩滅)	墓1-4	外1-001	
217	墓1	壺?			6.1	底ほぼ 完	褐色~茶褐色	褐色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部ナデ	摩滅, 指頭圧痕	墓1-5	外1-007, N9EW0-045	
218	墓1	甕			7.9	底完	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~粗粒	工具によるナデ, 指頭圧痕, 底部ナデ	ナデ	墓1-2	外1-003	
219	墓1	甕			(7.0)	底1/4	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部ナデ	摩滅, 指頭圧痕	墓1-6	外1-015	
220	墓1	甕			11.9	底完	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向)?摩滅, 底部ナデ	ナデ(摩滅), 指頭圧痕	墓1-1	外1-005	
221	墓1	甕			(9.2)	底ほぼ 1/2	褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向), 指頭圧痕	墓1-7	外1-009	内面赤色顔料付着
222	墓1	台付 甕			8.2	底1/2	淡暗褐色~褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ?(摩滅), ヨコナデ	摩滅	墓1-12	外1-011・013, N9E3-051	
223	墓1	壺				頸部片	暗茶褐色~褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅(細紋?), ミガキ(タテ方向)	ミガキ(ヨコ方向)?, 摩滅	墓1-15	外1-003, N9E3-051	
224	墓3	鉢			(9.4)	口1/12	外赤褐色~褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ(摩滅)	ミガキ(摩滅)	墓5-9	外5-003	内外赤彩

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
225	墓3	鉢				(3.6)	底1/4	外褐色～赤褐色 褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ミガキ(摩滅), 底部摩滅	ミガキ(摩滅)	墓5-9	ハ5-002	内外赤彩
226	墓3	壺	A		(10.8)		口ほぼ欠	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ(タテ方向), ハケメ, 横帯沈線, ヘラ描山形紋, 櫛描波状紋	工具によるナデ	墓3-4	ハ3-003, N12E6-071	
227	墓3	壺					頸部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	摩滅	摩滅	墓5-5	ハ5-003	
228	墓3	壺				(7.6)	底1/2	淡褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	墓5-1	ハ5-003	
229	墓3	壺				(5.6)	底1/4	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	墓3-3	ハ3-007	
230	墓3	壺					胴部片	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	ハケメ	墓3-7	ハ3-002	
231	墓3	甕					頸部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ?(摩滅)	ナデ(摩滅)	墓5-7	ハ5-003	
232	墓3	壺					頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線	摩滅	墓3-2	ハ3-002	
233	墓3	甕				(9.8)	底1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅, 指頭圧痕	墓5-3	ハ5-003	
234	墓3	壺				8.8	底完	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	ナデ(摩滅), 底部ナデ	ハケメ, 指頭圧痕	墓3-1	ハ3-001	
235	墓3	壺				(6.8)	底1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	墓5-2	ハ5-003	
236	墓3	台付壺				(5.6)	底ほぼ1/2	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	ナデ(摩滅)	墓3-5	ハ3-005	
237	墓3	甕				(4.0)	底ほぼ1/4	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ(摩滅)	ナデ(摩滅)	墓5-4	ハ5-004	
238	墓3	甕				3.0	底ほぼ1/2	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ(摩滅)	ナデ(摩滅)	墓3-6	ハ3-003	
239	墓3	甕	A		(17.8)		口1/12	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇キザミ, 口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅, 指頭圧痕	墓5-6	ハ5-003	
240	墓3	甕	A		(15.4)		口1/4	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, R L ヨコ方向繩, ミガキ(摩滅), 波状紋	ハケメ	墓5-10	ハ5-003, N12E6-071	
241	墓3	耳飾		1.65	(2.2)	(2.3)	口2/3 底1/2	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒			墓5-11	ハ5-001	
242	墓4	鉢				(5.2)	底1/5	外褐色～赤褐色 内褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	墓4-9	ハ4-001	内外赤彩 (摩滅)
243	墓4	壺					頸部片	淡褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	横帯沈線, ミガキ(ヨコ方向)	摩滅	墓4-15	ハ4-007	
244	墓4	高杯				(12.4)	底1/6	褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向)のち赤彩, ヨコナデ	工具によるナデ	墓4-10	ハ4-001	外面赤彩
245	墓4	壺	A		(14.6)		口1/8	外褐色, 内褐色 ～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	墓4-12	ハ4-007	内面赤彩
246	墓4	壺					頸部片	外褐色, 内褐色 ～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ハケメ, 横帯沈線	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	墓4-13	ハ4-007	内面赤彩
247	墓4	壺					頸部片	淡褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	横帯沈線, 山形沈線紋, ミガキ(タテ方向)のち赤彩	摩滅	墓4-11	ハ4-009	外面赤彩
248	墓4	壺				(14.8)	底ほぼ1/2	暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ナデ(摩滅), 底部ナデ(摩滅)	ハケメ	墓4-1	ハ4-003	
249	墓4	壺					頸部片	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線, 繩紋(摩滅), 簾状紋	摩滅	墓4-16	ハ4-012	
250	墓4	壺				(9.2)	底1/3	淡褐色～橙褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	ナデ(摩滅)	墓4-8	ハ4-001	
251	墓4	甕				(6.9)	底1/4	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	工具によるナデ, 指頭圧痕	墓4-6	ハ4-013	
252	墓4	甕				(5.8)	底1/4	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	ナデ(摩滅), 指頭圧痕	墓4-3	ハ4-001	
253	墓4	甕	B1		(9.4)		口1/8	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇繩紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, 山形沈線紋, 簾状紋	ナデ	墓4-14	ハ4-013	
254	墓4	甕				(6.6)	底1/4	褐色	石英, 長石, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	ミガキのち工具によるナデ, ナデ(摩滅)	工具によるナデ	墓4-2	ハ4-001	
255	墓4	壺				(7.2)	底1/3	褐色～茶褐色	長石, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅, 指頭圧痕	墓4-5	ハ4-001	
256	墓4	甕				4.7	底完	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ?(何らかの圧痕あり)	指ナデ	墓4-4	ハ4-018	
257	墓4	甕				(4.6)	底1/3	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅, 穿孔のちナデ	摩滅	墓4-7	ハ4-001	
258	墓1-3 周辺	鉢		7.35	(18.0)	(7.6)	口1/3 底1/2	外淡褐色～赤褐色 内淡褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 4単位?の突起貼付のちナデ, 穿孔, ミガキ(摩滅)のち赤彩, 底部ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩	N12E3-12 N12E6-071	N12E3-069 N12E6-071	内外, 底部赤彩
259	墓1-3 周辺	高杯(鉢)			(13.2)		口1/8	外褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N6E3-10	N6E3-033	内外赤彩
260	墓1-3 周辺	鉢(高杯)			(12.8)		口1/8	外褐色, 内暗赤褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	N9E6-11	N9E6-054	内外赤彩 (外面摩滅)
261	墓1-3 周辺	鉢			(7.8)		底1/5	外褐色～暗茶褐色 内褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(ヨコ方向), 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	N6E6-1	N6E6-034	内面赤彩
262	墓1-3 周辺	鉢			(13.8)		口1/12	外褐色～赤褐色	褐色, 灰色, 微～粗粒	口縁ヨコナデ, ハケメのちミガキ(摩滅)のち赤彩	ハケメのちミガキ(摩滅)のち赤彩	N9E3-14	N9E3-051	内外赤彩
263	墓1-3 周辺	鉢?			(13.8)		口1/6	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N12E6-6	N12E6-071	
264	墓1-3 周辺	壺			(15.4)		口1/6	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	ミガキ(ヨコ方向)	N9E3-9	N9E3-052	
265	墓1-3 周辺	高杯?			(6.3)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	N9E6-5	N9E6-054	外面, 杯部内面赤彩?
266	墓1-3 周辺	高杯?					脚部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向?)摩滅	ナデ(摩滅)	N12E6-7	N12E6-071	
267	墓1-3 周辺	甕					頸部片	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	頸部簾状紋, 胴部波状紋	ハケメのち工具によるナデ	N9E3-18	N9E3-051	
268	墓1-3 周辺	大首壺	B2		(14.6)		口1/12	淡褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 突起(単位不明)貼付, 山形沈線紋, 摩滅	摩滅	N12E3-8	N12E3-069	
269	墓1-3 周辺	壺	B2		(15.8)		口1/5	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋?(摩滅), 摩滅	摩滅	N9E3-8	N9E3-051	
270	墓1-3 周辺	壺	A	32.9 5	(14.9)	9.1	口一部 底ほぼ完	褐色～黒褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 頸部 R L ヨコ方向繩, 横帯沈線, ミガキ(タテ方向), 櫛描横線紋, 刺突紋, 底部(摩滅)	ナデ(摩滅)	N12E6-9	N12E6-071	
271	墓1-3 周辺	壺					胴部片	褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅	ナデ(摩滅)	N12E6-8	N12E6-071	
272	墓1-3 周辺	壺					胴部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	横帯沈線, 山形沈線紋	摩滅	N6E3-16	N6E3-033	

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
273	墓1-3 周辺	壺					頭部片	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線, 山形沈線紋	ナデ(摩滅)	N12E3-11	N12E3-069	
274	墓1-3 周辺	短頸 壺					頸部片	外褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	ミガキ(ヨコ方向)の ち赤彩, 摩滅	N9E3-15	N9E3-051	外面, 内面 上部赤彩
275	墓1-3 周辺	台付 甕					脚部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～ 砂粒	摩滅	摩滅	N12E3-9	N12E3-068	
276	墓1-3 周辺	台付 甕					脚部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	ナデ, 工具によるナデ	N6E3-6	N6E3-030	
277	墓1-3 周辺	壺	B1		(12.6)		口1/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, L R ヨコ方向繩, 山 形沈線紋, 摩滅	摩滅	N6E3-12	N6E3-030	
278	墓1-3 周辺	壺					頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ?(摩滅), 横帯沈線, 簾状紋, 山形沈線紋, 波状紋, ハケメ	ナデ	N9E3-16	N9E3-051	
279	墓1-3 周辺	壺					頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ?(摩滅), 横帯沈線, 簾状紋, 山形沈線紋, 波状紋, 摩滅	ナデ	N9E3-17	N9E3-051	
280	墓1-3 周辺	壺					頸部片	淡褐色～褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線, 波状紋, 押し引き 紋, 繩紋?(摩滅), 波状紋	摩滅	N12E3-10	N12E3-069, N12E6-071	
281	墓1-3 周辺	壺					頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	R L ヨコ方向繩, 横帯沈線, 摩滅	摩滅	N9E3-12	N9E3-051	
282	墓1-3 周辺	壺					胴部片	暗褐色～赤褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ミガキ(摩滅)のち赤彩, 横帯沈線	ナデ	N9E3-13	N9E3-051	外面赤彩
283	墓1-3 周辺	壺			(7.4)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ハケメ	N9E3-3	N9E3-051	
284	墓1-3 周辺	壺			(7.4)		底1/2	黒褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部摩滅	ナデ	N12E6-3	N12E6-071	
285	墓1-3 周辺	壺			7.6		底完	淡褐色～褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N12E6-1	N12E6-071	
286	墓1-3 周辺	壺			(11.1)		底一部	褐色～茶褐色	石英, 長石, 褐色, 灰色, 微～ 砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	ナデ, 指頭圧痕	N6E3-5	N6E3-032	
287	墓1-3 周辺	壺			(15.0)		底1/6	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 黒 色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E3-4	N12E3-068	
288	墓1-3 周辺	壺			(11.8)		底一部	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E3-2	N9E3-051	
289	墓1-3 周辺	有孔 土製品						褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ナデ, 穿孔のちナデ	ナデ	N9E6-10	N9E6-055	
290	墓1-3 周辺	壺			(7.9)		底一部	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E3-6	N9E3-051	
291	墓1-3 周辺	壺			(10.0)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E6-2	N9E6-054	
292	墓1-3 周辺	壺			(10.4)		底1/6	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E6-3	N9E3-055	
293	墓1-3 周辺	壺			(6.6)		底1/3	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ハケメ	N12E6-2	N12E6-071	
294	墓1-3 周辺	甕	A		(9.4)		口1/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N9E6-7	N9E6-054	
295	墓1-3 周辺	甕	A		(18.8)		口1/8	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 波状紋	摩滅	N6E3-13	N6E3-030	
296	墓1-3 周辺	甕	A		(13.0)		口一部	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 頸部簾状紋, 羽状紋	摩滅	N9E3-11	N9E3-051	
297	墓1-3 周辺	甕					頸部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	波状紋	摩滅	N9E6-8	N9E6-055	
298	墓1-3 周辺	甕	B1		(21.4)		口1/12	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 沈線紋(波状紋?), 摩滅	摩滅	N6E3-15	N6E3-032	
299	墓1-3 周辺	甕					頸部片	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 波状紋	摩滅	N9E6-9	N9E6-055	
300	墓1-3 周辺	甕	B1		(14.7)		口1/12	暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋, 橋掛条線紋	ナデ	N12E3-7	N12E3-068	
301	墓1-3 周辺	甕	B2		(16.0)		口1/6	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇キザミ, 口縁ヨコナデ, 波状紋, 簾状紋, 摩滅	摩滅	N9E6-6	N9E6-054	
302	墓1-3 周辺	甕	B1		(14.2)		口1/8	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～ 砂粒	口縁ヨコナデ, R L ヨコ方向繩, ナ デ	ミガキ(摩滅)	N12E3-6	N12E3-068	
303	墓1-3 周辺	甕	B2		(11.6)		口1/8	暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇繩紋?(摩滅), 口縁ヨコナデ, 山 形沈線紋, 摩滅	ミガキ(ヨコ方向)	N9E3-10	N9E3-051	
304	墓1-3 周辺	甕	B1		(15.6)		口1/8	褐色	長石, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇繩紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, L R ヨコ方向繩, 山形沈線紋, 摩滅	摩滅	N6E3-14	N6E3-030	
305	墓1-3 周辺	甕			(7.4)		底1/4	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E6-4	N9E6-054	
306	墓1-3 周辺	甕			(7.6)		底1/4	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	摩滅	N6E3-3	N6E3-030	
307	墓1-3 周辺	甕			(8.2)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N12E3-3	N12E3-068	
308	墓1-3 周辺	甕			(6.6)		底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部ナデ(摩滅), 指頭圧痕	摩滅, 指頭圧痕	N9E6-1	N9E6-054	
309	墓1-3 周辺	甕			(8.4)		底3/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 工具によるナ デ?(摩滅), 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N12E6-4	N12E6-071	
310	墓1-3 周辺	甕			(7.0)		底1/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N9E3-4	N9E3-051	
311	墓1-3 周辺	甕			(10.2)		底1/3	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～ 砂粒	摩滅, 底部摩滅	指ナデ?(摩滅)	N12E3-2	N12E3-069	
312	墓1-3 周辺	甕			(6.2)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N6E3-4	N6E3-030	
313	墓1-3 周辺	甕			(6.2)		底1/2	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	工具によるナデ	N12E6-5	N12E6-071	
314	墓1-3 周辺	甕			(7.4)		底1/5	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	ハケメ, 底部摩滅	ハケメ	N9E3-5	N9E3-051	
315	墓1-3 周辺	甕			6.7		底ほぼ 完	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	指ナデ?(摩滅)	N12E3-1	N12E3-068	
316	墓1-3 周辺	甕			(5.6)		底1/4	茶褐色～暗茶 褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅, 焼成前穿孔のちナ デ	ナデ	N12E3-5	N12E3-068	
317	墓1-4 間	壺	A		(10.4)		口1/8	褐色	長石, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 横帯沈線	摩滅	N6E3-11	N6E3-017	
318	墓1-4 間	台付 甕			(8.8)		底1/2	淡褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	N6E3-8	N6E3-025	
319	墓1-4 間	台付 甕					脚部片	褐色	石英, 長石, 褐色, 灰色, 微～ 砂粒	ハケメのちミガキ(タテ方向)	ミガキ(ヨコ方向), ナ デ, 指ナデ	N6E3-7	N6E3-020	

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
320	墓1-4 間	壺				(9.9)	底2/3	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部ナデ	指ナデ, 指頭圧痕	N6E3-2	N6E3-023	
321	墓4 周辺	甕	B2		(17.4)		口1/12	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋, 簾状紋	摩滅	N3E0-2	N3E0-002	
322	墓4 周辺	高杯?					脚部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	ミガキ(ヨコ方向)? 摩滅, 工具によるナデ	N3E0-3	N3E0-003	
323	墓4 周辺	甕	A		(9.4)		口1/3	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇キザミ, 口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N3E0-1	N3E0-002	
324	墓1-2 間	高杯				8.6	底2/3	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	凸帯貼付(剝離), ミガキ?(摩滅), ヨコナデ	ミガキ?(摩滅), 摩滅	N9E3-7	N9E3-047	
325	グリット N3	甕			(16.2)		口1/10	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 波状紋?	摩滅	N3W3-5	N3W3-007	弥生後期
326	グリット N3	甕			(7.0)		底1/5	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ	ナデ	N3W3-2	N3W3-007	
327	グリット N3	甕	B1		(15.2)		口1/10	褐色～暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅, 工具によるナデ?(摩滅)	摩滅	N3W3-4	N3W3-007	
328	グリット N3	甕			(8.2)		底1/4	淡褐色～灰色	褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ(摩滅), 底部ナデ(摩滅)	ナデ(摩滅)	N3W3-1	N3W3-007	
329	グリット N3	甕			(5.6)		底3/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	工具によるナデ(摩滅), 底部ナデ(摩滅)	ナデ(摩滅)	N3W3-3	N3W3-008	
330	グリット N12	壺			(11.6)		底一部	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N12E0-4	N12E0-066	
331	グリット N12	壺			(7.0)		底一部	茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12W3-2	N12W3-076	
332	グリット N12	壺			(8.6)		底1/4	淡褐色～淡暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-1	N12E0-065	
333	グリット N12	壺			(6.6)		底1/4	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12W3-1	N12W3-073	
334	グリット N12	壺			(8.6)		底1/8	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-5	N12E0-066	
335	グリット N12	壺			(11.0)		底1/5	灰色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-2	N12E0-064	
336	グリット N12	甕			(7.2)		底1/2	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-7	N12E0-063	
337	グリット N12	壺			(7.4)		底1/2	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-3	N12E0-066	
338	グリット N12	甕			(4.6)		底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-6	N12E0-065	
339	グリット N12	台付甕			(7.6)		底一部	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅, 工具によるナデ	N12W3-3	N12W3-075	
340	グリット N12	台付甕			(7.9)		底一部	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	ナデ, 摩滅	N12E0-10	N12E0-064	
341	グリット N12	台付甕			(8.1)		底一部	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	N12E0-9	N12E0-061	
342	グリット N12	台付甕					脚部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	摩滅, 工具によるナデ	N12E0-11	N12E0-064	
343	グリット N12	甕			(4.6)		底1/3	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N12E0-8	N12E0-066	
344	グリット N12	土製品						褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	摩滅	N12E0-12	N12E0-063	
345	グリット N15	高杯?					脚部片	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	摩滅	N15E0-5	N15E0-147	
346	グリット N15	壺	A		(13.8)		口1/16	淡褐色～褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N15E3-15	N15E3-159	
347	グリット N15	壺					頸部片	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線	摩滅	N15E3-17	N15E3-159	
348	グリット N15	壺			(13.8)		底1/5	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-10	N15E3-157	
349	グリット N15	壺			(12.0)		底3/5	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-12	N15E3-157	
350	グリット N15	壺			(7.8)		底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-11	N15E3-157	
351	グリット N15	甕			7.2		底ほぼ完	暗褐色～褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-7	N15E3-154	
352	グリット N15	甕			(6.8)		底1/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N15E3-8	N15E3-157	
353	グリット N15	壺			(11.6)		底5/6	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅(何らかの圧痕あり)	摩滅	N15E0-1	N15E0-145	
354	グリット N15	甕	A		(13.8)		口1/12	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N15E3-14	N15E3-157	
355	グリット N15	甕			(8.9)		底1/2	淡褐色～黒褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ(摩滅)	摩滅	N15E3-1	N15E3-152	
356	グリット N15	甕			(9.8)		底一部	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ハケメ, 底部ナデ(摩滅)	摩滅	N15E3-13	N15E3-159	
357	グリット N15	甕			7.6		底3/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	摩滅, 指頭圧痕, 底部摩滅	摩滅	N15E3-2	N15E3-153・157	
358	グリット N15	甕	A		(9.2)		口1/8	暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N15E3-16	N15E3-157	
359	グリット N15	甕			(9.0)		底1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-4	N15E3-158	
360	グリット N15	甕			(8.6)		底1/3	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E3-9	N15E3-158	
361	グリット N15	甕			(7.6)		底1/2	淡褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部摩滅	摩滅	N15E0-2	N15E0-148	
362	グリット N15	甕			(7.2)		底1/3	褐色～暗茶褐色	長石, 褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部ナデ, モミ圧痕, 工具による圧痕	ナデ	N15E3-3	N15E3-158	
363	グリット N15	甕			(6.4)		底1/5	褐色	石英, 長石, 褐色, 灰色, 黒色, 微～粗粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N15E0-4	N15E0-146	
364	グリット N15	甕			(6.2)		底1/4	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N15E3-5	N15E3-157	
365	グリット N15	甕			(6.6)		底1/4	茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～粗粒	摩滅, 底部摩滅	工具によるナデ	N15E0-3	N15E0-146	
366	グリット N15	甕			(5.2)		底1/4	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	工具によるナデ, 底部摩滅	摩滅	N15E3-6	N15E3-159	

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
367	グレット N18	高杯 の脚?				(14.2)	底1/8	淡褐色～暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～粗粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	N18W3-1	N18W3-165	
368	グレット N18	壺	A		(20.6)		口1/6	茶褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口唇キザミ, 口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N18EW0-1	N18EW0-162	
369	グレット N18	壺				(4.4)	底1/4	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N18EW0-3	N18EW0-162	
370	グレット N18	甕				(5.8)	底1/4	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	N18EW0-2	N18EW0-162	
371	グレット N21	壺	A		(13.6)		口1/8	褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	N21W3-3	N21W3-081	
372	グレット N21	壺					頸部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微～砂粒	ナデ, 多連止め簾状紋	摩滅	N21W3-4	N21W3-081	弥生後期
373	グレット N21	壺	A		(13.6)		口1/10	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	山形沈線紋, 横帯沈線, 摩滅	N21EW0-6	N21EW0-077	
374	グレット N21	鉢				(9.1)	底一部	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N21EW0-4	N21EW0-077	
375	グレット N21	壺				(8.0)	底1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N21EW0-5	N21EW0-079	
376	グレット N21	甕				(5.8)	底1/6	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N21EW0-1	N21EW0-079	
377	グレット N21	甕				(5.0)	底1/4	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N21EW0-2	N21EW0-077	
378	グレット N21	壺?				(6.2)	底一部	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N21EW0-3	N21EW0-077	
379	グレット N21	甕				(8.2)	底1/5	褐色	長石, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N21W3-1	N21W3-082	
380	グレット N21	壺				(7.8)	底1/8	暗茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ナデ, 底部摩滅	摩滅	N21W3-2	N21W3-082	
381	グレット N24	鉢			(11.2)		口1/8	外褐色, 内褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	ミガキ(摩滅)のち赤彩	N24E6-6	N24E6-119	内外赤彩 (外面は剥離)
382	グレット N24	壺	A		(13.2)		口1/8	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, LRヨコ方向縄, 摩滅	摩滅	N24E6-8	N24E6-119	
383	グレット N24	甕	A		(11.2)		口1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 頸部簾状紋, 摩滅	摩滅	N24E6-7	N24E6-119・121・122	
384	グレット N24	壺	B2		(16.6)		口1/3	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋, 縦羽状条線紋	摩滅	N24E6-9	N24E6-121	
385	グレット N24	甕	B2	19.9 5	(19.2)	5.8	口1/6 底2/3	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 波状紋, ボタン狀貼付, ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	ハケメ, 工具によるナデ	N24E6-12	N24E6-121・122	
386	グレット N24	甕	A		(18.4)		口1/5	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 簾状紋	摩滅	N24E6-10	N24E6-120	
387	グレット N24	甕	A		16.9		口1/3	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 簾状紋, 縦羽状条線紋, 摩滅	工具によるナデ	N24E6-11	N24E6-121・122	
388	グレット N24	壺				6.8	底ほぼ完	淡褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅, 指頭圧痕	N24E6-1	N24E6-122	
389	グレット N24	甕				(5.6)	底1/2	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	N24E6-2	N24E6-120	
390	グレット N24	壺				(5.8)	底1/4	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24E6-4	N24E6-119	
391	グレット N24	甕				(8.2)	底1/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	N24E6-3	N24E6-119	
392	グレット N24	台付 甕					脚部片	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅	摩滅, ナデ	N24E6-5	N24E6-120	
393	検出 面	高杯					杯脚部片	外淡褐色～赤褐色, 内淡褐色～赤褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ミガキ(摩滅)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩, 工具によるナデ	検-5	A検-006	外面, 杯部 内面赤彩
394	検出 面	高杯					杯脚部片	外褐色～赤褐色, 内褐色～赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ミガキ(タテ方向)のち赤彩	ミガキ(摩滅)のち赤彩, ナデ	検-6	A検-004	外面, 杯部 内面赤彩
395	検出 面	高杯?				(7.1)	底1/4	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	検-8	A検-004	
396	検出 面	台付 壺				(5.2)	底1/2	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	ナデ(摩滅), ヨコナデ	工具によるナデ, 指ナデ, ナデ(摩滅)	検-7	A検-006	
397	検出 面	甕				(5.0)	底1/4	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部(摩滅)	摩滅	検-2	A検-003	
398	検出 面	甕				(7.4)	底1/2	淡褐色～褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部(摩滅)	ナデ(摩滅)	検-1	A検-006	
399	検出 面	甕	B2		(18.2)		口一部	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 山形沈線紋, 波状紋	工具によるナデのちミガキ(ヨコ方向)	検-4	A検-004	
400	検出 面	壺					胴部片	淡褐色～褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	横帯沈線, 山形沈線紋, 重三角紋, 摩滅	摩滅	検-9	A検-004	
401	検出 面	壺	B2		(14.0)		口1/8	褐色～灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	検-3	A検-004	時期不明
402	5住	壺	B2		(12.2)		口1/8	褐色～暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	5住-22	5住-057	
403	5住	壺					頸部片	褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 横帯沈線	摩滅	5住-24	5住-030	
404	5住	壺	A		8.2		口3/4	淡褐色	褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, LRヨコ方向縄, 横帯沈線, ナデ(摩滅)	ナデ(摩滅), ハケメ	5住-29	5住-041	
405	5住	壺			(10.4)		底1/5	褐色～茶褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-3	5住-026	内部炭化物 付着
406	5住	壺			9.3		底完	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 白色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-1	5住-033	
407	5住	壺			(8.0)		底1/4	淡褐色～暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	摩滅, 底部摩滅	ハケメ, 指ナデ	5住-2	5住-049	
408	5住	壺	A		19.0		口4/5	淡褐色～暗褐色	雲母, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	口唇キザミ, 口縁ヨコナデ, 斜線紋, ミガキ(摩滅)	ミガキ(摩滅)	5住-28	5住-040	外面すす付 着
409	5住	壺	B1		(13.6)		口1/6	褐色～茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微～砂粒	口唇RLヨコ方向縄, 口縁ヨコナデ, 山形沈線紋, ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	5住-23	5住-008	
410	5住	台付 壺			5.6		底完	暗灰褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	ナデ, ヨコナデ	工具によるナデ, ナデ	5住-16	5住-043	
411	5住	台付 壺?			3.3		底完	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微～砂粒	摩滅, ヨコナデ	摩滅	5住-25	5住-049	
412	5住	壺	A		(15.4)		口1/5	褐色～暗褐色	褐色, 灰色, 微～砂粒	口縁ヨコナデ, 4単位突起貼付のちナデ, 摩滅	タテ方向のキザミ, 摩滅	5住-19	5住-012	

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外面	内面			
413	5住	甕	A		(18.6)		口1/12	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, 櫛描横線紋, 縦羽状条痕	摩滅, ミガキ(ヨコ方向)	5住-20	5住-056	
414	5住	甕	A		(18.2)		口1/12	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口唇縄紋?(摩滅), 口縁ヨコナデ, 摩滅, 櫛描紋(縦羽状条痕?)	摩滅	5住-18	5住-002-055	
415	5住	甕	A		(18.6)		口1/8	褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口唇縄紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, 摩滅	摩滅	5住-21	5住-049	
416	5住	甕	A	34.0	28.5	10.0	口1/2 底完	淡褐色~暗褐色	雲母, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	口唇縄紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, 波状紋, ミガキ(摩滅), ハケメ, 底部ナデ	ハケメのちミガキ(摩滅), ハケメ, 工具によるナデ	5住-27	5住-031	
417	5住	甕	A		(19.4)		口1/3	茶褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	口唇縄紋(摩滅), 口縁ヨコナデ, 摩滅, 櫛羽状条痕のち斜条痕	ミガキ(ヨコ方向), 摩滅	5住-17	5住-038-039-049	
418	5住	甕				(8.0)	底1/3	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ミガキ(摩滅)	5住-6	5住-014	
419	5住	甕				(5.2)	底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-15	5住-054	
420	5住	甕				4.9	底完	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-13	5住-061	
421	5住	甕				(4.6)	底1/4	茶褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	工具によるナデ	5住-14	5住-047	
422	5住	甕				(7.6)	底1/3	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-10	5住-018	
423	5住	甕				(5.2)	底1/4	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(摩滅), 底部摩滅	ミガキ(摩滅)	5住-8	5住-056	
424	5住	甕				(5.8)	底1/4	暗灰褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部ナデ	工具によるナデ	5住-11	5住-056	
425	5住	壺				(8.8)	底1/3	褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-12	5住-015	
426	5住	甕				7.5	底1/6	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部剝離	工具によるナデ	5住-4	5住-024-034	
427	5住	甕				(7.8)	底1/3	褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	5住-7	5住-066	
428	5住	壺				(9.1)	底1/6	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ハケメ(ヨコ方向)?	5住-9	5住-062	
429	5住	甕				(6.6)	底1/2	淡褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 工具によるナデ, 底部ナデ, 穿孔のちナデ	ハケメ	5住-5	5住-023	
430	5住	不明						褐色~灰褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒			5住-26	5住-056	
431	6住	甕				(8.2)	底1/2	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ハケメのちミガキ(タテ方向)?, 底部ナデ	ミガキ(ヨコ方向)	6住-1	6住-002	
432	土坑6	壺				(8.4)	底1/6	褐色~暗茶褐色	褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	土6-1	土6-004	
433	土坑6	甕				(6.8)	底1/4	褐色~茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(摩滅), 摩滅	摩滅	土6-2	土6-006	
434	土坑6	甕					頸胴片	茶褐色~暗褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	頸部縷状紋, ハケメのち波状紋	ハケメ, 工具によるナデ	土6-3	土6-004	
435	土坑15	鉢				(6.6)	底1/2	外淡褐色~褐色, 内暗赤褐色~暗灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微~砂粒	摩滅(赤彩)?, 底部摩滅	ミガキ(摩滅)のち赤彩	土15-1	土15-001	内面赤彩(外面も赤彩?)
436	南壁	甕				(5.8)	底1/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ	南壁-1	南かへ-001	
437	溝3	壺				(7.2)	底1/3	褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	剝離	溝3-1	溝3-006, A検-008	
438	溝3	甕				(6.1)	底1/5	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 黒色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	溝3-2	溝3-006	
439	東T	鉢				(13.0)	口1/10	外褐色~赤褐色, 内褐色~暗赤褐色	褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	口縁ヨコナデ, ミガキのち赤彩(摩滅)	ミガキ(ヨコ方向)のち赤彩	東T-1	東T-004	内外赤彩
440	東T	壺				(7.8)	底一部	褐色~赤褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向)のち赤彩(摩滅), 底部(摩滅)	摩滅	東T-2	東T-001	外面赤彩
441	P42	壺				9.4	底3/5	褐色~暗茶褐色	褐色, 灰色, 白色, 黒色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), ミガキ(ヨコ方向), 底部摩滅	摩滅	P42-1	P42-011	
442	排土	壺				(7.6)	底1/6	褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	排土-1	排土-003	
443	包含層	壺				(9.8)	底1/4	淡褐色~褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	包含-2	A検-005	
444	包含層	壺?				6.6	底ほぼ完	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	工具によるナデ(摩滅)	包含-3	A検-010	
445	包含層	甕				(6.2)	底2/3	褐色~暗褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	指ナデ	包含-1	A検-005	
446	ST1	鉢				7.5	底完	外淡褐色~褐色, 内褐色~赤褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	ミガキのち赤彩(摩滅), 底部摩滅	ミガキ(摩滅)のち赤彩	ST-1	不1-001	内外赤彩?(外面摩滅)
447	検出面	鉢又は高杯				(17.4)	口1/5	外褐色, 内褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	口縁ヨコナデのち凸帯貼付(4単位), ミガキのち赤彩(摩滅)?	ミガキのち赤彩(摩滅)?	検-8	A検-008	内外赤彩?(摩滅)
448	検出面	壺					胴部片	淡褐色~褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(摩滅)	ナデ(摩滅)	検-11	025, 検N18.9E1.3	古墳前期又は中期?
449	検出面	直口壺					頸胴片	淡褐色~褐色	褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(摩滅)	ナデ, まき上げ痕	検-9	025, 検N18.9E1.3	古墳前期又は中期?
450	検出面	甕				(5.6)	底一部	褐色~茶褐色	褐色, 灰色, 微~砂粒	工具によるナデ(摩滅), 底部摩滅	ナデ(摩滅)	検-5	A検-013	
451	検出面	甕				(7.2)	底1/3	褐色~暗灰褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	ナデ(摩滅)	ミガキ(タテ方向), ナデ	検-3	A検-012	
452	検出面	甕				(7.4)	底1/4	暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	摩滅	検-4	A検-013	
453	検出面	台付甕				(4.6)	底1/5	褐色	石英, 褐色, 灰色, 微~砂粒	工具によるナデのち粘土貼付, ヨコナデ	ナデ	検-6	A検-008	
454	検出面	台付甕				(8.4)	底1/3	淡褐色~褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向)摩滅, ヨコナデ	ナデ(摩滅)	検-7	A検-002	
455	検出面	壺				8.8	底完	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向), 底部摩滅	ナデ	検-2	A検-003	
456	検出面	壺				6.4	底完	淡褐色~褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部摩滅	ナデ(摩滅)	検-1	A検-003	
457	検出面	壺				3.9	底ほぼ完	褐色	褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	摩滅, 底部中央部に何らかの調整	ナデ(摩滅)	検-10	025, 検N18.9E1.3	古墳前期又は中期?
458	試掘トンチ	壺				12.4	底完	褐色~暗茶褐色	石英, 褐色, 灰色, 白色, 微~砂粒	ミガキ(タテ方向)摩滅, 底部ナデ	ナデ	試T-1	試T1-002-003	

2 石器 (第 11～13 表・第 25～34 図)

第 1・2 次調査で回収した石器は総数 773 点(1 次 611 点・2 次 162 点)である。その内、自然石と判断したもの等(1 次 67 点・2 次 4 点)を除く 702 点(1 次 544 点・2 次 158 点)を報告対象とした。共伴する土器型式から弥生時代に帰属するものが主体を占めると推測される。定形的な石器を中心に 99 点を図示(第 25～34 図)し、剥片・碎片・礫片を除く石器の観察表(第 11 表)、全石器を対象に石材単位の器種組成(第 12 表)、出土地点単位の器種組成(第 13 表)を示した。各石器の調査回数・出土地点等は石器観察表を参照されたい。以下、図示したものを中心に概要を述べる。なお、実測図中における研磨・磨耗面については線條痕が観察できたものについては可能な限り図示したが、白抜き表現のものもある。また、小範囲で表現に限界があると判断したものについては、スクリーントーンと断面図に矢印を付し表現した。

(1) 打製石鏃 (第 25 図 1～16)

合計 16 点出土した。基部形状で分類すると有茎 11 点(1～3・5～7・10～12・14・16)、平基 1 点(4)、円基 1 点(13)、凹基 2 点(8・9)、不明 1 点(15)で、未製品の可能性が高いものも含まれるが、有茎鏃が主体を占める。石材は黒曜石が主体を占め、下呂石・珪質泥岩がそれぞれ 1 点ある。

(2) 磨製石鏃 (第 25 図 17～23)

合計 7 点出土した。折損品が多く、全体形状をとどめるものは少ないが、凹基無茎が 3 点(17・22・23)、凸基 1 点(21)、不明 3 点(18～20)である。21 は未製品の可能性もあるが、基部周縁の研磨状況から凸基とした。両面穿孔の孔が確認できるものは 5 点(17～19・22・23)ある。

(3) 磨製石鏃未製品 (第 25・26 図 24～31)

合計 8 点出土した。折損品が多い。鏃の形態(研磨により作出された先端部・基部・側縁部または穿孔痕)が整っていないもので、磨製石鏃以外の磨製石器の折損品・未製品の可能性もあるが本報告では一括した。平面・側面に明確な研磨痕が確認できるもの 4 点(24～27)、磨製石鏃の製品と同様の石材で明確な研磨痕は確認できないが素材の周囲に剥離加工を施した剥離調整段階と推測できるもの 4 点(28～31)がある。

(4) 石錐 (第 26 図 32～36)

合計 5 点出土した。32 は礫、33・36 は剥片の一端に錐部と推測される先端部が作り出されている。34・35 は全体的に加工が施されているもので、34 は側縁中央付近に側縁に平行する線條痕を伴う磨耗面が、35 は表裏面中央から下端寄りでは長軸に対してやや斜行する線條痕が観察される。

(5) 打製石斧 (第 27 図 37～43)

合計 8 点出土し、7 点を図示した。全体形状が確認できるものは撥形を呈する 39 のみでそれ以外は全て折損品である。折損品の中には、二次加工ある剥片・石核との区別が困難なものも含まれる。

(6) 磨製石斧 (第 27・28 図 44～53)

合計 10 点出土した。片刃石斧 2 点(44・45)、太型蛤刃石斧 5 点(49～53)、不明 3 点(46～48)である。44・45 は小形の片刃(ノミ状)石斧、46～48 は破損品のため刃部形状は不明であるが 46・47 は断面形状から扁平片刃石斧の可能性が高い。47 は素材の剥離面は残るが研磨面が観察され、下端一部に刃部と推測される面が残る。上端・左側縁に研磨面を切る小剥離面があり扁平片刃石斧の未製品または再加工中に折損したものと推測される。48 は基部と推測されるが、形状が撥形に開くことと出土層位から縄文時代の定角式石斧の可能性が高い。49～53 は太型蛤刃石斧の折損または破損品である。49～51 は刃部が残る破片で 49 の折面一端には敲打痕が観察される。敲石として転用されたものか。52・53 は基部または基部寄りの破片であるが折面一部に弱い研磨・磨耗面が観察される。50・52 の器面の小凹部に部分的ではあるが赤色顔料が付着している。

(7) 環状石斧 (第 29 図 54)

1 点出土した。平面形は円形、両刃の刃部を有し、中央に直径 2.2cm の両面穿孔による孔をもつ。片面の孔周

辺に幅約1cmの隆帯がめぐっている。半損したのち2点に分離している。器面には被熱破砕面が観察される。

(8) 磨製石包丁 (第29図55)

1点出土した。ほぼ全面に研磨痕が観察され、背部とにぶい刃部が形成されているが孔はない。器面に被熱破砕面が観察される。

(9) 二次加工ある剥片 (第29図56～61)

剥片を素材として二次加工痕が観察でき、他の器種に分類できなかったものを一括した。スクレイパーまたは刃器と称されるもの等が含まれている。合計37点、6点を図示した。20点が折損品であるが、黒曜石・チャート・珪質泥岩等の緻密な石材を素材とする比較的小形のものと、硬砂岩・泥質頁岩・安山岩等のやや石質が粗いものを素材とする大形なものがある。小形なものは、図示できなかったが、石鏃・石錐の未製品が多く含まれると推測される。大形なものは10cm弱の剥片に比較的弱い二次加工を施し、直線状の側縁を形成するもの(57～61)と、比較的強い加工を両面からを施し、小形の打製石斧または石核の折損品とも推測できるもの(未図化5点)がある。56は剥片の片側縁に研磨で刃部と推測される縁辺が形成されているもので、60は板状礫を素材とするものである。60は二次加工ある剥片の定義から外れるものではあるが本報告ではここに含めた。

(10) 凹・敲・磨石 (第30・31図62～79)

主に自然礫を素材とし、凹部(凹)・敲打痕(敲)・研磨・磨耗痕(磨)が観察されるものを本報告では一括して扱った。合計25点出土し、18点を図示した。凹部は、敲打痕の集合により形成されたものが多いと推測され、直径約6cmから2cm程度の円形を呈する。直径2cm以下の凹部については敲石等に観察される敲打に伴う剥落痕(敲打痕)との識別が困難であるが、器面における凹部の位置・深さ等を考慮して、本報告では便宜的に直径2cm以上の平面形がほぼ円形を呈する敲打痕が集合する凹部を大凹、直径1cm以上2cm未満のものを小凹、1cm未満のものを敲打痕として扱った。石材毎の風化の程度にもよるが凹部の内部には敲打痕以外の痕跡は肉眼では観察されない。小凹の中には硬質かつ鋭利な対象物で凹んだと推測されるものもあり、砥石の砥面上にも同様の凹部が観察される。凹・敲・磨痕跡の複合状況は、大凹のみ2点(62・63)、大凹・小凹(64)、大凹・敲(65～69)、小凹・磨(70・71)、小凹・敲(72)、敲のみ12点(73～77他7点)、敲・磨1点(78)、磨のみ1点(79)である。素材となる礫の形状、凹・敲・磨痕跡の位置・複合状況をまとめると、扁平円礫の中央付近に大凹を1箇所もち、その裏面中央付近に大凹・小凹・敲打痕跡をもつもの(62～69)、扁平円礫の表裏に小凹を2箇所もち磨面をもつもの(70)、角礫または板状礫に小凹をもつもの(71・72)の以上の三者は凹石と称してよいものと考えられる。扁平円礫の平面中央付近に敲打痕のみをもつもの(73他3点)は台石または敲石と称し、扁平棒状礫の端部または側面部に敲打痕のみをもつもの(74他2点)、扁平・円礫の端部に敲打痕のみをもつもの(75～77他2点)は敲石と称し、礫の一端に磨面のみをもつもの(79)は磨石と称してよいものと考えられる。凹石には端部に敲打痕をもつもの(67～69)があり、敲石と同様の機能を合わせもっていたものもあると推測される。70の磨面は断面形状が凸形を呈し、71の磨面は凹形を呈する。71は磨面の状況・欠損状況・石材等を考慮すると砥石に小凹が形成されたものの可能性が高い。78は端部に敲打に伴う割れ面と表裏片側面一部に線条痕を伴う磨面が観察される。79は磨面周辺に赤色顔料が付着する。

(11) 砥石 (第32～34図80～98)

合計41点出土し、19点を図示した。接合資料が3例ある。板状砂岩を素材とするものが多い。側面に折面をもつものも多く、砥面と折面の切り合い関係が判然としないものもあるが、折損後に使用した痕跡が残るもの(86・97・98)もある。砥面は板状礫の1面に確認できるものが多いが、表裏面または側面1面を加え3面確認できるものもある。粗い砂岩をもちいるものも多く線条痕等が観察できるものは少ないが、砥面に溝が観察されるものが2点(88・95)ある。また、砥面に小凹・敲打痕が観察されるものがあり、砥面と小凹・敲打痕の切り合い関係が判然としないものもあるが、砥石として使用した後に台石として使用されたと推測できるも

の(80・87・88・91・94・96他2点)がある。97・98は同一個体であった可能性が高く、砥石を分割したのち分割面(折面)を含む2側面に断面形が凸形を呈する研磨面があり、磨石状に使用したと推測される痕跡が残る。

(12) 有孔石製品 (第34図99)

安山岩円礫に穿孔した1点がある。孔周辺に敲打痕が観察され、やや平坦な面を形成する。それ以外に人為的加工痕跡は観察されない。

(13) 微細剥離ある剥片 (第11表)

剥片の鋭利な縁辺を刃部として使用したものと推測されるもので、剥片の縁辺部に微細な剥離痕が観察されるもの。擦痕・磨耗痕が観察されるものも含め肉眼観察により認定した。擦痕・磨耗痕が単独で確認される剥片はなかった。微細剥離痕の中には剥片剥離時に偶発的に生じたものや廃棄後に生じたものも含まれると推測される。合計100点確認した。黒曜石が主体(68%)を占め、チャート(10%)、泥質頁岩(9%)、珪質泥岩(8%)等が続く。泥質頁岩素材のものは他の石材のものよりやや大形品が多い。

(14) 石核 (第11表)

合計96点確認でき、通常の剥離によるものが51点、両極剥離によると推測されるものが45点ある。黒曜石が主体(85%)を占め、チャート(9%)等が続く。黒曜石の石核は、剥離の進行が進んだものが多く、石鏃・石錐の素材剥片よりも小形の剥片を剥離した痕跡を残すものもある。特異な石材としては鉄石英が1点確認できた。

(15) 剥片・碎片

剥片234点・碎片54点が確認できた。いずれも黒曜石が主体を占めている。石器の接合作業が十分にできなかったため、剥片剥離技術等の詳細は不明であるが、石核のあり方を考慮すると本遺跡では、主に黒曜石の原石または石核から剥片を剥離して石器製作が行われていたと推測される。

(16) 礫片

折面または被熱による剥落痕のみが確認できるもので57点確認できた。調査時に、出土した礫片の全てを回収してはいないので詳細は不明であるが、砂岩・チャートが主体を占める。大形のチャート礫片の一部は、原石として遺跡内に持ち込まれた可能性がある。

(17) 原石 (第11表)

剥離痕が観察されないもので黒曜石の角礫(14.1g)が1点出土している。報告対象から除外した自然石にはチャート・砂岩礫が含まれているが、チャート礫に関しては、剥片・石核等とやや異なる石質のものが多く、大きさが2cm以下の小礫が多い。また、本遺跡の土層の堆積状況や立地を考慮すると、人為以外にも本遺跡で出土する可能性が考えられるため、本報告では除外した。

第11表 石器観察表

打製石鏃

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
1	1次	1住	SW	9	黒曜石	2.62	1.79	0.34	1.3		凸基有茎。未製品？
2	1次	2住	No.3	30	黒曜石	2.04	1.68	0.63	1.4		凹基有茎
3	1次	2住	S	77	黒曜石	(1.80)	(1.39)	0.31	0.5	先端・片脚折れ	凹基有茎
4	1次	2住	覆土	112	黒曜石	(2.33)	1.44	0.56	1.5	上部折れ	平基。未製品？
5	1次	2住	試掘Nトレンチ	143	下呂石	(2.28)	1.17	0.48	1.5	先端・茎部折れ	平基有茎
6	1次	2住	試掘Nトレンチ	145	黒曜石	2.52	1.53	0.62	2.6		凸基有茎。未製品？
7	1次	N24 E3		404	黒曜石	(2.52)	(1.52)	0.38	1.1	茎部折れ・片脚折れ	凹基有茎 茎部折損
8	1次	N9 E3		503	黒曜石	(1.22)	(0.90)	0.25	0.3	両脚折れ	凹基
9	1次	N9 E3		504	黒曜石	(1.75)	(1.85)	0.32	0.8	上半・片脚折れ	凹基。上半折面を切る剥離あり。
10	1次	不明		547	黒曜石	1.82	(1.34)	0.45	0.8	片脚折れ	凹基有茎
11	2次	A 5住	No.4	2	黒曜石	(2.70)	(1.82)	0.47	1.4	基部・片脚折れ	凹基有茎
12	2次	A 5住	No.5	3	黒曜石	(2.22)	1.46	0.47	1.0	先端折れ	凹基有茎
13	2次	A 5住	ベルト(七C)一括	7	黒曜石	(1.65)	1.31	0.27	0.7	上部折れ	凹基。未製品？
14	2次	A 5住	東ベルト下層	18	珪質泥岩	2.67	(1.05)	0.42	1.3	片脚折れ	平基有茎
15	2次	A 5住	南東一括	34	黒曜石	(1.50)	(1.23)	(0.35)	0.6	下半折れ	
16	2次	A 5住	北西覆土	86	黒曜石	2.26	(1.47)	0.53	1.1	片脚折れ	凹基有茎

磨製石鏃

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
17	1次	2住	No.11	32	結晶片岩	(1.50)	1.65	0.22	0.6	上半部折れ	凹基無茎
18	1次	2住	No.34	35	結晶片岩	(5.70)	(1.39)	0.38	3.0	脚部折れ	明瞭な縁をもつ。
19	1次	墓4	No.2 北	273	粘板岩	(3.32)	(1.23)	0.27	1.1	下端折れ	
20	1次	墓4	中央	282	泥質頁岩	(1.75)	(1.16)	(0.20)	0.5	下半折れ	
21	1次	N9 E3	墓1?	492	結晶片岩	4.20	2.43	0.33	4.1		凸基。未製品？
22	1次	検出面		534	結晶片岩	(4.06)	2.71	0.32	4.4	先端折れ	凹基無茎
23	2次	A 5住	No.1	1	結晶片岩	(2.05)	1.56	0.25	1.1	上半・片脚折れ	凹基無茎

磨製石鏃未製品

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
28	1次	1住		14	結晶片岩	(3.45)	(2.86)	(0.60)	6.7	3面折れ	小研磨面1面あり。
29	1次	2住	No.42	40	結晶片岩	(2.64)	(2.48)	(0.33)	2.7	1面折れ	両面加工石器
24	1次	2住	N	50	結晶片岩	(2.58)	(1.44)	(0.47)	2.6	3面折れ	研磨面3面(表・裏・1側面)
25	1次	墓1		196	結晶片岩	(1.86)	(0.64)	(0.27)	0.4	折れ?	研磨面3面(表・裏・1側面)折面に弱い研磨痕あり。破砕片?
30	1次	N24 EWO	建?	434	結晶片岩	3.28	3.16	0.94	11.8		稜線磨耗(表・裏・2側面)。両極石核に類似。
31	2次	A 5住	西ベルト	12	結晶片岩	5.07	2.55	0.38	5.6		弱い研磨痕・擦痕?(表面一部)あり。
26	2次	A 5住	南東一括	21	粘板岩	(2.00)	1.88	0.24	1.8	1面折れ	研磨面5面(表・裏・2側・1端)
27	2次	B 土15	No.2	115	粘板岩	(2.63)	(2.08)	0.26	1.6	割れ	研磨面4面(表・裏・1側・1端)。破砕片。

石鏃

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
32	1次	1住		13	黒曜石	2.44	1.10	0.65	1.6		礫素材。器面に擦痕あり。
34	1次	2住	試掘Nトレンチ	146	チャート	3.68	1.25	0.82	4.1		側面に磨耗痕(側縁に平行する線条痕)あり。
35	1次	2住周溝		152	黒曜石	3.23	1.33	0.82	3.1		表裏面中央下端寄りに磨耗痕(長軸に斜行する線条痕)あり。
36	1次	N9 E6	墓2?	513	凝灰岩	6.29	7.42	1.76	76.9		石核素材?機能部二箇所?
33	2次	A P7		120	黒曜石	(2.16)	1.31	0.33	1.0	先端折れ	

打製石斧

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
37	1次	2住	No.39	37	硬砂岩	(7.86)	(7.05)	(1.93)	118	下半折れ	基部周辺
41	1次	2住	東検出面	148	凝灰岩	(10.50)	(8.34)	(3.91)	261.2	下半折れ	基部周辺
43	1次	3住	覆土	153	泥質頁岩	(4.52)	(8.48)	(2.05)	88	上半折れ	刃部周辺
38	1次	墓1	No.17	166	泥質頁岩	(14.02)	8.95	2.69	353.4	先端折れ	風化強い。
40	1次	墓4		295	硬砂岩	(9.76)	(6.81)	(2.70)	208.8	下半折れ	基部周辺
39	1次	P13	No.6	345	泥質頁岩	13.33	9.50	2.38	385.5		風化強い。楕形。
	1次	N18 EWO		390	火山岩	(8.80)	(6.55)	(1.58)	89.8	下半折れ?	基部周辺?
42	1次	N24 W3	No.1 土1?	439	硬砂岩	(9.67)	(7.18)	(2.68)	241.3	下半折れ	基部周辺

磨製石斧

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
49	1次	2住	No.37	36	閃緑岩	(7.34)	(7.24)	(4.12)	233.6	刃部周辺を残し折れ	大型給刃。折れ面に敲打痕あり。敲石に転用?
47	1次	2住P6		151	泥質頁岩	(7.40)	(5.32)	(1.24)	48.3	折れ	扁平片刃。研磨面を切る剥離痕あり。
50	1次	墓1	No.16	165	閃緑岩	(7.82)	6.45	4.34	368.7	基部折れ	大型給刃。一部に赤色顔料付着。
44	1次	墓1	No.25	174	緑色凝灰岩	3.57	2.01	0.52	9.9		小形片刃(ノミ状)
46	1次	P8		344	緑色凝灰岩	(4.10)	(4.61)	(1.06)	44.0	刃部・側面折れ	扁平片刃
51	1次	N15 EWO		376	閃緑岩	(7.41)	(3.15)	(3.46)	81.4	脚部から刃部一側縁を残し折れ	大型給刃
45	1次	N3 EWO		450	凝灰岩	(4.69)	(2.76)	(0.81)	15.1	片側面折れ	小形片刃(ノミ状)。風化強い
52	1次	N9 E3	No.9 墓1?	491	閃緑岩	(6.24)	(5.42)	(4.25)	233.8	刃部折れ	大型給刃。折面に弱い研磨痕あり石核に転用?一部に赤色顔料付着。
53	1次	N9 EWO	No.05 1住?	527	閃緑岩	(5.65)	(6.05)	(3.95)	182.9	基部基部部・刃部折れ	大型給刃。一部に赤色顔料付着 折面に弱い研磨痕あり。
48	2次	A 東朝水道	黒色包含層より下層	134	蛇紋岩	(2.48)	(3.15)	(0.90)	14.3	基部部周辺を残し折れ?	定角式?研磨面を切る剥離痕あり。

環状石斧

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
54	1次	2住	No.1	29	閃緑岩	12.22	(7.20)	1.97	181.4	折れ	2点接合。被熱。

磨製石包丁

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
55	1次	N24 EWO	建?	425	溶質凝灰岩	(8.25)	3.25	0.59	23.3	折れ	被熱

二次加工ある剥片

図No.	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	加工部位	備考	
1次		1住		17	黒曜石	(2.20)	1.67	0.84	2.3	折れ	2側縁	片面加工	
1次		1住		21	黒曜石	1.80	1.94	0.33	1.3		1側縁	片面加工(部分的)	
1次		1住	検出面	28	珪質泥岩	1.30	1.96	0.40	1.2		未端	片面加工。挟り状を呈する。雑部作?	
57	1次	2住	No.6	31	結晶片岩	7.62	4.28	1.12	51.6		2側縁・未端	両面加工。未端やや加工弱い(部分的)。一部磨耗。打製石包丁?	
1次		2住	No.30	34	黒曜石	1.50	1.46	0.46	1.0		1側縁	両面加工。両極石核?	
1次		2住	N	56	黒曜石	2.30	1.28	0.43	1.3		1側縁	片面加工(部分的)	
56	1次	2住	S	73	砂岩	(9.34)	5.96	0.95	60.9	折れ	1側縁	一側縁に両面研磨	
1次		2住	S	79	チャート	1.87	1.16	0.44	1.1		2側縁	両面加工。石鏝・石錐未製品か。	
1次		2住	S	97	チャート	(1.32)	(0.50)	0.28	0.1	折れ	1側縁	片面加工	
1次		2住	覆土	118	黒曜石	(2.87)	(1.82)	0.50	2.4	折れ	2側縁	両面加工(1側縁部分的)。石鏝・石錐未製品?	
1次		2住	試験Nトレンチ	140	黒曜石	2.12	23.5	0.48	1.6		1側縁	片面加工(急斜)	
1次		2住	試験Nトレンチ東側	147	砂岩	(5.64)	9.58	1.50	132.5	2面折れ	1側縁	両面加工。板状剥片?。節理に沿った割れ面2面。被熱。	
1次		墓1		191	チャート	2.04	0.96	0.55	0.9		2側縁	片面加工(部分的)。器面全体的に弱い磨滅。石鏝?	
1次		墓3		269	珪質泥岩	(1.58)	2.67	0.21	1.1	2面折れ	2側縁	両面加工	
1次		墓4		296	輝緑岩	(3.38)	(5.14)	1.20	25.9	折れ	1側縁・1端	1側縁両面加工・1端片面加工。素材不明。石核状。	
59	1次	N12 E3		351	凝灰岩	(5.37)	4.04	0.76	19.2	折れ・新欠	2側縁	1側縁両面加工・1側縁片面加工	
58	1次	N12 E3		353	硬砂岩	8.76	7.50	2.06	193.1		2側縁・未端	両面加工(部分的)	
1次		N15 E0		379	珪質泥岩	3.34	2.90	0.67	5.1		1側縁・打面部	両面加工(部分的)。側縁に微細剥離あり。	
1次		N18 E0		389	結晶片岩	(3.88)	(3.70)	(1.20)	19.5	折れ・新欠?	2側縁	両面加工。素材不明。風化2種・新欠?	
1次		N9 E0	1住?	400	硬砂岩	(6.15)	(7.75)	1.50	71.9	2面折れ	1側縁	両面加工。被熱破砕面あり。	
1次		N24 E3	建?	406	チャート	4.28	3.55	1.50	16.9		1側縁・未端	両面加工(部分的)	
1次		N24 E0	建?	426	泥質頁岩	(5.38)	(5.32)	1.55	42.5	折れ?	2側縁	両面加工。素材不明。風化2種。石核状。	
1次		N9 E3	墓1?	496	泥質頁岩	(5.75)	(4.28)	1.15	23.7	折れ	2側縁	両面加工。素材不明。石核状。	
1次		N9 E3	墓1?	509	泥質頁岩	(2.35)	(4.32)	(0.86)	11.7	折れ	2側縁・1端	両面加工。素材不明。節理で折れ。	
1次		N9 E6	墓2?	511	凝灰岩	5.70	3.70	1.46	28.0		1側縁	片面加工	
1次		N9 E6	墓2?	520	チャート	(2.00)	3.10	0.56	4.0	折れ	2側縁	両面加工。石核素材?	
1次		N9 E6		522	頁岩	(2.15)	(3.40)	(0.80)	5.2	折れ	未端	両面加工。両極石核?	
60	1次	検出面		535	安山岩	(7.78)	4.33	1.33	67.0	折れ	2側縁	両面加工。板状礫素材。	
2次	A	5住	西ベルト下層	14	黒曜石	1.35	1.40	0.32	0.8		1側縁・未端	片面加工(部分的)	
2次	A	5住	南東部壁際	53	黒曜石	2.45	1.32	0.47	1.4		打面・未端	片面加工	
2次	A	5住	南東覆土下層	70	黒曜石	(2.35)	0.9	0.25	0.4	折れ	2側縁	片面加工(部分的)。微細剥離あり。石鏝?	
2次	A	5住	南東覆土下層	79	黒曜石	1.85	1.10	0.58	1.0		1側縁・2端	1側縁・1端片面加工・1端両面加工。素材不明	
2次	A	5住	北西部壁際	84	黒曜石	(1.95)	1.40	0.54	1.4	折れ	2側縁	両面加工。1側縁加工弱い。石鏝・石錐未製品?	
2次	A	5住P1		101	輝緑凝灰岩	(3.72)	(1.40)	(0.23)	2.3	2面折れ	1側縁	両面加工	
61	2次	A	P44	No.1	123	硬砂岩	7.44	7.10	2.25	138.4		1側縁・未端	1側縁両面加工・未端片面加工(部分的)
2次	A	西壁南端	包含層	140	頁岩	(6.85)	6.62	1.70	95.2	折れ	1側縁・未端	1側縁両面加工・未端両面加工	
2次	A	検出面	No.1	144	チャート	7.00	2.98	0.76	19.0		2側縁	両面加工	

凹・敲・磨石

図No.	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	複合状況	備考
62	1次	1住		10	安山岩	8.22	8.08	5.38	474.1		大凹のみ	大凹1箇所。垂円礫素材。凹や浅い。
72	1次	2住	No.30	33	砂岩	15.93	2.95	3.45	292.8	折れ?	小凹・敲	小凹1箇所。四角柱礫素材。器面に弱い敲打痕跡あり。
71	1次	2住	北覆土	68	砂岩	(9.32)	(4.96)	(3.70)	197	3面折れ	小凹・磨	小凹表3・裏2箇所。磨(表裏)。扁平礫素材? 砥石を転用?
63	1次	墓1	No.18	167	砂岩	15.78	10.85	6.85	1516		大凹のみ	大凹表1・裏1箇所。垂円礫素材。
1次		墓1	No.19	168	砂岩	14.23	8.30	3.85	662.7		敲のみ	敲(表裏)弱い。扁平礫素材。
1次		墓1	No.23	172	砂岩	18.45	11.22	4.04	1000		敲のみ	敲(1面)弱い。扁平礫素材。
67	1次	墓1	No.24	173	砂岩	(10.86)	6.06	3.40	305.2	折れ	大凹・敲	大凹表裏・敲1箇所。扁平礫素材。
66	1次	墓3		256	溶質凝灰岩	10.98	10.62	4.05	689.5		大凹・敲	大凹表1・敲裏面中央部(弱い)。扁平垂円礫素材。
64	1次	墓3		257	花崗岩	11.04	8.65	4.52	528.1		大凹・小凹	大凹表1・裏小凹。扁平礫素材。
65	1次	墓4	NW	276	花崗岩	(6.12)	(9.34)	(2.58)	192.4	折れ	大凹・敲	大凹表1・敲裏面中央部(弱い)・1端部。扁平礫素材。
1次		土1	No.20	332	チャート	(2.95)	33.8	2.38	37.6	節理で割れ	敲のみ	敲(1端部)弱い。垂円礫素材。
70	1次	土2	No.21	335	安山岩	11.72	8.65	5.90	746.8		小凹・敲?・磨	小凹表2・裏2箇所。敲?両側面・両端。磨表裏中央付近。円礫素材。被熱。
1次		P13	No.7	346	砂岩	(16.60)	(9.82)	(3.08)	450.2	折れ	敲のみ	敲(表裏中央付近)弱い。扁平礫素材。
1次		N12 E0		358	砂岩	(10.40)	5.45	2.21	247.3	折れ	敲のみ	敲(両側面)弱い。敲打による剥離面。扁平垂円礫素材。1面折れ。
78	1次	N24 E3	No.07 建?	418	頁岩	(5.24)	2.54	1.51	26.3	折れ・割れ?	敲・磨	敲1端部・1側面(敲打による剥離面)・磨表裏1側面。棒状礫素材。
76	1次	N9 W3		469	硬砂岩	9.18	6.82	3.56	346.3		敲のみ	敲2端。垂円礫素材。
68	1次	NG E3	No.18	461	泥質頁岩	10.84	8.94	4.02	414.6		大凹・敲	大凹表1・裏1箇所。敲2端部・1側面。垂円礫素材。
75	1次	NG E3	No.20	462	砂岩	6.63	5.25	4.45	200.4		敲のみ	敲表裏側中央付近。棒状礫素材。
77	1次	NG E0	1住?	475	花崗岩	9.71	8.21	7.59	835.6		敲のみ	敲ほぼ全端部。垂円礫素材。
1次		N9 E3	墓1?	498	硬砂岩	(66.0)	3.05	(3.19)	85.5	新折れ	敲のみ	敲(1端部)弱い。棒状垂円礫素材。
1次		N9 E3	墓1?	500	安山岩	(6.38)	(9.20)	(41.4)	270.3	被熱破砕	敲のみ	敲1端部。垂角礫素材。被熱破砕面以外や黄色・スス付着?
79	1次	N9 E6	墓2?	510	花崗岩	5.73	6.90	3.57	169.7		磨のみ	磨1端部。(磨石)。磨面周辺に赤色顔料・スス付着。
74	1次	N9 E0	No.07 1住?	528	砂岩	(6.40)	(48.4)	(2.50)	117.7	折れ	敲のみ	敲1端部。垂円礫素材。
73	1次	N9 E0	No.08 1住?	529	砂岩	(10.72)	(13.85)	(3.35)	752.4	折れ	小凹?・敲	小凹?敲表中央付近・裏弱い。扁平礫素材。台石?
69	1次	不明		542	花崗岩	7.86	6.42	3.18	212.4	折れ?	大凹・敲	大凹表1・裏1箇所。敲両端部?扁平礫素材。風化強い。

砥石

図No.	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	砥面数	備考
80	1次	1住	No.3	1	砂岩	(12.36)	(11.76)	(3.20)	717.6	3面折れ	表裏2面	表裏・小凹? (1x0.4cm)・敲あり。板状礫素材。
1次		1住		11	安山岩	(11.60)	(12.45)	(4.94)	1096.3	2面折れ	1面	垂円礫素材
81	1次	2住	No.41	39	砂岩	(9.65)	(11.32)	(2.96)	542.3	3面折れ	1面	板状礫素材。注記134と接合。
82	1次	2住	覆土	134	砂岩	(10.55)	(9.45)	(3.27)	558.5	4面折れ	1面	1側面に敲と敲で生じた剥離面。板状礫素材。注記38と接合。
83	1次	2住	No.40	38	砂岩	(6.50)	(10.92)	(3.34)	398	3面折れ	1面	板状礫素材。注記133・134と接合。
84	1次	2住	覆土	133	砂岩	(10.25)	(15.20)	(3.26)	778.3	4面折れ	1面	板状礫素材。注記38・39と接合。
1次		2住	覆土	109	砂岩	(8.90)	(7.80)	(3.94)	475.5	4面折れ	表裏2面	表裏小凹・敲。板状礫素材。
86	1次	2住	覆土	110	砂岩	(14.50)	(8.30)	(1.56)	235.6	3面折れ	表裏2面	板状礫素材。注記132と接合。スス付着。132と分離後も使用される。
85	1次	2住	覆土	132	砂岩	(10.98)	(16.20)	(2.37)	449.3	2面折れ	表裏2面	板状礫素材。注記110と接合。
1次		墓1	No.21	170	凝灰岩	(9.12)	(8.50)	(6.05)	602.9	3面折れ	1面	板状礫素材
87	1次	墓1	No.22	171	砂岩	14.94	12.71	3.67	1057.4	折れ?新欠	1面	敲・大凹?・小凹あり。扁平礫素材。台石に転用か。
1次		墓1	No.26	176	閃緑岩	(7.70)	(9.65)	(6.66)	726.2	2面被熱破砕	表裏2面	扁平礫素材。被熱。
88	1次	墓2	No.12	213	砂岩	(11.50)	(8.62)	(4.70)	587	2面折れ	1面	砥面に溝あり。1側面に敲と敲で生じた剥離面。板状礫素材。
89	1次	墓2	No.13	214	砂岩	(27.38)	(10.55)	(3.40)	1346	1面折れ	表裏2面	砥面表裏2面(裏面小凹部)。板状礫素材。
1次		墓2	No.19	218	砂岩	(6.35)	(9.10)	(7.85)	520.5	3面折れ?	表裏2面	素材形状不明
1次		墓3	No.5	244	砂岩	(5.10)	(13.95)	(5.96)	407.2	3面折れ	1面	板状礫素材
1次		墓3	No.9	247	砂岩	(6.10)	(4.90)	(1.88)	65.0	3面折れ	1面	砥面1面(弱い)。素材形状不明。
1次		墓3	No.11	249	砂岩	(14.55)	(8.50)	(4.30)	604.7	3面折れ?	1面	敲・小凹あり。扁平礫素材。
90	1次	墓3		259	砂岩	(14.08)	14.84	(6.10)	1402	1面折れ	表裏2面	板状礫素材
92	1次	墓4	SE	280	閃緑岩	21.70	12.00	8.55	3390		1面	砥面1面(弱い)。垂角礫素材。
1次		墓4		298	砂岩	(8.90)	(9.10)	(3.96)	329.7	4面被熱破砕	表裏2面	1面に敲あり。板状礫素材。被熱。
1次		土1	No.17	330	硬砂岩	(6.20)	(13.55)	(5.67)	578.8	被熱破砕?	表裏2面	1面に弱い敲。扁平垂円礫素材。注記331と接合。
1次		土1	No.18	331	硬砂岩	(9.10)	(17.65)	(6.09)	1334.0	被熱破砕?	表裏2面	1面に弱い敲。扁平垂円礫素材。注記330と接合。
1次		N12 E3	No.2	348	硬砂岩	(11.38)	(5.52)	(2.92)	167.3	被熱破砕?	1面	素材形状不明
1次		N12 E3	No.4	349	閃緑岩	(13.00)	(11.80)	(6.27)	1718	被熱破砕?	1面	素材形状不明

図N	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	微細剥離位置	備考
1次	N9 E3		墓1?	507	黒曜石	2.38	1.68	0.53	1.8		両側縁	器面全体的に磨耗。
1次	N9 E3		墓1?	508	黒曜石	2.23	2.90	0.88	4.0		両側縁	背面一部に擦痕あり。
1次	N9 E6		墓2?	512	泥質頁岩	3.79	(7.20)	1.34	39.2	折れ	未端縁	
1次	N9 E6		墓2?	514	硬砂岩	3.82	7.10	1.42	39.6		未端縁	弱い
1次		検出面		536	凝灰岩	4.91	4.20	0.44	7.8		全縁	
1次		検出面		537	黒曜石	2.40	1.04	0.45	0.9		片側縁	主要剥離面一部に擦痕あり。
1次		不明		546	黒曜石	3.08	1.32	0.56	1.7		両側縁	
1次		不明		548	黒曜石	1.92	1.50	0.45	1.2		片側縁	
2次 A	5住		ベルト(東)一括	8	黒曜石	(2.47)	1.49	0.42	1.7	折れ	両側縁	
2次 A	5住		南西覆土	19	黒曜石	1.88	(1.31)	0.34	0.6	割れ	片側縁	器面磨耗
2次 A	5住		南東一括	29	黒曜石	1.73	2.10	0.50	0.6		片側・未端縁	
2次 A	5住		南東部壁際	52	黒曜石	(0.82)	(2.15)	(0.23)	0.3	折れ	未端縁	
2次 A	5住		南東部壁際	55	黒曜石	1.66	(1.50)	0.39	1.7	割れ	未端縁・割れ面	
2次 A	5住		南東部壁際	56	黒曜石	2.27	1.80	0.63	2.1		両側縁	
2次 A	5住		南東覆土下層	66	黒曜石	1.55	1.12	0.24	0.4		両側縁	
2次 A	5住		南東覆土下層	73	黒曜石	1.59	1.60	0.70	1.7		片側・未端縁	
2次 A	5住		北ベルト下層	81	珪質泥岩	3.93	3.00	1.00	8.8		片側・未端縁	
2次 A	5住		北ベルト上層	82	黒曜石	(2.20)	(1.25)	(0.35)	0.7	折れ・新折れ	片側縁	
2次 A	5住		北西覆土下層	90	黒曜石	3.65	1.88	0.42	1.7		両側縁	
2次 A	5住		北東覆土下層	96	黒曜石	2.14	1.90	0.45	1.5		両側縁	
2次 A	5住		北東覆土下層	97	黒曜石	1.75	1.87	0.58	1.2		両側縁	
2次 A	5住P1			100	珪質泥岩	(1.32)	(2.40)	(0.43)	1.3	折れ	未端縁	
2次 A	6住		深堀坑内	107	珪質泥岩	3.09	2.48	0.43	3.4		片側縁	二次加工?
2次 A	7住P1		Na3	111	黒曜石	2.98	2.77	1.06	6.3		片側縁	器面に擦痕あり。
2次 A	包含層		調査区南半	135	チャート	3.90	4.74	0.90	15.8		片側・未端縁	
2次 A	包含層		5住北側居外	141	黒曜石	1.79	2.10	0.22	0.7		片側縁	
2次 A	検出面		N17,49 E1,10	143	泥質頁岩	5.80	6.95	1.38	41.5		未端縁	一部磨耗面あり。
2次 A	検出面		北側	156	黒曜石	1.71	1.58	0.27	0.6		両側縁	
2次 B	検出面			157	黒曜石	2.40	(1.52)	0.49	1.6	折れ	片側縁	主要剥離面の一部に磨耗面あり。

石核

図N	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	剥離	備考
1次	1住		SW	5	黒曜石	1.58	1.10	0.62	1.1		両極	
1次	1住		SW	8	黒曜石	2.20	2.50	1.24	6.0		通常	
1次	1住			12	黒曜石	1.38	2.15	0.96	2.4		通常	器面一部に擦痕あり。
1次	1住			15	黒曜石	1.50	2.75	1.75	5.4		通常	一側縁に微細剥離痕あり。
1次	1住			19	黒曜石	2.70	1.78	0.78	3.5		両極	一側縁に連続的な小剥離あり。
1次	1住			23	黒曜石	1.43	1.93	0.58	1.1		両極	
1次	1住			24	黒曜石	(2.91)	(1.92)	0.80	3.4	折れ	両極?	両一側縁に連続的な小剥離あり。
1次	2住		N	43	黒曜石	1.83	(3.02)	(0.78)	3.9	折れ	通常	風化した剥片状の礫素材。 二次加工の剥離。
1次	2住		N	45	黒曜石	2.38	1.90	0.63	2.2		通常	剥片素材?
1次	2住		N	47	黒曜石	1.60	2.09	0.59	1.8		両極	剥片素材
1次	2住		N	49	黒曜石	2.08	1.65	0.80	2.4		両極	
1次	2住		N	52	黒曜石	1.54	1.28	0.43	0.8		両極	
1次	2住		N	53	黒曜石	1.45	2.28	0.66	2.2	折れ	通常	
1次	2住		N	59	黒曜石	(2.12)	(1.18)	(0.58)	0.9	折れ?	通常	
1次	2住		N	64	泥質頁岩	4.90	2.95	1.30	19.4		両極	
1次	2住		北覆土	70	黒曜石	2.35	2.72	1.19	4.8		通常	
1次	2住		北覆土	71	黒曜石	1.90	0.97	0.36	0.6		両極	剥片素材
1次	2住		S	78	黒曜石	(1.72)	(1.30)	(0.90)	1.8	折れ	両極?	
1次	2住		S	81	黒曜石	1.43	0.98	0.81	1.0		両極	
1次	2住		S	85	黒曜石	(3.35)	(2.10)	(2.07)	8.5	割れ	通常	微細剥離痕あり。
1次	2住		S	93	黒曜石	2.00	(1.22)	0.68	1.2	割れ	両極	
1次	2住		S	94	黒曜石	1.45	(1.50)	(0.66)	1.5	割れ	通常	
1次	2住		S	100	黒曜石	2.28	2.63	1.02	5.1		通常	
1次	2住		S	105	黒曜石	1.55	2.76	0.90	3.5		通常	
1次	2住		覆土	111	黒曜石	(1.83)	(2.20)	(1.05)	3.7	折れ	通常	
1次	2住		覆土	113	黒曜石	2.10	3.61	1.20	8.9		通常	
1次	2住		覆土	115	黒曜石	2.23	1.75	1.16	4.0		通常	
1次	2住		覆土	119	黒曜石	1.90	3.40	1.05	5.3		通常	
1次	2住		覆土	127	珪質泥岩	(2.44)	(2.33)	0.68	3.1	割れ	両極	両剥片素材。微細剥離あり
1次	2住		トレンチ	138	黒曜石	1.70	0.94	0.32	0.6		両極	
1次	2住		試験Nトレンチ	142	黒曜石	2.12	2.00	0.44	2.0		両極	剥片素材
1次	3住		覆土	156	黒曜石	1.36	1.59	0.59	0.7		通常	
1次	3住		覆土	157	黒曜石	(1.22)	(0.88)	(0.57)	0.5	折れ	通常	石核碎片
1次	墓1			185	黒曜石	(1.10)	(2.88)	(0.78)	1.5	折れ	通常	
1次	墓3		Na12	250	鉄石英	10.80	6.33	4.49	287.1		通常	
1次	墓3		覆土	252	黒曜石	2.00	(0.80)	0.64	0.9	割れ	両極	
1次	墓4			326	黒曜石	(2.25)	(1.78)	(0.80)	3.0	2面折れ	両極?	
1次	土6			337	緑色凝灰岩	5.55	4.76	2.78	56.4		両極	
1次	N12 EWO			361	黒曜石	(1.22)	(3.05)	(0.72)	2.2	折れ	通常	
1次	N12 EWO			365	黒曜石	1.50	2.35	1.38	2.8		通常	
1次	N12 W3			370	黒曜石	3.08	(1.69)	0.70	3.8	割れ	両極?	
1次	N12 W3			372	黒曜石	2.48	1.87	0.83	2.9		両極	一側縁に連続的な小剥離痕あり。
1次	N15 W3		土6?	384	黒曜石	1.70	1.52	0.39	1.0		両極	
1次	N15 W3		土6?	385	チャート	1.54	2.42	1.44	4.0		通常	
1次	N15 W3		土6?	387	黒曜石	2.30	1.33	1.00	2.2		両極	
1次	N18 EWO			392	黒曜石	(2.04)	2.50	0.70	2.6	新欠	両極	
1次	N18 EWO			394	黒曜石	0.80	(0.82)	0.29	0.4	割れ	両極?	
1次	N18 W3		土5?	398	黒曜石	2.72	1.75	1.10	5.2		通常	
1次	N18 W3		土5?	399	黒曜石	1.15	3.00	0.92	3.2		通常	器面風化強い。原石?
1次	N24 E3		建?	410	チャート	2.12	1.98	0.60	2.6		両極	
1次	N24 E3		建?	411	黒曜石	1.72	1.35	0.46	1.1		両極	
1次	N24 E3		建?	413	黒曜石	1.73	2.05	0.78	2.1		両極	
1次	N24 E3		建?	417	黒曜石	1.15	1.31	0.65	0.8		両極	
1次	N24 EWO		建?	429	黒曜石	2.10	0.81	0.70	1.4		両極	
1次	N24 EWO		建?	430	黒曜石	1.88	1.28	0.45	0.9		両極	
1次	N24 EWO		建?	431	黒曜石	(1.10)	1.95	0.78	1.5	折れ	通常	
1次	N24 EWO		建?	437	チャート	2.94	5.02	1.29	16.1		通常	
1次	N24 W3			440	黒曜石	1.88	(1.77)	0.83	2.8	割れ	両極	
1次	N3 EWO			452	黒曜石	3.35	3.30	2.32	24.5		通常	
1次	N6 E3			467	チャート	(2.55)	(1.68)	(0.90)	3.6	折れ?	両極?	
1次	N6 E3			468	黒曜石	1.73	(2.20)	0.80	3.3	割れ	両極?	
1次	N6 E3			470	黒曜石	3.57	4.42	31.6	38.2		通常	

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	砥面数	備考
1次		N12 E3	No.5	355	砂岩	(9.70)	(7.05)	(1.82)	148.4	3面折れ	1面	板状礫素材
1次		N24 E6		419	砂岩	(6.10)	(5.90)	(1.57)	79.3	3面折れ	1面	砥面1面(弱い)。板状礫素材。
1次		N24 EWO	No.07 建?	423	砂岩	(4.95)	(8.05)	(3.34)	201.7	3面折れ	表裏2面	板状礫素材
1次		N24 EWO	No.16 建?	424	砂岩	(10.50)	14.45	(6.42)	1652	1面折れ	表裏2面	砥面1面(弱い)。板状礫素材。
1次		N27 W3	土1?	448	砂岩	15.88	8.95	6.22	1270	折れ?	1面	砥面1面(弱い)。板状礫素材。
93 1次		N6 E3	No.25	464	閃緑岩	(10.74)	(9.16)	(5.82)	836.9	2面折れ被熱?	1面	砥面1面。素材礫形状不明。
94 1次		N6 EWO	No.1 1住?	484	砂岩	(12.22)	13.88	(5.85)	1556	1面折れ	表裏側3面	表裏2面被・小凹。板状礫素材。台石に転用か。
95 1次		N9 E3	No.1 墓1?	486	砂岩	(9.78)	(5.70)	(4.74)	326	3面折れ	1面	砥面に溝あり。板状礫素材。
91 1次		N9 E3	No.5 墓1?	489	砂岩	(9.93)	(8.87)	(3.05)	363.7	被熱破砕?	1面	表裏2面1側面に小凹・被。板状礫素材。
1次		N9 E3	No.8 墓1?	490	閃緑岩	(16.25)	(9.40)	(3.60)	833.7	折れ?	1面	砥面1面。板状角礫素材。
1次		N9 EWO	No.10 1住?	530	砂岩	(11.80)	(10.10)	(1.90)	399.4	4面折れ	1面	砥面1面(小凹?)。板状礫素材。
1次		排土		541	砂岩	(8.85)	(9.85)	(2.57)	370.6	4面折れ	1面	砥面1面(弱い)。板状礫素材。
1次		不明		543	砂岩	(7.30)	(7.35)	(2.82)	125.3	3面被熱破砕	1面	素材礫形状不明。被熱。
96 2次	A	5住	No.49	6	砂岩	(27.90)	24.80	16.30	12400	割れ?	1面	取・小凹あり。重凸礫素材。
97 2次	B	P44	No.2	124	砂岩	8.60	5.56	4.90	314.9		表側端3面	注記125と同一個体の可能性高い。素材形状不明。
98 2次	B	P44	No.2	125	砂岩	6.76	7.90	4.90	365		表側端3面	注記124と同一個体の可能性高い。素材形状不明。

有孔石製品

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
99 1次		N15 EWO		377	安山岩	3.46	3.23	3.08	32.1	新欠	孔径3mm。孔周辺に取打痕あり。

微細剥離ある剥片

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	微細剥離位置	備考
1次		1住	S	3	チャート	(3.00)	4.18	0.74	10.7	折れ	片側縁	二次加工?
1次		1住	SW	7	黒曜石	2.86	2.05	0.90	1.9		全縁	背面一部に擦痕あり。稜線一部摩滅。
1次		1住		16	凝灰岩	5.68	5.65	0.70	19.7	折れ	全縁	二次加工?
1次		1住		18	黒曜石	(1.70)	(1.50)	0.52	1.1	折れ	両側縁	器面全体的に磨耗。風化?
1次		1住		25	黒曜石	2.15	1.25	0.33	0.6		両側縁	器面一部に擦痕あり。
1次		1住	検出面	27	珪質泥岩	2.42	4.65	0.61	6.3		全縁	
1次		2住	N	41	黒曜石	1.53	1.95	0.30	0.6		片側・末端縁	一部に擦痕あり。
1次		2住	N	44	チャート	2.80	3.13	1.23	8.0		片側縁	
1次		2住	N	51	黒曜石	(2.88)	(1.90)	(0.80)	2.6	折れ	片側縁	一部に擦痕あり。
1次		2住	N	54	黒曜石	(3.12)	(2.25)	(0.60)	2.7	折れ	両側縁	一部に擦痕あり。
1次		2住	N	63	チャート	(1.22)	(2.66)	(0.42)	1.7	折れ	折面	折面に微細剥離痕あり。
1次		2住	S	89	黒曜石	2.25	1.92	0.54	2.3		両側縁	器面一部磨耗する。
1次		2住	S	91	チャート	(2.46)	(2.89)	(0.60)	3.0	折れ	片側縁	
1次		2住	S	99	黒曜石	2.78	1.82	0.35	1.2		両側縁	
1次		2住	S	107	泥質頁岩	4.72	7.75	1.38	33.1		片側縁	
1次		2住	覆土	120	黒曜石	1.55	1.62	0.25	0.8		片側縁	背面に主要剥離面の一部あり。
1次		2住	覆土	121	黒曜石	1.71	1.82	0.4	0.9		両側縁	両極石核?
1次		2住	覆土	122	珪質泥岩	(1.05)	(2.45)	0.29	0.8	折れ	末端	
1次		2住	覆土	123	黒曜石	1.90	0.78	0.24	0.3		片側縁	
1次		2住	覆土	130	黒曜石	2.08	3.32	0.86	3.9		片側・末端縁	
1次		2住	覆土	135	黒曜石	1.53	2.68	0.56	1.7		末端縁	
1次		2住	トレンチ	137	黒曜石	1.65	2.29	0.45	1.2		片側・末端縁	
1次		3住	覆土	154	黒曜石	2.61	1.52	0.44	1.2		片側縁	抉り?
1次		3住	覆土	155	黒曜石	2.64	1.71	0.78	2.4		片側縁	
1次		3住	覆土	159	黒曜石	1.81	2.72	0.43	1.4		末端縁	弱い二次加工?
1次		3住	覆土	160	黒曜石	(2.38)	(2.16)	0.79	2.7	折れ	片側縁	
1次		3住	覆土	161	チャート	3.44	4.21	1.10	12.1		両側縁	
1次		3住P1		164	黒曜石	2.15	1.45	0.36	0.9		片側縁	新欠の可能性あり。
1次		墓1		180	黒曜石	2.38	1.42	0.43	0.7		片側縁	
1次		墓1		182	黒曜石	(1.42)	(1.51)	(0.52)	0.9	折れ	片側縁	
1次		墓1		189	溶質凝灰岩	(2.52)	(1.52)	(0.43)	2.3	折れ	両側縁	
1次		墓3	覆土	254	珪質泥岩	(2.13)	(1.88)	(0.29)	1.0	折れ	両側縁	弱い二次加工?
1次		墓3		262	黒曜石	2.99	1.88	0.74	4.1		片側縁	主要剥離面一部に擦痕あり。
1次		墓3		266	黒曜石	(1.76)	(0.97)	(0.32)	0.6	折れ	片側縁	
1次		墓4	NW	278	黒曜石	2.00	1.28	0.39	0.8		片側縁	
1次		墓4	SE	281	黒曜石	3.18	2.92	0.80	6.8		両側縁	
1次		墓4		294	泥質頁岩	(7.20)	(3.61)	(1.39)	30.7	割れ	片側・末端縁	被熱
1次		墓4		302	黒曜石	3.66	1.20	0.70	2.6		両側縁	
1次		墓4		304	珪質泥岩	5.20	(3.88)	0.50	1.29	折れ	両側縁	
1次		墓4		305	黒曜石	(0.98)	(1.93)	(0.65)	1.0	折れ	全縁	器面全体的に磨耗する。
1次		土1	No.20	333	黒曜石	(2.27)	0.99	0.22	0.5	折れ	両側縁	
1次		埴1P6	N24 EWO No.22	342	泥質頁岩	(7.68)	(5.80)	(1.13)	51.1	折れ?	片側縁	風化強い
1次		P3		343	黒曜石	(2.32)	(1.84)	(1.05)	3.5	割れ・折れ	片側縁	
1次		N12 E3		352	泥質頁岩	(4.59)	(3.42)	(0.52)	7.9	折れ	両側縁	
1次		N12 E6	墓3?	356	チャート	4.92	3.15	0.52	10.1		両側縁	
1次		N12 EWO		357	泥質頁岩	6.68	8.02	2.02	106.7		全縁	やや弱い。片側縁磨耗?
1次		N12 EWO		360	チャート	(3.71)	(3.60)	1.00	9.0	折れ	片側・末端縁	
1次		N12 EWO		364	黒曜石	1.45	(1.00)	0.89	1.3	割れ	片側縁	
1次		N12 W3		368	凝灰岩	4.57	9.79	1.37	57.7		末端縁	背面に主要剥離面の一部あり。
1次		N15 EWO		380	黒曜石	2.00	2.02	0.49	1.9		片側・末端縁	
1次		N15 W3	土6?	382	黒曜石	2.65	1.36	0.63	1.6		両側縁	
1次		N15 W3	土6?	386	黒曜石	2.13	(1.71)	0.74	2.1	割れ?	片側・末端縁	
1次		N15 W3	土6?	388	黒曜石	1.53	1.78	0.48	0.8		末端縁	
1次		N18 EWO		393	黒曜石	(1.18)	(1.13)	0.29	0.4	折れ	両側縁	
1次		N18 W3	土5?	397	黒曜石	1.90	(1.49)	0.60	1.8	割れ	片側縁	弱い二次加工か? 主要剥離面一部に擦痕あり。
1次		N21 EWO		402	チャート	4.02	2.60	0.50	6.2		片側・末端縁	
1次		N24 E3	建?	407	黒曜石	2.54	2.46	1.02	4.1		片側縁	
1次		N24 E3		415	黒曜石	2.20	1.41	0.42	1.2		片側縁	
1次		N24 E3		416	黒曜石	(1.02)	1.05	0.24	0.2	折れ	片側縁	
1次		N24 EWO	建?	438	珪質泥岩	(3.56)	(3.10)	0.92	10.4	折れ	片側縁	
1次		N24 W3		441	黒曜石	(2.45)	2.23	0.89	3.4	折れ	片側縁	
1次		N27 EWO	建?	446	黒曜石	1.78	1.95	0.54	1.5		両側縁	抉り
1次		N3 EWO		454	チャート	3.00	(4.14)	0.82	9.2	折れ	片側縁	新折で2つに折れる。
1次		N6 E3	No.03	460	泥質頁岩	(5.71)	(6.73)	(1.60)	73.7	折れ	片側縁	
1次		N6 E3		466	黒曜石	1.67	0.70	0.36	0.5		両側縁	主要剥離面一部に擦痕あり。
1次		N6 E3		469	黒曜石	1.90	3.12	0.58	2.9		全縁	
1次		N6 EWO	1住?	473	硬砂岩	6.50	6.52	1.62	77.2		末端縁	
1次		N6 EWO	1住?	477	黒曜石	2.63	1.69	1.08	3.2		片側縁	
1次		N6 EWO	1住?	480	黒曜石	2.00	1.27	0.24	0.5		両側縁	
1次		N6 EWO	1住?	482	黒曜石	2.22	1.90	0.68	2.0		両側縁	
1次		N9 E3	墓1?	505	黒曜石	(1.63)	(1.94)	(0.40)	0.9	折れ	片側縁	

図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	剥離	備考
1次	N6	E3			471 黒曜石	1.60	3.20	1.28	4.3		通常	
1次	N6	EW0	1住?		479 チャート	3.64	2.95	1.40	18		通常	
1次	N9	E3	兼1?		502 黒曜石	2.02	1.60	9.08	3.0		通常	
1次	N9	EW0	1住?		525 黒曜石	(1.82)	(1.98)	(1.38)	4.2	折れ?	通常	
1次	N9	W3	1住?		531 黒曜石	2.22	4.78	1.76	12.1		通常	
1次		検出面			538 チャート	(2.58)	(3.69)	(1.02)	10.9	割れ	通常	両面加工石器?
1次		試験トレンチ	西側		540 黒曜石	1.96	(1.52)	0.62	1.4	折れ	両極	
1次		不明			545 黒曜石	1.90	1.52	1.00	2.7		通常	
1次		不明			549 黒曜石	(2.00)	(1.93)	0.91	3.1	折れ	両極?	
2次	A	5住	ペルト(南)一括		9 黒曜石	2.58	2.02	0.68	3.9		両極	
2次	A	5住	南東一括		22 黒曜石	2.17	4.45	1.72	13.0		通常	
2次	A	5住	南東一括		32 黒曜石	(1.05)	(1.67)	(0.60)	1.1	折れ	通常	
2次	A	5住	南東一括		33 黒曜石	1.55	1.84	0.54	1.4		通常	
2次	A	5住	南東部覆土下層		41 黒曜石	(1.30)	(1.71)	(0.82)	1.5	折れ?	通常	
2次	A	5住	南東部覆土下層		45 黒曜石	2.15	(1.97)	1.00	4.3	割れ	両極	
2次	A	5住	南東部壁際		63 黒曜石	2.18	1.40	0.96	2.2		両極	
2次	A	5住	南東部覆土下層		76 黒曜石	2.68	2.65	0.82	5.7		通常	
2次	A	5住	南東部覆土下層		77 黒曜石	1.65	(3.08)	1.22	5.0		両極	
2次	A	5住	北西部壁際		83 黒曜石	(2.20)	(2.52)	0.84	3.3		通常	
2次	A	5住	北西覆土		85 黒曜石	1.68	1.59	0.90	2.1		両極	
2次	A	6住	東側包含層		103 黒曜石	(2.00)	(1.60)	0.70	1.7	折れ	両極?	剥片素材
2次	A	7住P1	No.2		110 チャート	2.95	(2.50)	(0.82)	6.5	割れ	通常	剥片素材
2次	A	溝2			126 黒曜石	1.25	(1.70)	(0.55)	1.0		通常	
2次	A	ST1			128 黒曜石	2.20	1.95	0.65	3.0		両極	剥片素材?
2次	A	調査区南半	包含層		137 チャート	2.85	3.32	0.96	10.3		通常	
2次	A	西壁南側	包含層		139 黒曜石	2.15	2.46	0.90	4.5		通常	器面磨耗
2次	A	検出面	N18~18, 5 E0, 7~1, 4		142 チャート	3.60	2.55	0.84	8.2		両極	
2次	A	検出面	包含層		147 黒曜石	1.33	1.12	0.92	1.2		通常	
2次	A	検出面	北側(包含層中)		148 黒曜石	1.62	1.85	0.57	1.8		両極	
2次	A	中央検出面			149 黒曜石	2.90	2.20	0.96	6.1		両極	
2次	A	北側検出面			151 凝灰岩	9.98	(9.80)	2.77	378.5	折れ	通常	扁平円礫に剥離面1面あり。
2次	A	北側検出面			152 黒曜石	1.89	3.05	1.42	7.9		通常	
2次	A	北側検出面			155 黒曜石	(1.90)	(1.27)	(0.70)	1.6		通常	
2次	A	礫土			159 黒曜石	1.20	1.35	0.80	1.6		通常	

原石

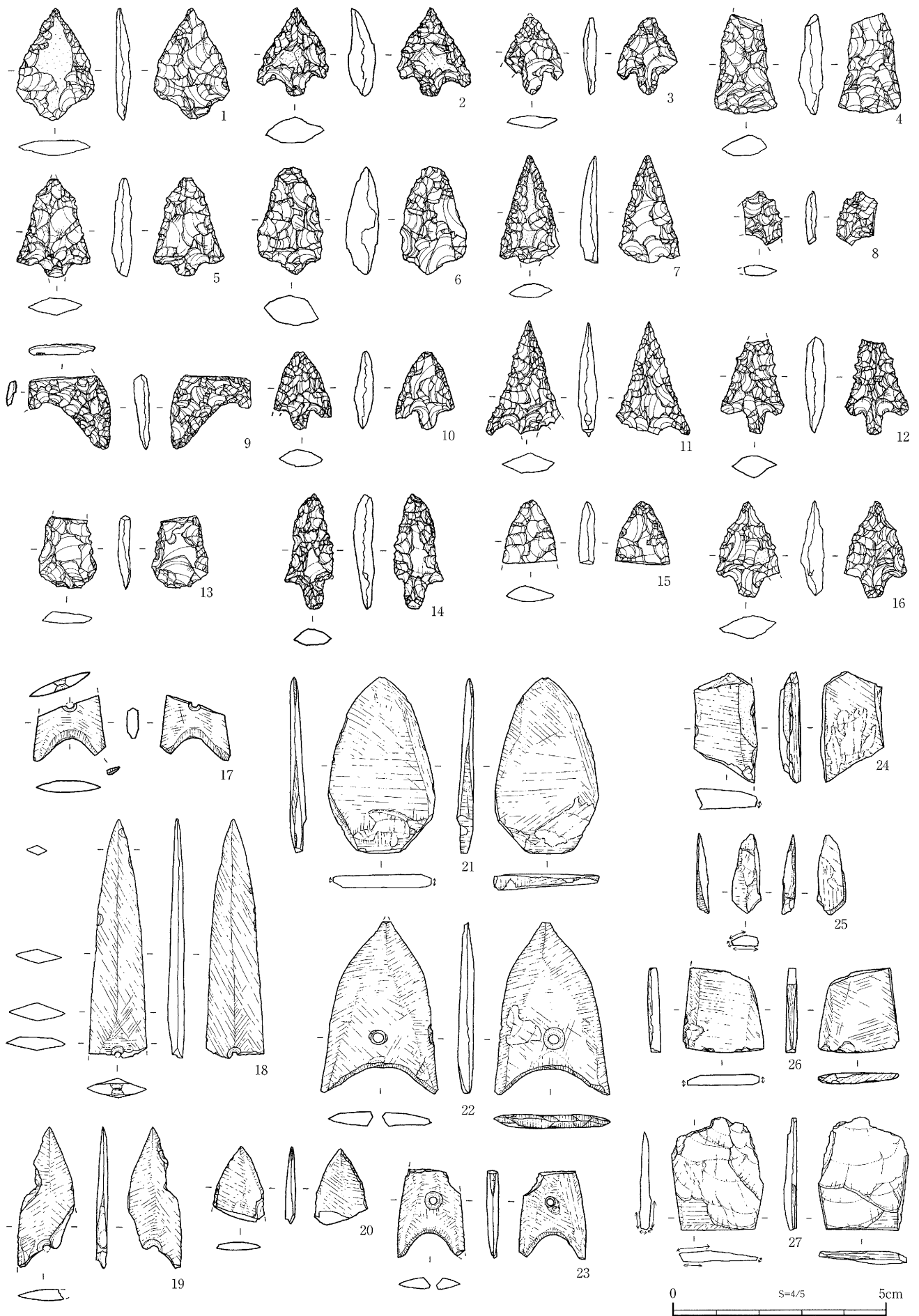
図No	調査地区	出土地点1	出土地点2	注記	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	破損状況	備考
1次	N15	W3	±6?		383 黒曜石	2.42	2.28	1.83	14.1		角礫

第12表 石材単位器種組成

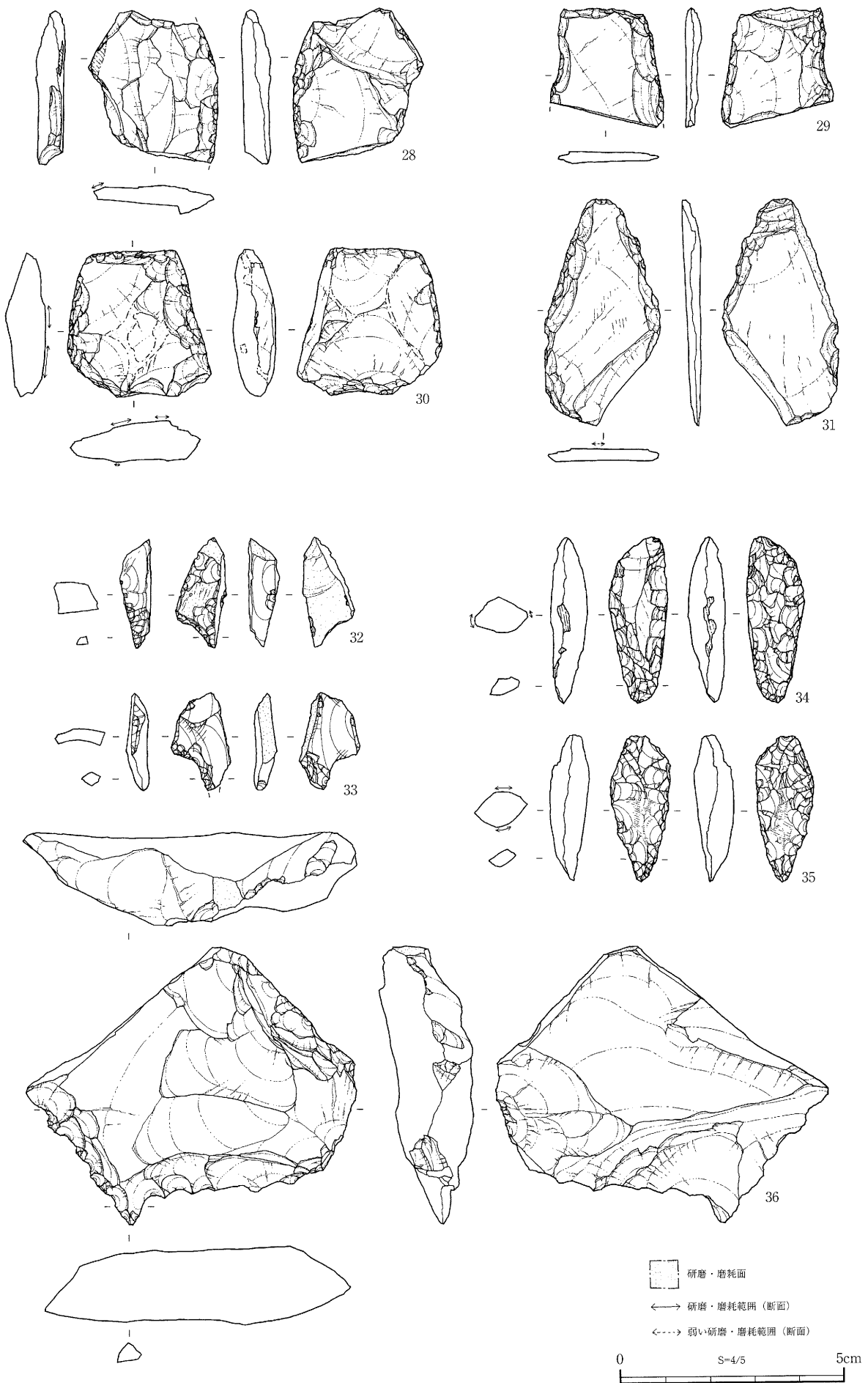
石材	打製石鏃	磨製石鏃	磨製石鏃未製品	石錐	打製石斧	磨製石斧	環状石斧	磨製石包丁	二次加工ある剥片	凹・敵・磨石	砥石	有孔石製品	微細剥離ある剥片	石核	剥片	砕片	礫片	原石	計
1次 黒曜石	9			2					6				52	61	93	25		1	249
砂岩									2	11	28				3		14		58
チャート				1					5	1			9	6	16	7	11		56
泥質頁岩	1				3	1			3	1			7	1	17	8	1		43
硬砂岩					3				2	2	3		2		2		7		21
溶質凝灰岩								1		1			1		5	2	8		18
珪質泥岩									3				5	1	7	1			17
結晶片岩	4		5						2						2	2			15
凝灰岩				1	1	1			2				3		3		1		12
安山岩					1				1	3	1	1			2		2		11
閃緑岩						5	1				5								11
花崗岩										5									5
石英															2	2	1		5
鉄石英														1	3	1			5
頁岩									1	1					2				4
石英閃緑岩																	3		3
石英斑岩															1		2		3
緑色凝灰岩						2								1					3
輝緑岩									1										1
下呂石	1																		1
粘板岩		1																	1
ホルンフェルス															1				1
礫岩											1								1
合計	10	6	5	4	8	9	1	1	28	25	38	1	79	71	159	48	50	1	544
2次 黒曜石	5			1					5					16	21	65	4		117
チャート									1					1	3	3		1	9
泥質頁岩														1		4			5
珪質泥岩	1												3						4
凝灰岩														1	2		1		4
硬砂岩									1						1		1		3
砂岩												3							3
結晶片岩		1	1																2
蛇紋岩			1			1													2
石英																1	1		2
花崗岩																	1		1
粘板岩			1																1
溶質凝灰岩																	1		1
緑色凝灰岩															1				1
珪化木																	1		1
頁岩									1										1
輝緑凝灰岩									1										1
合計	6	1	3	1	0	1	0	0	9	0	3	0	21	25	75	6	7	0	158
1次 2次合計	16	7	8	5	8	10	1	1	37	25	41	1	100	96	234	54	57	1	702

第13表 遺構単位器種組成

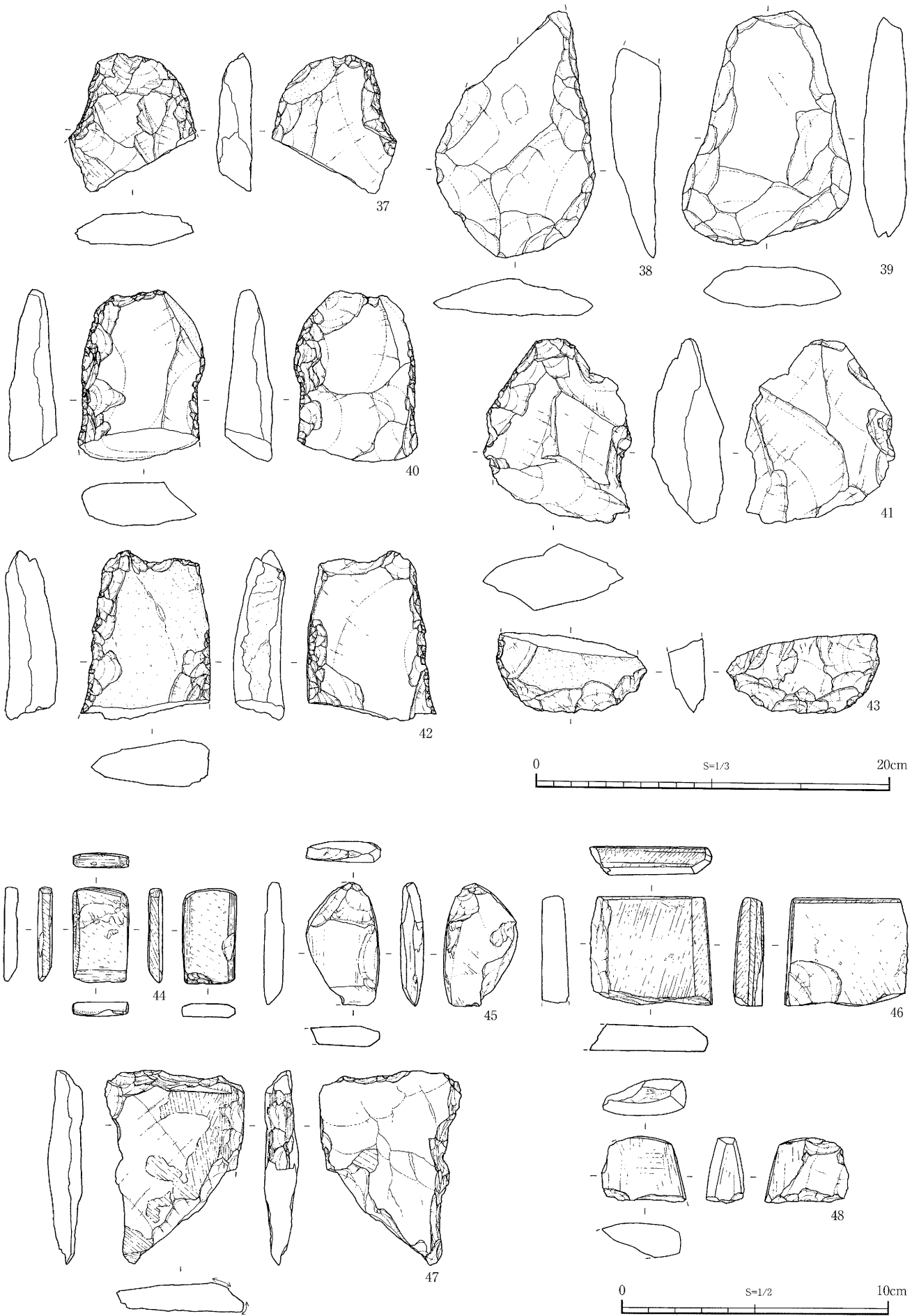
出土遺構	打製石鏃	磨製石鏃	磨製石鏃未製品	石錐	打製石斧	磨製石斧	環状石斧	磨製石包丁	二次加工ある剥片	凹・敲・磨石	砥石	有孔石製品	微細剥離ある剥片	石核	剥片	碎片	礫片	原石	計
1次 1住	1		1	1					3	1	2		6	7	3		3		28
2住	5	2	2	1	2	1	1		9	2	7		16	24	41	6	1		120
2住P6						1									2				3
2住周溝				1															1
3住					1								5	2	3				11
3住P1													1						1
建1P6													1						1
土1										1	2		1			1			5
土2										1					1				2
土6														1	3				4
土12																1			1
P3													1						1
P8						1													1
P13					1					1									2
墓1			1		1	2			1	4	3		3	1	14	6	11		47
墓2											3				12	11	3		29
墓3									1	2	4		3	2	7	5	6		30
墓4		2			1				1	1	2		6	1	25	11	6		56
N3 W3										1									1
N3 EWO						1							1	1	5		1		9
N3 E3(墓4?)															1				1
N6 EWO(1住?)										1	1		4	1	5	1			13
N6 E3										2	1		3	4	2		1		13
N9 W3														1	1	1			3
N9 EWO(1住?)						1			1	2	1			1			3		9
N9 E3(墓1?)	2	1				1			2	2	3		3	1	6		3		24
N9 E6(墓2?)				1					3	1			2	1	1	1	4		13
N12 W3													1	2	1		1		5
N12 EWO										1			3	2	3		2		11
N12 E3									2		3		1		2				8
N12 E6(墓3?)													1						1
N15 W3													3	3	1			1	8
N15 EWO(土6?)						1			1			1	1		1				5
N15 E3															3				3
N18 W3(土5?)													1	2					3
N18 EWO					1				1				1	2	2				7
N21 EWO													1		1		1		3
N24 W3					1								1	1	1				4
N24 EWO(建1?)			1					1	1		2		1	4	4	2	1		17
N24 E3(建1?)	1								1	1			3	4	3	2			15
N24 E6											1						2		3
N27 W3(土1?)											1								1
N27 EWO													1		3		1		5
検出面他	1	1							1	1	2		4	4	2				16
合計	10	6	5	4	8	9	1	1	28	25	38	1	79	71	159	48	50	1	544
2次 5住	6	1	2						5		1		13	11	49	5	6		99
5住P1									1				1						2
5住P6															1				1
6住													1	1	1	1			4
7住P1													1	1	1				3
土14															3				3
土15			1												1				2
P1															1				1
P2															2				2
P7				1															1
P16															2				2
P44									1		2								3
溝2														1					1
溝3															1				1
検出面他						1			2				5	11	13		1		33
合計	6	1	3	1	0	1	0	0	9	0	3	0	21	25	75	6	7	0	158
1次 2次合計	16	7	8	5	8	10	1	1	37	25	41	1	100	96	234	54	57	1	702



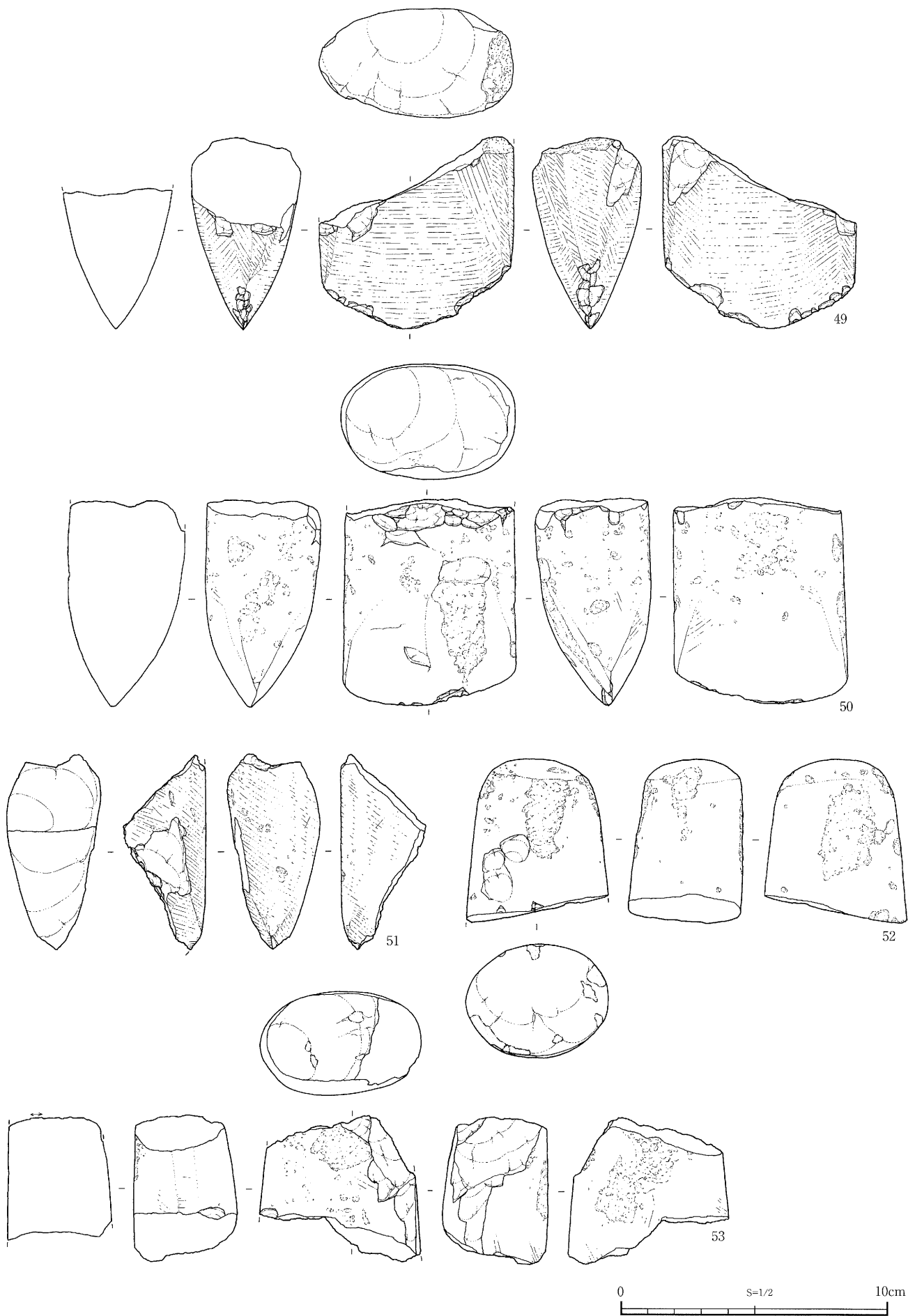
第25图 石器 (1)



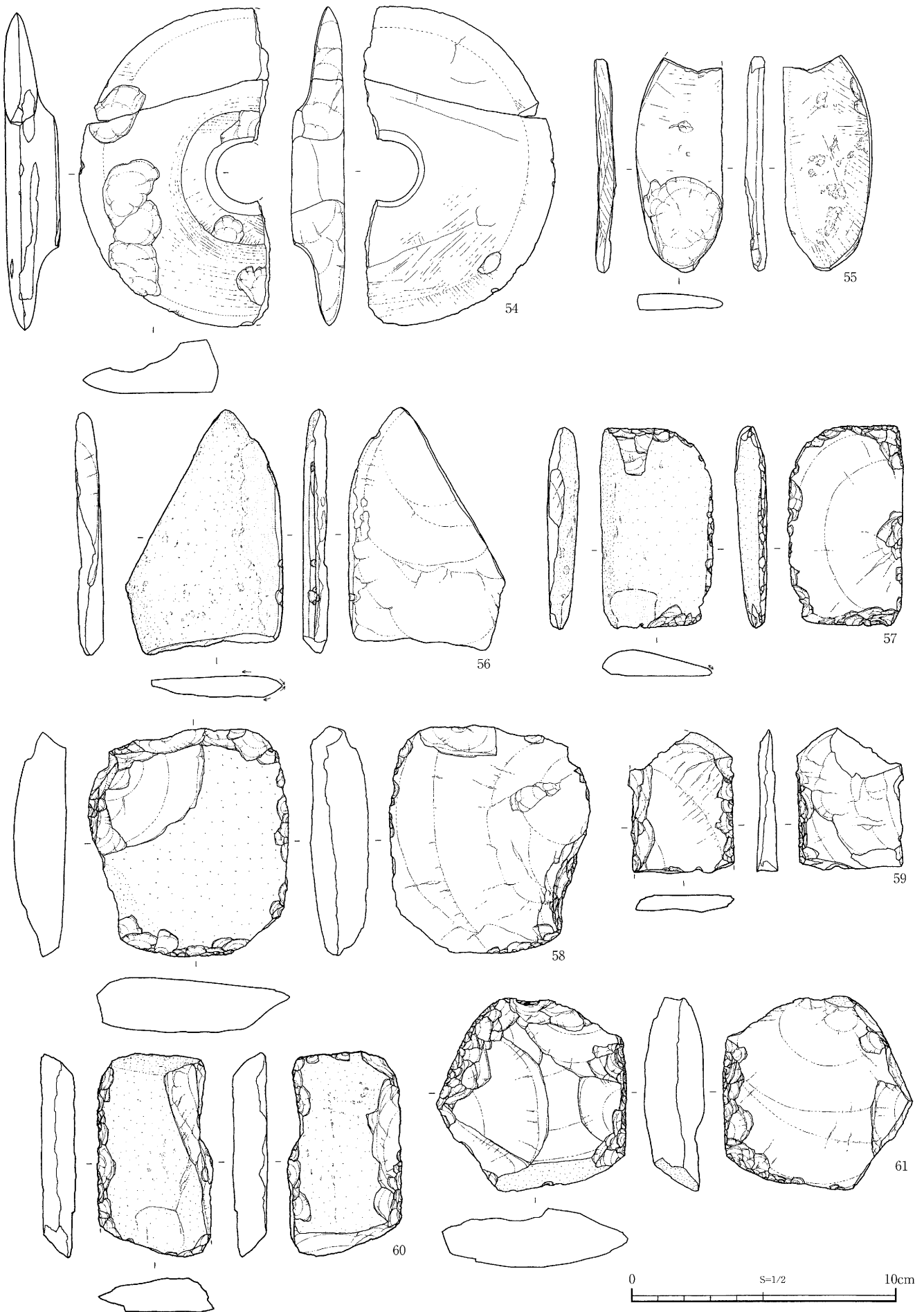
第26図 石器(2)



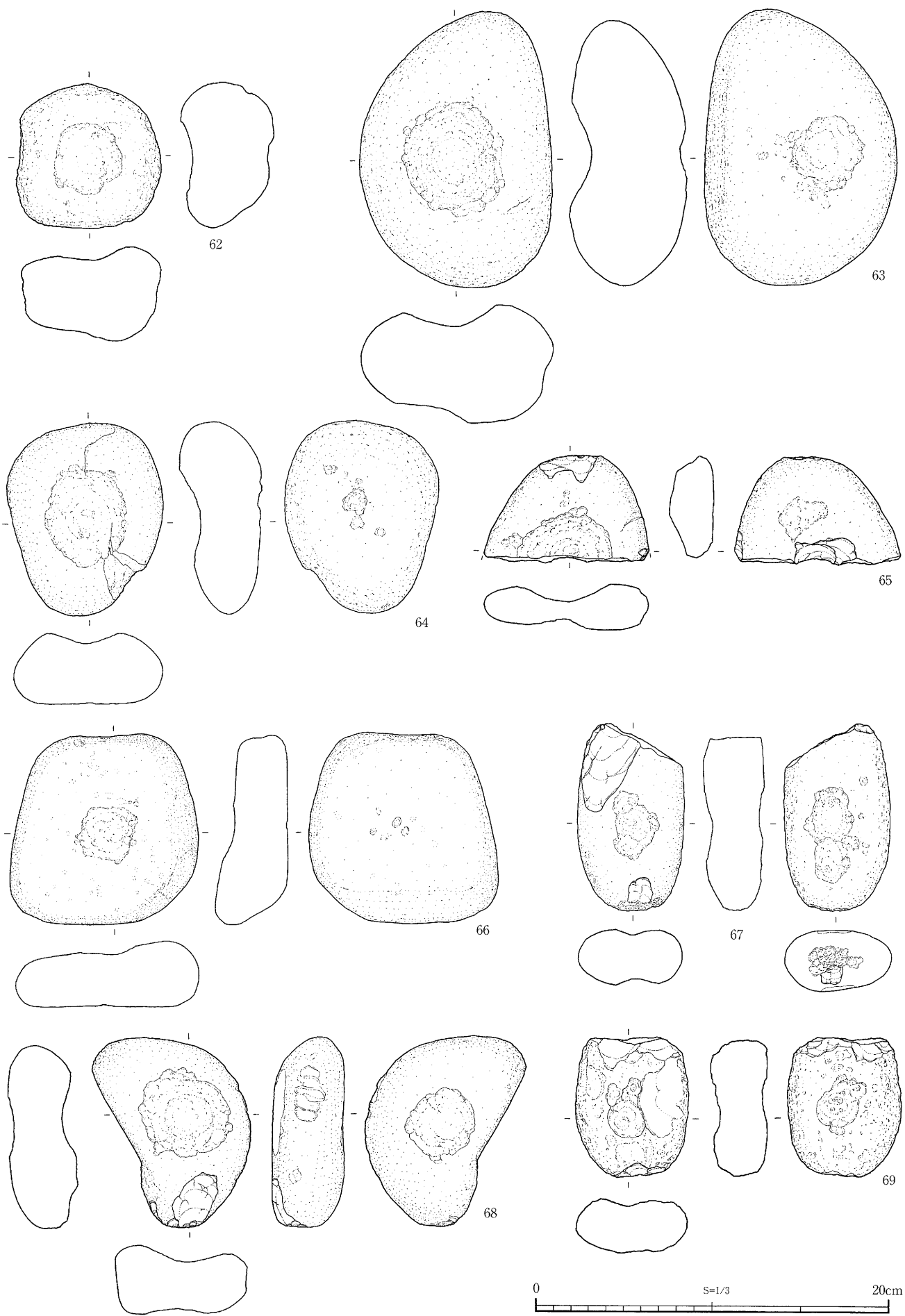
第27图 石器 (3)



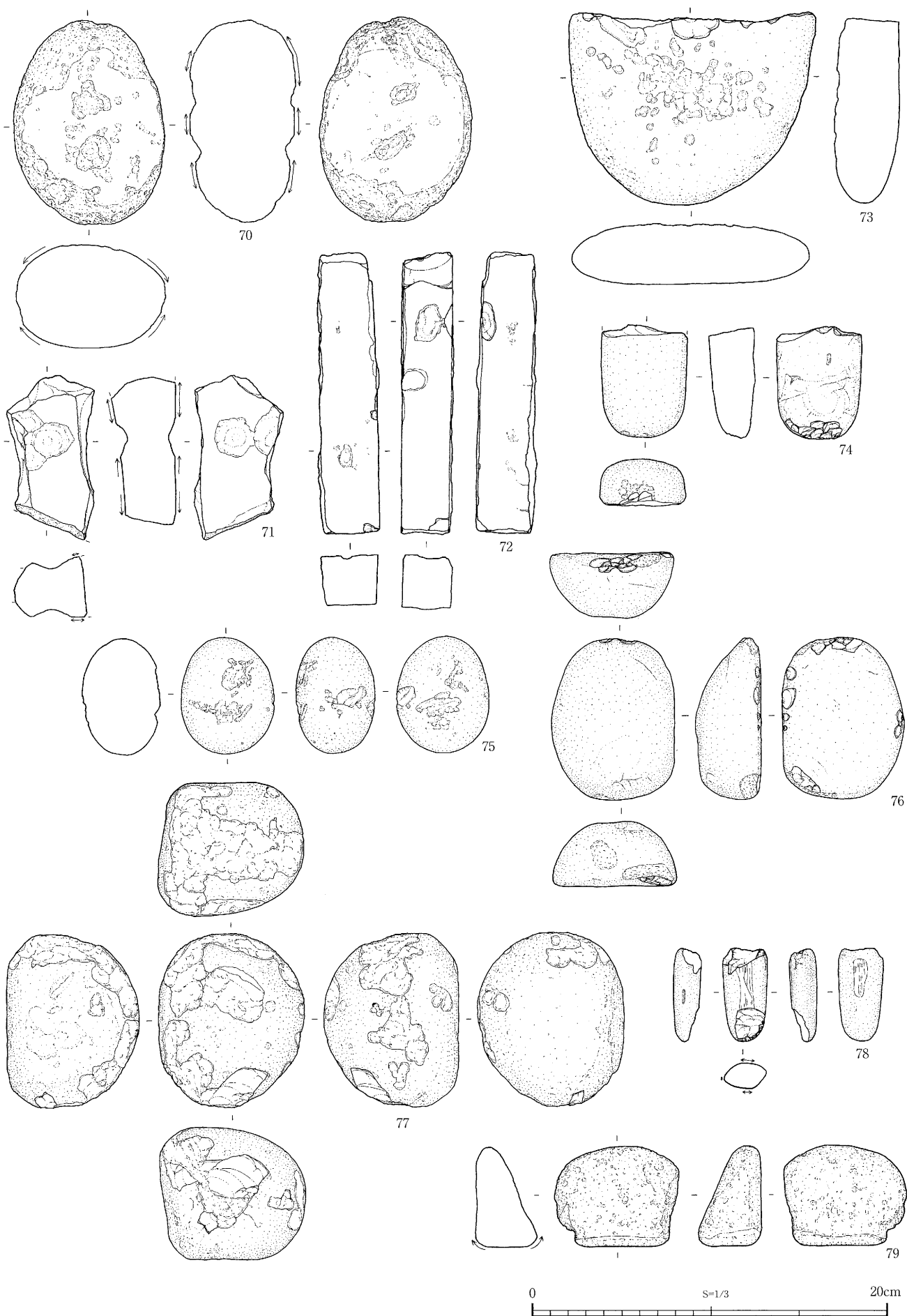
第28图 石器(4)



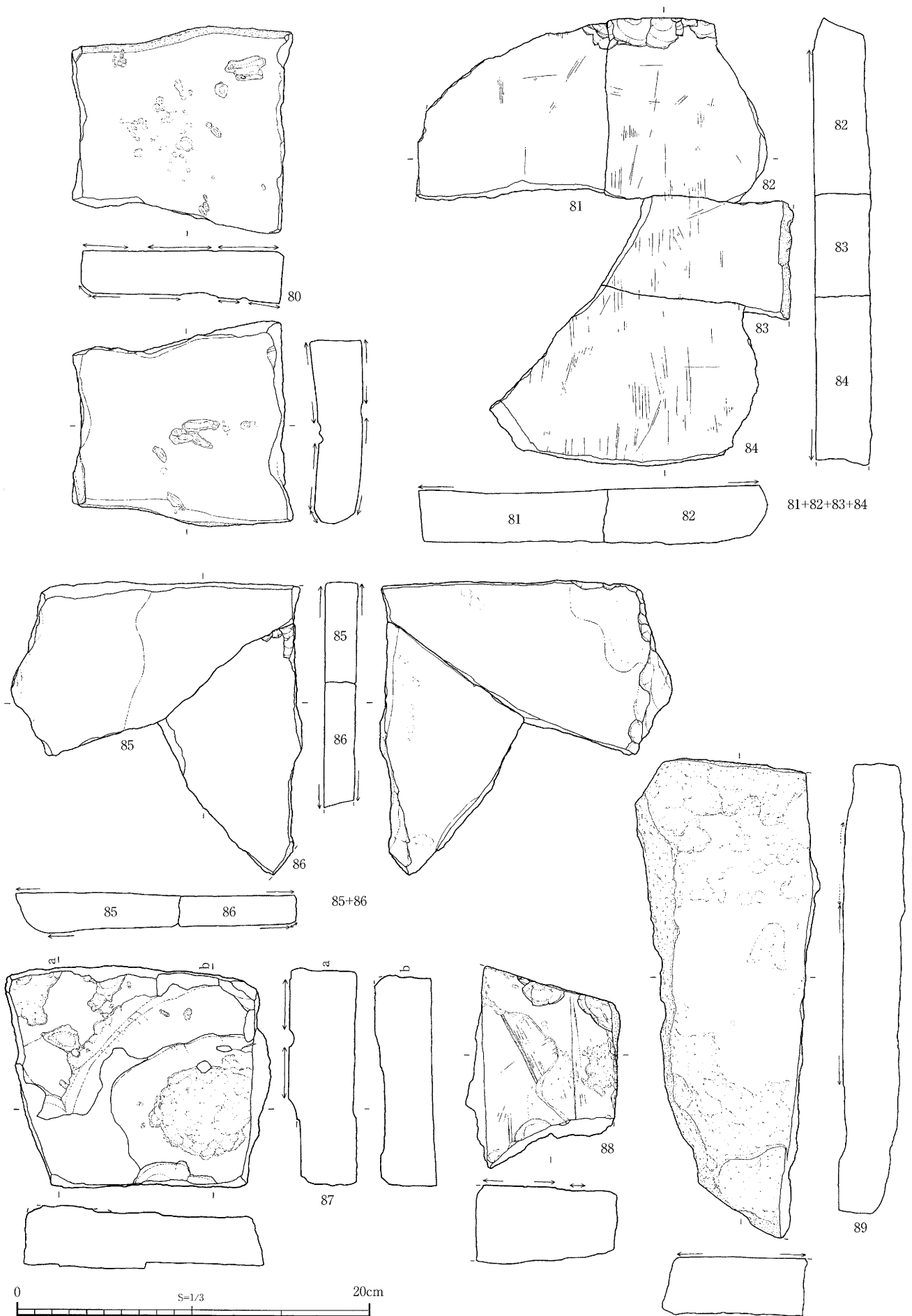
第29图 石器 (5)



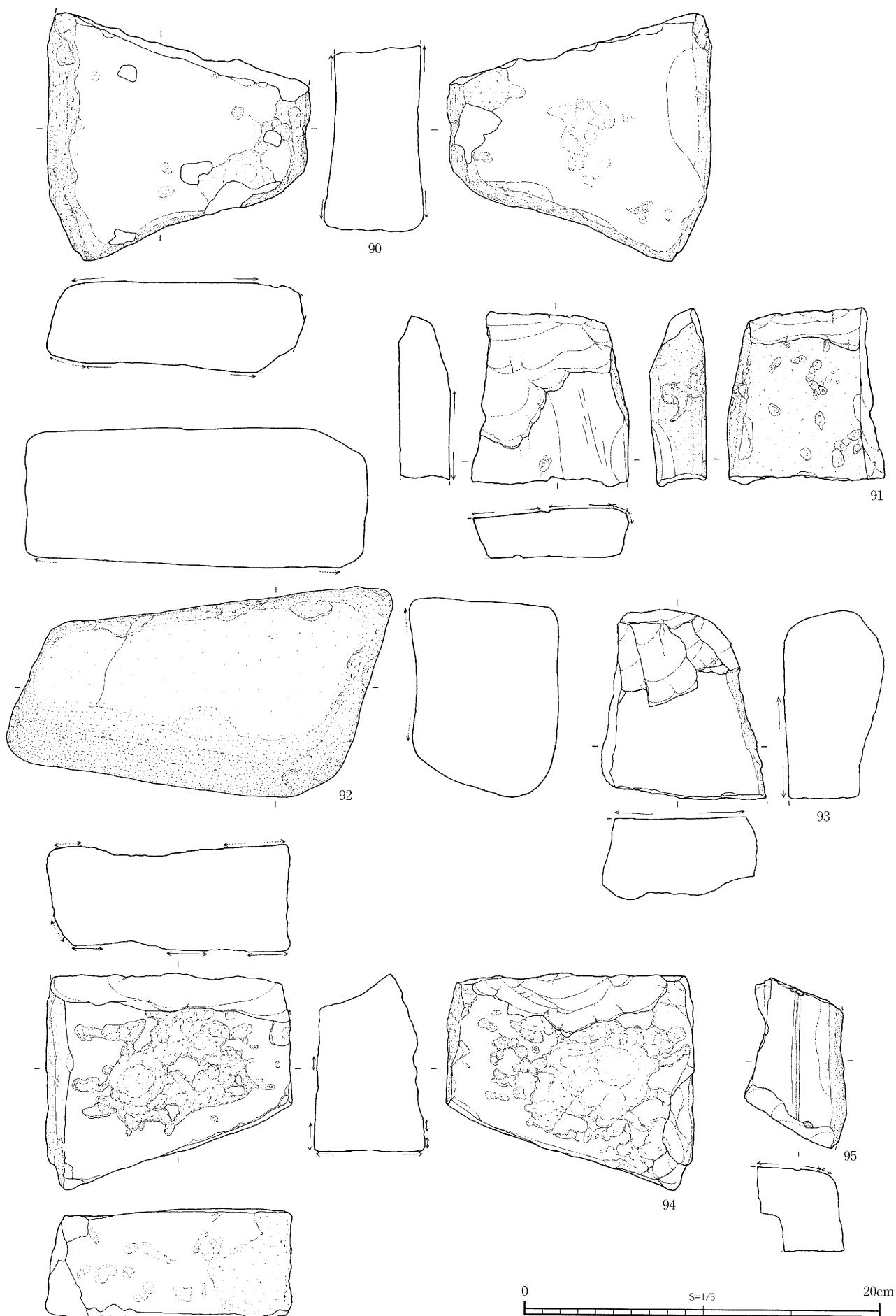
第30图 石器 (6)



第31图 石器 (7)



第 32 图 石器 (8)



第33图 石器 (9)



第34图 石器 (10)

3 人骨

本稿では墓域を構成する弥生時代中期後半～末と考えられる礫床木棺墓から出土した人骨とみられる骨片の種類や部位の同定、および炭素・窒素安定同位体比分析による食性の検討を行った。

(1) 骨同定

ア 試料

試料は、墓4から出土した人骨とみられる骨片である。墓4は、長軸を東西とする最大長2.8m、最大幅2.1mを測る礫床木棺墓であり、共伴する土器群から弥生時代中期後半～末の遺構と推定されている。

分析に供された試料は、本遺構を北東(NE)、北西(NW)、南東(SE)、南西(SW)、中央、東小口、西小口の7箇所に分けて土壌ごと一括に採取された後、5mm、2.5mm、1mmの篩分けによって選別された人骨片である。さらに、これら回収された骨片は、16袋に分けて整理され、一括袋番号(001～016)が付されている。

イ 分析方法

試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。なお、骨格各部の名称は、図1に示す。

ウ 結果

結果を表1に示す。出土した人骨は、いずれも白色を呈し、表面に細かなひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。以下、試料ごとに結果を記す。

(ア) 001 : 墓4 NE

前頭骨、頭頂骨、左右側頭骨、脳頭蓋骨、歯牙、頭蓋骨、頸椎?、椎骨?、肋骨、橈骨/尺骨、四肢骨、基節骨/中節骨などが確認される。このうち、前頭骨は、左頬骨突起が2点みられる。

(イ) 002 : 墓4 NE

四肢骨片である。

(ウ) 003 : 墓4 NW

部位不明破片である。

(エ) 004 : 墓4 SE

前頭骨、頭頂骨、左側頭骨、脳頭蓋骨、上顎骨/下顎骨、歯牙、橈骨/尺骨、四肢骨などが確認される。

(オ) 005 : 墓4 SW

前頭骨、頭頂骨、右側頭骨、脳頭蓋骨、歯冠、頭蓋骨、肋骨、橈骨、四肢骨、指趾骨?などが確認される。頭蓋骨にみられる縫合は、内側・外側とも閉じてない状態が確認される。

(カ) 006 : 墓4 中央部分

脳頭蓋骨、上顎骨/下顎骨、大白歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、上腕骨、橈骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

(キ) 007 : 墓4 中央

頭頂骨、脳頭蓋骨、左上顎第2大白歯、左下顎切歯、歯牙、頭蓋骨、肋骨、右肩甲骨、大腿骨、脛骨、四肢骨、中手骨/中足骨?などが確認される。なお、左上顎第2大白歯は歯根が未形成で、左下顎切歯は未咬耗であることから萌出直後か未出歯牙とみられる。

(ク) 008 : 墓4 中央

脳頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(ケ) 009 : 墓4 西小口

頭頂骨などが確認される。なお、頭頂骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

(コ) 010 : 墓4 東小口

脳頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(サ) 011 : 墓4 東

脳頭蓋骨、頬骨?、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

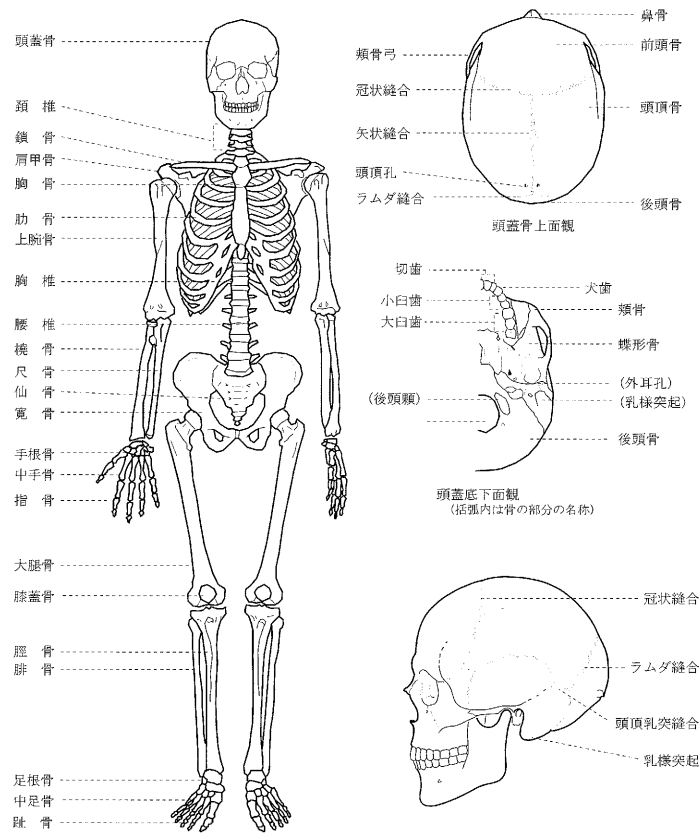


図1. 人体骨格各部の名称

表1. 骨同定結果(1)

No.	位置	頭蓋																					
		脳頭蓋												顔面頭蓋									
		前頭骨		頭頂骨		後頭骨?		側頭骨		側頭骨?		脳頭蓋		頬骨		頬骨?							
		頬骨突起		破片		破片		破片		錐体部		頬骨弓?		破片		破片							
001	NE	2	3.4	-	-	-	-	12	17.6	-	-	1	3.9	1	3.8	-	-	155	109.3	-	-	-	-
002	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
004	SE	-	-	-	-	1	1.1	2	2.3	-	-	1	1.6	-	-	-	-	15	11.3	-	-	-	-
005	SW	-	-	1	2.1	-	-	2	3.8	-	-	-	-	1	2.9	-	-	14	12.7	-	-	-	-
006	中央部分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	44.8	-	-	-	-
007	中央	-	-	-	-	-	-	1	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	18	11.0	-	-	-	-
008	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	10.0	-	-	-	-
009	西小口	-	-	-	-	-	-	1	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	東小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	3.8	-	-	-	-
011	東骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	5.6	-	-	1	1.0
012	骨1 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3.2	-	-	-	-
013	骨3 (NW)	-	-	-	-	1	0.9	20	37.0	1	2.3	1	3.2	-	-	1	0.4	124	100.2	1	2.2	-	-
014	骨4 (NW/SW)	-	-	-	-	-	-	3	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
015	骨5 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*左側が数量、右側が重量(g)を示す。

No.	位置	頭蓋																		
		顔面頭蓋										内耳		頭蓋骨						
		上顎骨		下顎骨		上顎骨/下顎骨		上顎歯牙		下顎歯牙		大臼歯		歯牙		砧骨		破片		
		破片		破片		破片		左第2大臼歯		左切歯		歯冠		歯冠		歯根		右		
001	NE	1	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0.1	11	1.7	-	-	3	4.0
002	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
004	SE	-	-	-	-	1	0.9	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-
005	SW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	-	3	4.1
006	中央部分	-	-	-	-	1	0.4	-	-	-	1	0.1	1	0.0	9	0.9	-	-	2	1.6
007	中央	-	-	-	-	-	-	1	0.4	1	0.4	-	-	-	5	0.3	-	-	2	3.5
008	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
009	西小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	東小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011	東骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.6
012	骨1 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
013	骨3 (NW)	-	-	1	0.8	1	1.2	-	-	-	-	-	-	7	0.8	1	0.0	9	11.9	
014	骨4 (NW/SW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	13.4
015	骨5 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.6
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.1	-	-	-	6	2.4

*左側が数量、右側が重量(g)を示す。

(シ) 012 : 墓 4 骨 1 NE

脳頭蓋骨、上腕骨?、四肢骨などが確認される。

(ス) 013 : 墓 4 骨 3 NW

前頭骨、頭頂骨、左側頭骨、側頭骨?、右耳小骨 (キヌタ骨)、後頭骨?、脳頭蓋骨、右頬骨、下顎骨、上顎骨/下顎骨、歯牙、頭蓋骨、第 1 頸椎、肋骨、脛骨?、四肢骨などが確認される。

(セ) 014 : 墓 4 骨 4 NW/SW

頭頂骨、頭蓋骨、四肢骨などが確認される。頭頂骨では、矢状縫合がみられ、内側が閉じており、外側が開いている状態が確認される。

(ソ) 015 : 墓 4 骨 5 NE

頭蓋骨、四肢骨などが確認される。

(タ) 016 : 墓 4 西

歯牙、頭蓋骨などが確認される。

表1. 骨同定結果(2)

		体幹										上肢						
		脊柱					胸部					上肢帯		腕部				
		頸椎	頸椎?		椎骨?		肋骨		肋骨?			肩甲骨	上腕骨	上腕骨?	橈骨	橈骨/尺骨		
		第1頸椎 前結節	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	肩峰 右	遠位端	破片	骨頭	破片			
001	NE	-	-	1	0.4	1	0.6	5	4.8	1	1.0	-	-	-	-	-	1	3.8
002	NE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
003	NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
004	SE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5.1
005	SW	-	-	-	-	-	-	1	0.6	-	-	-	-	-	-	1	0.6	-
006	中央部分	-	-	-	-	-	-	1	0.5	-	-	-	1	1.4	-	1	1.6	-
007	中央	-	-	-	-	-	-	6	8.4	-	-	1	3.2	-	-	-	-	-
008	中央	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
009	西小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
010	東小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
011	東骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
012	骨1 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6.4	-	-	-
013	骨3 (NW)	1	0.3	-	-	-	-	3	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
014	骨4 (NW/SW)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
015	骨5 (NE)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*左側が数量、右側が重量(g)を示す。

		下肢						四肢骨		肋骨/四肢骨		中手骨/中足骨?		指趾骨		指趾骨?		不明		1mm (g)	総量 (g)
		脛部			破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片	破片			
		大腿骨	脛骨	脛骨?																	
		破片	破片	破片																	
001	NE	-	-	-	-	59	63.1	70	38.0	-	-	1	0.5	-	-	233.8	161.1	655.1			
002	NE	-	-	-	-	1	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.8			
003	NW	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.2	32.0	37.1			
004	SE	-	-	-	-	34	40.8	10	5.3	-	-	-	-	-	-	31.7	64.2	164.4			
005	SW	-	-	-	-	61	65.3	21	12.1	1	0.5	-	-	1	0.3	101.4	105.7	312.0			
006	中央部分	-	-	-	2	3.6	79	106.1	44	25.1	-	-	-	-	-	159.0	27.0	371.8			
007	中央	1	5.4	1	13.4	-	91	161.1	20	12.7	1	0.9	-	-	-	54.0	86.1	362.5			
008	中央	-	-	-	-	30	27.1	15	6.5	-	-	-	-	-	-	19.8	-	63.4			
009	西小口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1	1.0	6.1			
010	東小口	-	-	-	-	3	1.2	5	2.3	-	-	-	-	-	-	2.8	14.7	24.8			
011	東骨	-	-	-	-	9	8.6	22	5.0	-	-	-	-	-	-	11.2	40.7	72.6			
012	骨1 (NE)	-	-	-	-	6	6.3	-	-	-	-	-	-	-	-	0.2	-	16.1			
013	骨3 (NW)	-	-	-	2	3.8	85	119.4	108	43.3	-	-	-	-	-	159.1	285.7	774.1			
014	骨4 (NW/SW)	-	-	-	-	3	3.8	7	3.5	-	-	-	-	-	-	3.5	26.8	57.8			
015	骨5 (NE)	-	-	-	-	3	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8	-	3.6			
016	西の骨	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.9	0.6	5.0			

*左側が数量、右側が重量(g)を示す。

エ 考察

墓4から出土した人骨は白色～灰色を呈した破片で、表面に微細なひび割れが生じるなど、焼骨の特徴を示す。馬場ほか(1986)を参考にすると、人骨を焼いた際、600℃以下ではほとんど変化がなく、800℃付近では灰白色になり、収縮・硬化が見られ、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われるなど、最も激しく変化するとされている。これより、本人骨は、800℃以上の高温で火葬された人骨であるとみられる。また、檜崎(2007)によると、通常の遺体をそのまま火葬した場合、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が生じ、歪みや捻れが生じるが、白骨化させた骨を火葬すると歪みや捻れがないと述べている。本人骨は、細片化した骨が多いため断定は難しいが、横に曲がった亀裂や縦に不規則な亀裂が少ないと思われ、白骨化させた骨を焼いている可能性がある。

地点別の出土骨の傾向についてみると、中央部や北側に集中し、西小口や東小口で少ないという特徴が窺える。ただし、本試料については、地点別に一括で採取されているため、詳細な分布および遺体の埋葬方法など詳細な検討は困難である。

また、埋葬人骨に関しては、左側頭骨錐体部が3点検出されたことから、少なくとも3体が含まれていたと判断される。さらに、頭蓋の縫合状態をみると内側・外側とも閉じてない頭蓋骨(墓4 SW;005)が認められたほか、矢状縫合において内側が閉じ、外側が開いている状態(墓4 西小口;009、墓4 骨4 NW/SW;014)も確認された。これより、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体と熟年(40～59歳程度)の個体が含まれていると判断される。このうち、壮年(20～39歳程度)よりも若い個体については、歯根が未形成な左上顎第2大臼歯や未咬耗の左下顎切歯が墓4中央(007)より検出された。したがって、小児前半(6～10歳前後)程度の個体が含まれていると推定される。

なお、性別に関しては、性判定を行うのに有用な部位(例えば、寛骨大坐骨切痕の形状、頭蓋の乳様突起、前頭骨隆起、眉上隆起、外後頭骨隆起など)が確認できなかったことや、細片となり大きさによる判定が難しいなどの理由から、判断には至らなかった。

(2) 炭素・窒素安定同位体分析

ア 試料

試料は、墓4から出土した骨片のうち、I.においてヒトの四肢骨および頭蓋骨に同定された破片である。分析には、墓4 NE(001)の四肢骨片3点(①～③)と墓4中央(006)の頭蓋骨片2点(①, ②)を候補として抽出(図版2)し、四肢骨片1点(①)を分析対象とした。なお、分析に供した四肢骨片(①)は、後述するように、窒素同位体の値が検出限界以下となったため、上記した5試料より頭蓋骨片1点(頭蓋骨①)についても分析を行っている。

イ 分析方法

コラーゲン抽出、抽出したコラーゲンの炭素・窒素安定同位体比($\delta^{13}\text{C}$, $\delta^{15}\text{N}$)の測定およびは、SIサイエンス株式会社の協力を得た。以下に、炭素・窒素安定同位体測定などに用いた機器を示す。

ガス化前処理装置 : Flash EA1112 (Thermo Fisher Scientific 社製)

安定同位体比質量分析計 : DELTA V Advantage (Thermo Fisher Scientific 社製)

ウ 結果

結果を表2に示す。炭素と窒素の安定同位体比($\delta^{13}\text{C}$, $\delta^{15}\text{N}$)は、標準試料からの偏差として示され、単位は千分率(‰)である。墓4から出土した人骨の $\delta^{13}\text{C}$ は、四肢骨①が-26.0‰、頭蓋骨①が-26.7‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は2試料とも検出限界以下である。

オ 考察

炭素・窒素同位体比による食性の検討は、日本各地の遺跡で出土した人骨や土器に付着した炭化物などを対象に実施され、資料が蓄積されつつある。本遺跡周辺では、安曇野市(旧明科町)内の犀川右岸の北村面と称される段丘面上に位置する北村遺跡の出土人骨を対象とした事例がある。赤沢ほか(1993)の報告によれば、縄文時代中期～後期とされる出土人骨20個体より炭素同位体比の測定値が得られ、このうちの5個体からは窒素同位体比とともに信頼度の高い測定値が得られたとされている。さらに、この測定値と既知の食糧資源の同位体環境(図2)との対照から、C3植物の分布域に接し、重なることから、食糧資源の大部分をC3植物から摂取していたことが示唆されている。

表2. 炭素・窒素安定同位体分析結果

試料							コラーゲン抽出に用いた試料重量 (g)	コラーゲン重量 (mg)	$\delta^{13}\text{C}$ -VPDB (‰)	$\delta^{15}\text{N}$ -Air (‰)	T-C (%)	T-N (%)
No.	遺構	地点	種類	部位	状態	番号*						
001	墓4	NE	ヒト	四肢骨	破片	①	1.491	0.036	-26.0	ND	19.8	ND
006	墓4	中央	ヒト	頭蓋骨	破片	①	1.501	0.137	-26.7	ND	12.5	ND
平均									-26.35	—	16.16	—

ND: 検出限界以下

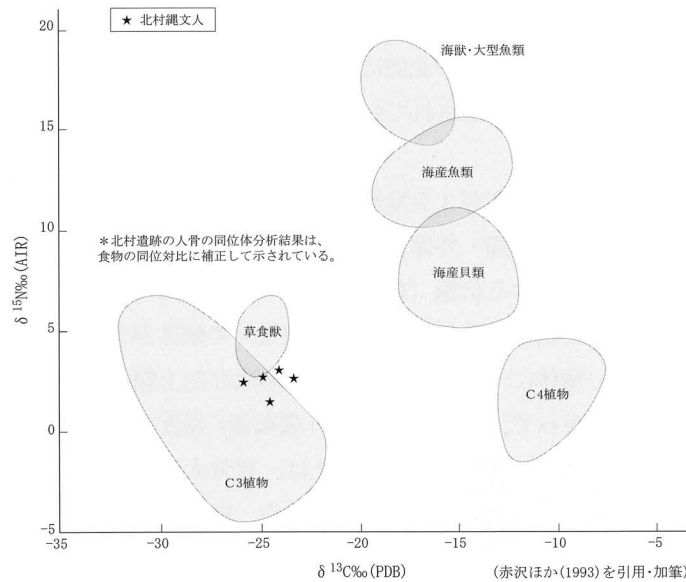


図2. 食糧資源の炭素・窒素安定同位体環境

横田古屋敷遺跡の礫床木棺（墓4）から出土した人骨については、炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）が -26.35‰ （平均）、窒素同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）は四肢骨、頭蓋骨ともに検出限界以下であった。また、抽出されたコラーゲンの品質を確認する方法としてC/N比（炭素量、窒素量の量比）が指標とされるが、墓4の2試料は窒素量がいずれも検出限界以下であったため、その評価には至らなかった。この結果および出土骨の同定時の所見などから、墓4の人骨におけるコラーゲンは、熱変成や土壌中の埋積過程における経年劣化などの影響を受けていると推定され、得られた測定値の信頼度についても課題が残る。

なお、今回の得られた炭素安定同位体比の測定値について、仮に北村遺跡の結果（図2）と比較する場合、人骨コラーゲンと利用食物との間での同位体分別を考慮する必要がある。米田ほか（Yoneda *et al.*, 2002）に示された値では $\delta^{13}\text{C}$ が 4.5‰ 、 $\delta^{15}\text{N}$ が 3.5‰ 、人骨コラーゲンが利用食物と比べ高い値を示すとされる。これを参考とすると、今回の結果はおおよそC3植物の範囲内にあるが、前述したようにコラーゲンの品質に課題が残るため、再検証を含めた資料の蓄積による評価が必要と考える。

引用・参考文献

赤沢 威・米田 穰・吉田邦夫, 1993, 北村縄文人骨の同位体食性分析, 中央自動車道長野埋蔵文化財発掘調査報告書11 -明科町内- 北村遺跡 本文編, 財団法人長野埋蔵文化財センター発掘調査報告書 14 日本道路公団名古屋建設局・長野県教育委員会・財団法人長野埋蔵文化財センター, -445-468.

馬場 悠男・茂原 信生・阿部 修二・江藤 盛治, 1986, 根古屋遺跡出土の人骨・動物骨. 霊山根古屋遺跡の研究 -福島県霊山町根古屋における再葬墓群-, 福島県霊山町教育委員会, 93-113.

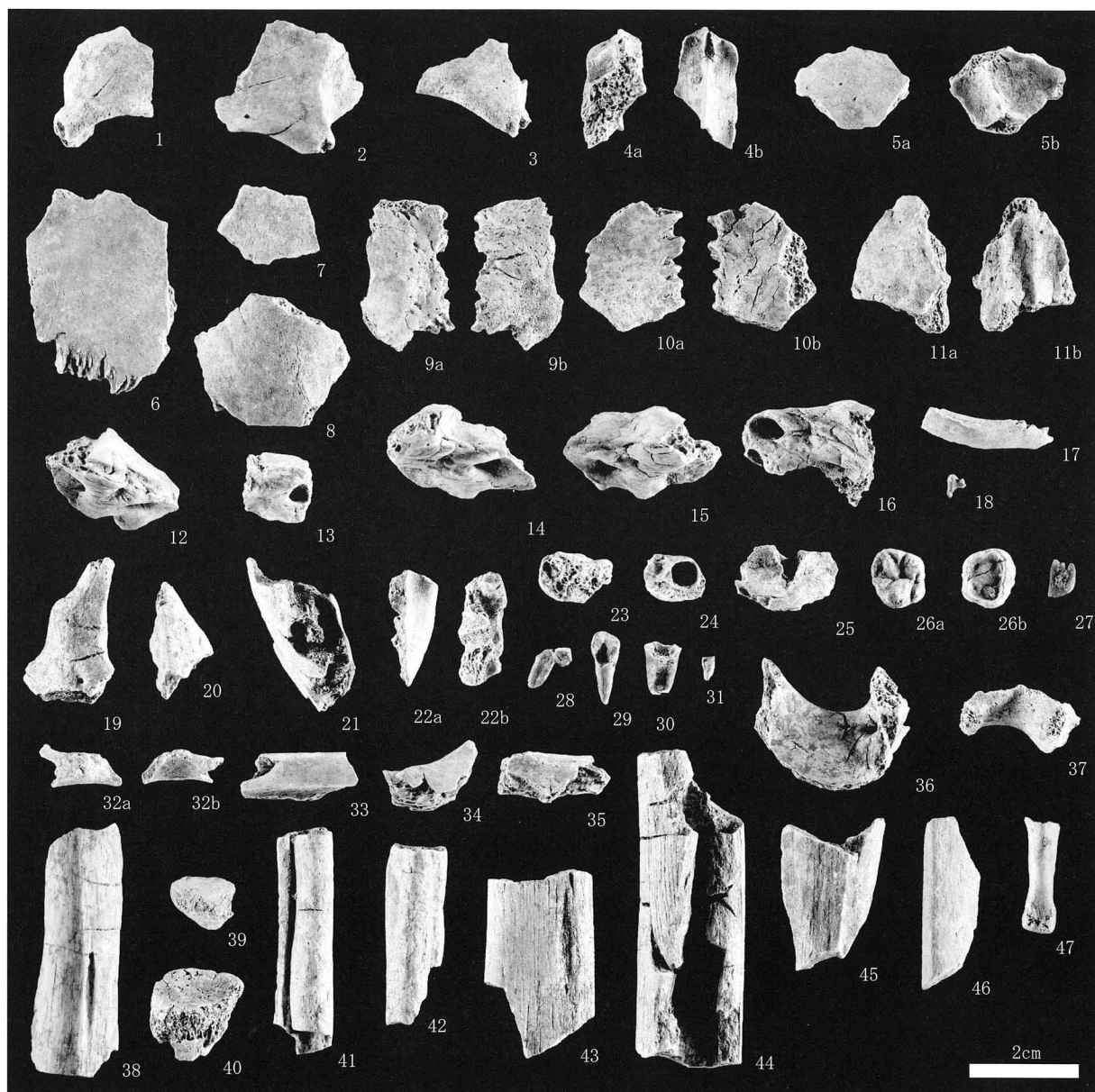
植崎修一郎, 2007, 火葬人骨と考古学. 狭川真一編著「墓と葬送の中世」, 高志書院, 107-126.

Yoneda, M., M. Hirota, M. Uchida, A. Tanaka, Y. Shibata, M. Morita, and T. Akazawa, 2002, Radiocarbon and stable isotope analyses on the Earliest Jomon skeletons from the Tochibara rockshelter, Nagano, Japan. Radiocarbon 44(2), 549-557.

米田穰, 2004, 炭素・窒素安定同位体による古食性復元. 環境考古学ハンドブック, 朝倉書店, 411-418.

吉田邦夫・宮崎ゆみ子, 2007, 煮炊きして出来た炭化物の同位体分析による土器付着炭化物の由来についての研究. 日本における稲作以前の主食植物の研究, 平成16-18年度科学研究費補助金 基盤研究B (課題番号 16300290) 研究成果報告書 研究代表者 西田泰民, 85-96.

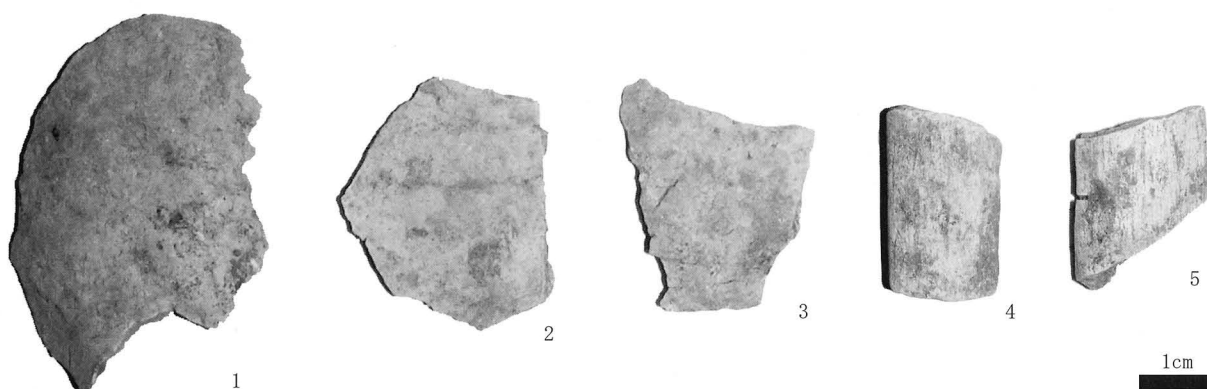
図版1 出土骨



1. ヒト前頭骨右頬骨突起(005;墓4 SW)
3. ヒト前頭骨左頬骨突起(001;墓4 NE)
5. ヒト前頭骨(013;骨3(NW))
7. ヒト頭頂骨(004;墓4 SE)
9. ヒト頭頂骨(009;墓4 西小口)
11. ヒト後頭骨?(013;墓4 骨3(NW))
13. ヒト左側頭骨錐体部(004;墓4 SE)
15. ヒト右側頭骨錐体部(001;墓4 NE)
17. ヒト側頭骨?頬骨弓?(013;墓4 骨3(NW))
19. ヒト右頬骨(013;墓4 骨3(NW))
21. ヒト左上顎骨(001;墓4 NE)
23. ヒト上顎骨/下顎骨(004;墓4 SE)
25. ヒト上顎骨/下顎骨(013;墓4 骨3(NW))
27. ヒト左下顎切歯齒冠(007;墓4 中央)
29. ヒト歯牙齒根(墓4 001;墓4 NE)
31. ヒト歯牙齒根(007;墓4 中央)
33. ヒト肋骨(001;墓4 NE)
35. ヒト肋骨(006;墓4中央部分)
37. ヒト上腕骨遠位端(006;墓4 中央部分)
39. ヒト橈骨骨頭(005;墓4 SW)
41. ヒト橈骨/尺骨(001;墓4 NE)
43. ヒト大腿骨(007;墓4 中央)
45. ヒト脛骨?(006;墓4 中央部分)
47. ヒト基節骨/中節骨(001;墓4 NE)

2. ヒト前頭骨左頬骨突起(001;墓4 4NE)
4. ヒト前頭骨(004;墓4 SE)
6. ヒト頭頂骨(001;墓4 NE)
8. ヒト頭頂骨(005;墓4 SW)
10. ヒト頭頂骨(014;墓4骨4(NW/SW))
12. ヒト左側頭骨錐体部(001;墓4 NE)
14. ヒト左側頭骨錐体部(013;墓4 骨3(NW))
16. ヒト右側頭骨錐体部(005;墓4 SW)
18. ヒト右砧骨(013;墓4 骨3(NW))
20. ヒト頬骨?(011;墓4 東骨)
22. ヒト下顎骨(013;墓4 骨3(NW))
24. ヒト上顎骨/下顎骨(006;墓4 中央部分)
26. ヒト左上顎第2大白歯齒冠(007;墓4 中央)
28. ヒト大白歯齒根(006;墓4 中央部分)
30. ヒト歯牙齒根(006;墓4 中央部分)
32. ヒト第1頸椎前結節(013;墓4 骨3(NW))
34. ヒト肋骨(001;墓4 NE)
36. ヒト右肩甲骨(007墓4 ;中央)
38. ヒト上腕骨?(012;墓4 骨1(NE))
40. ヒト橈骨骨頭(006;墓4 中央部分)
42. ヒト橈骨/尺骨(004;墓4 SE)
44. ヒト脛骨(007;墓4 中央)
46. ヒト脛骨?(013;墓4 骨3(NW))

図版2 分析試料



1. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨①;墓4 NE)
2. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨②;墓4 NE)
3. 頭蓋骨 破片(頭蓋骨③;墓4 NE)
4. 四肢骨 破片(四肢骨①;墓4 中央部分)
5. 四肢骨 破片(四肢骨②;墓4 中央部分)

第Ⅳ章 総括

横田古屋敷遺跡を2度にわたり調査を行った。本報告分では遺跡の一部を調査したにすぎないが、弥生時代中期後半から後期にかけて営まれていた集落の一部と墓地が確認された。発見された礫床木棺墓のうち1基は県下で大型に分類される規模をもつものである。本章では、礫床木棺墓の構築過程・出土人骨、弥生時代中期を中心とした集落立地を概観し、居住域と墓域との認識について触れ、1・2次にわたる調査成果を概括的にまとめて総括とする。

第1節 礫床木棺墓

今回の調査で検出された礫床木棺墓の構築過程を以下の9つに分けて工程毎の考察を行った。

(1) 木棺規模に合わせた埋葬施設の設計をする⇒(2) 木棺埋設土坑を掘削⇒(3) 小口穴の掘削⇒(4) 礫床を設ける⇒(5) 木棺安置⇒(6) 木棺の小口板を固定するため裏込め石及び土砂を詰める⇒(7) 土坑内の木棺周囲に礫を込める⇒(8) 土坑周囲に帯状に礫を配置する⇒(9) 埋葬部全体を覆うように土礫で盛土を施す

(1)：墓1～3の小口穴は土坑の短軸とほぼ同幅を測り、長軸の端部に位置することから、木棺規模に拠る設計がなされているとみて良いだろう。対する墓4は礫集積の状況から他墓と同規模の木棺が想定されるが、土坑設計が木棺規模に拠らない。また、礫集積や骨片の出土状況から、墓4のみ長大な木棺が安置されていた可能性は低いと考えられる。

(2)：墓1・3は土坑自体が掘り込みをほとんど持たない。墓2は30cm、墓4は45cmほどの深さを持つ土坑を掘削している。前述したように、上部が削平された可能性が低い以上墓2・4の方が手間をかけていることになる。

(3)：深さは10cm未満の穴がほとんどで、4基にはそれほど大きな違いがみられない。礫床敷設や礫集積、盛土を施すことで固定を図っていたのだろう。墓3は比較的幅広な小口穴が検出されている。

(4)：墓4の礫床は30cm以上の厚みを持ち、他墓よりも厚く構築されている。木棺の上部に配置されていた礫が落ち込んだと仮定することもできるが、推定木棺位置の周囲も同様の厚みを持つことから、中央部分のみ陥没した礫が堆積した状況とはいえない。従って、初期構築時に厚みのある礫床を設けたと推測される。

(5)：いずれの墓も側面・小口面の木材を最低2つずつ以上に、蓋板を構築した礫床組合式木棺を想定している。

(6)：裏込め石の存在は確かではない。各墓から小口穴内に落ち込む礫が確認されているが、木棺が朽ちた後の流れ込みの可能性が十分に考えられるためである。そこまでの追求は本調査では成し得なかった。

(7)：墓1は掘り込みを持たない代わりに、木棺周囲に礫集積を行って固定したと考えられる。墓2は隙間を埋める様な感覚で木棺周囲に礫を充填させていた。墓3は木棺周囲に礫集積が認められず、墓1と同様に掘り込みを持たないため、組合式木棺のような構築方法で長軸の板を固定したか、側部は固定に礫を用いずに構築したと推測される。墓3は小口穴の形態を踏まえると、土坑内にゆとりを持たせることなく、木棺が構築されたと考えべきであろうか。その点、墓4は推定木棺位置から土坑掘方まで十分なゆとりを持って構築されている。

(8)：礫配置の形態は大きく2つに分類することができる。遺体安置場とした棺床面に礫集積をもつことは共通するが、墓1・2・4は土坑の長軸両端に礫集積を配するとともに、側部にも礫集積をもつ形態をとる。墓3は土坑を挟むように長軸両端にのみ礫集積をもつ形態をとり、比較的簡素な仕上がりに造られ、木棺に礫を積載させていたことも考えられる。前者においては、墓4の土坑周囲及び棺床面の礫集積の密度等が墓1・2を凌駕している。墓1～3に比べ、墓4は特に礫の粒径も考慮して丁寧に構築されたことが窺われる。土坑周囲から検出された礫集積の存在から、後世に遺構上部が削平された状態で検出されたとは考え難い。

(9)：埋葬部の最終的な形態は土まんじゅうのような塚状を呈していたと推測される。遺跡周囲には礫も豊富に在ることから土礫混合で盛り上げたと考えられ、墓4のみは墓標と推定される巨礫が遺存していた点が挙げられる。

この巨礫は棺床面に接するように出土しており、これは木棺に蓋板が設けられ、中に空間が存在していることを示唆するものではないか。ひいては墓標の原位置は厚く堆積した盛土上ではなく、木棺直上に立てられていたと推測される。周囲の礫集積は、墓域であることを明確にするために盛土の縁に配置したものと考えることもできる。

以上、9つの工程の内(1)(2)(4)(7)(8)(9)には差異が認められる。構築方法の観点に拠ると、墓4は集団墓の中で一線を画している墓として位置付けることが妥当であり、墓1～3はその形態差から墓4に対する陪塚の可能性を考慮せねばならない。

集団墓内において「埋葬時の手間=被葬者の階級」とは必ずしも成立するとは限らないが、厚葬の度合いが被葬者の何らかの差異を表現するものである場合、『墓4>墓2≥墓1≥墓3』という図式が成り立つと考えられる。なお、出土遺物の面では盗掘の可能性も考慮せねばならないが種類・量ともに墓4が突出しているわけではない。

今後、礫床木棺墓を調査する際の追求の方向性は以下のとおりであろう。

(ア) 礫床木棺墓の構築～埋葬過程の復元

⇒1次調査は諸般の制約があったため、記録に時間をかけることができなかった(墓内出土骨片の詳細な位置や、構成する礫の石材検討等は一切行えなかった)。そのため、今回の考察には不確かな部分が多い。今後、市内で発見される礫床木棺墓の調査に期待したい。

(イ) 墓制の差異と規格の差異

⇒墓制の形態・規格による差異を出土人骨・出土遺物等を踏まえた上で解析・検討を行っていく。

⇒集団墓内で墓制の差異が認められた場合、形態・規格による優劣を普遍的に捉えても問題がないのか。

⇒礫床木棺墓という特異な埋葬形態の位置付け。

(ウ) 礫床木棺墓に葬られた小児骨の評価

⇒5歳以上で既に成人と同様、つまり礫床木棺墓を埋葬形態にとる事例が既に報告されている⁽⁶⁾。

本遺跡の第4号礫床木棺墓出土の人骨は科学分析の結果から最小個体数で3個体が数えられた。埋葬方法や埋葬頭位、性別に関しては判別が困難であったものの、分析結果から3個体は小児前半(6～10歳)・壮年(20～39歳)・熟年(40～59歳)の3世代にわたる年齢差があることが判明した。本遺跡の礫床木棺墓の構築復元の考察からは、追葬ではなく、同時埋葬が行われたものと推測されるのだが、試料を一括で回収しているが故に埋葬状態の復元にまでは至れなかった。

同時埋葬を前提とした場合、年齢差を踏まえると、何らかの事情によってほぼ同時期に亡くなった血縁関係を有する同族ともみることができる。なお、追葬を前提とした場合、盛土は比較的簡易的なものであったと考えざるを得ないが、埋葬状況・出土地点等の情報が不足しているためこれ以上の憶測は差し控えることにする。

(エ) 安定同位体比からみる食性分析

炭素・窒素安定同位体比分析とは骨からコラーゲンを抽出して、そのコラーゲン中の炭素・窒素の同位体比を測定、食性復元を試みる科学分析である。食性はC3植物|C4植物|草食獣|海獣・大型魚類|海産魚類|海産貝類の6つのグループに大きく識別される。

C3植物とは一般的な光合成をおこなう植物で、イネ、ムギ等の穀物やクリ、クルミ等の木本、ソバなど、植物のほとんどがC3植物に含まれる。C4植物にはアワ、ヒエ、キビ等の雑穀、トウモロコシ、サトウキビ等が含まれる。両者は炭素安定同位体比で容易に識別できることが知られている。

今回の科学分析の結果、残念ながら窒素安定同位体比において信頼できる値を測定することが叶わなかった。炭素安定同位体比の数値を見る限りは、C3植物を主たるエネルギー源としていたことが窺え、陸上の動植物資源の摂取が高かったと推定される。しかし、既述している通り、窒素も含めた測定値の指標が試料の評価とされており、得られた炭素同位体比測定値の信頼度についても課題が残る結果となってしまった。今後、本人骨の再検証を含めて松本盆地内の試料の蓄積を期待したい。

第2節 集落と墓

1 松本市内の縄文中期から古墳中期までの集落変遷（第7図）「遺跡名」はゴシック体で「遺跡」は省略している。

松本市内は旧石器時代に比定される遺物が各地で採集されているものの、今のところよくわかっておらず、縄文時代に入っても住居址が散見する程度の希薄な分布状況しか把握できていない。

縄文中期になると爆発的に人口が増え、後続する後晩期までは集落址の調査事例数が増加する。拠点集落は北から大村～堀の内～坪ノ内～小池・一ツ家・エリ穴～川西開田と標高 650m に沿って展開する。

晩期末～弥生前期は人口減少傾向にあって小規模な集団が移住を繰り返していたからか、それまでみられていたような拠点的な集落は未だ発見されていない。

過渡期に一度衰微した集落が各地で繁栄するのは水稻農耕が普及する弥生時代中期に入ってからである。市内ではこの頃から弥生式土器が主体的に使われるようになり、これが松本での弥生時代の幕開けである。

水稻農耕開始期は低湿地を利用して営んでいたムラが各地に点在していて、集落密度や人口密度は希薄だったと想像される。その分布は城山から標高 600m の等高線に沿う様に宮渚本村～沢村～岡の宮～横田古屋敷～県町～出川南と円を描くように中山丘陵の突端部に至るまで点在する。この集落分布から水稻農耕開始期から弥生時代中期後半までは標高 600m 以下に存在する低湿地を主に利用していたと考えられる。

その後、安定した食料供給に伴って人口が爆発的に増加する。それまでの水田域では『需要>供給』となってしまうため、土木技術向上と農地拡大を模索し、弥生後期から古墳時代にかけての集落は縄文時代以来、数百年の空白期間を置いて標高 650m 付近に形成し直すように、各地に展開されていくことになる。

次に、縄文中期から時代を追って本遺跡を含む女鳥羽川・薄川流域内の遺跡をみていきたい。

縄文中期は堀の内、大村塚田、柳田などが拠点集落として挙げられる。しかし、続く後晩期に比定される遺跡の発見がぐっと少なくなる。

縄文晩期の土器は女鳥羽川流域では岡田町、柳田、女鳥羽川等から、薄川流域では南方、神田、鎌田等から発見されているが、いずれの遺跡からも該期の集落址は発見されていない。両流域内では縄文後期を含めたとしても、薄川左岸山裾の緩斜面に立地する林山腰から後期の柄鏡式敷石住居址が発見されているばかりである。

縄文晩期末から弥生時代前期にかけて営まれていたと考えられる集落（弥生前期に比定される土器が主体的に用いられている集落は小規模なものが点在していたからか、未だ発見はされていない）は女鳥羽川・薄川の氾濫を受け、定期的な移住を余儀なくされていたと推測され、弥生中期後半に至るまで、つまり水稻農耕が本格化されるまでは拠点的な集落は成し得なかった。

弥生中期後半になると両河川の氾濫が落ち着き、肥沃になった土地利用をするために横田古屋敷・岡の宮・県町・宮渚本村・沢村に集落を構え、安定した食料供給によって人口増加傾向になる。古墳時代には土木技術の上達もあいまって、それまで耕作することが困難であったであろう大村～堀の内の背後に存在する山裾湿地帯周縁へと生産力不足を補うために農地拡大を図って集結し、大規模集落を形成する。そのほか、千鹿頭北も拠点集落の一つとして選択され、宮渚本村・県町では規模がいくらか縮小するが古墳時代に入っても集落が継続する。標高 650m 付近が専ら集落立地の中心になることは桜ヶ丘古墳・妙義山古墳・針塚古墳などの古墳時代中期の円墳群の存在が物語っている。

2 弥生時代の墓制

松本市内の縄文末から弥生終末までの代表的な墓址は時期を追ってみて行くと以下の遺跡が挙げられる。

縄文晩～弥生初：高畑（土器棺墓が2つ検出されるが、住居址は無い。土坑は発見された）

エリ穴（土器棺墓）後晩期に帰属する墓址

弥生前：針塚（再葬墓）5基の土器棺墓が発見され16個体の壺甕が出土。住居址は無い。

中期中頃：境窪（礫床木棺墓、土器棺墓、土坑墓）住居址群の東縁に礫床木棺墓等の墓域が検出された。

比較的位置関係は近く、礫床墓と直近の住居址との距離は5m余りを測る。

中期後半：横田古屋敷（礫床木棺墓）

後期：宮瀨本村（礫床木棺墓、土器棺墓）中期末の住居址を破壊して構築される。5c末に直近に円墳が築かれる。

平畑（方形周溝墓）4基発見されている。場所は弘法山古墳に非常に近く、北西の裾に位置する。

白神場（方形周溝墓は出土遺物からは判断しかねるため、類例・形態から後期に位置付けられている。

弥生中前の土坑は発見されたが、住居址は無い。）

弥生末～古墳初：弘法山古墳（前方後方墳、本古墳築造時から松本市は古墳時代となる）

前項で述べたような集落変遷の中、大型礫床木棺墓を構築した集団はこの地にこだわり続けることをしなかった。本遺跡中に墓域が構築されたことの意義をどこに求めるべきか。礫床木棺墓群は絶対的な数でこそ少ない発見ではあったが、墓4の規模は異様である。存在自体が別格と言える方形周溝墓とはまた違って、一集団墓内において明瞭な差が誰の目にみても明らかな非常に分かりやすい例であると言えよう。

3 墓域と居住域

今回の調査では居住域と墓域が近接して検出されていることが特徴の一つとして挙げられ、1住と5住の中間に礫床木棺墓群が位置するように造営されていた。既述したように、これは少なくとも2つ以上の住居址支群の存在を示唆するものである。出土遺物から勘案すると礫床木棺墓は2住～7住、建物址と同時期に構築されたものと推測される。住居址群とは25～30m程距離をとっており、集落縁辺の住居址とそれに附随する墓域と捉えて問題はないだろう。

しかし、礫床木棺墓に非常に近い位置に1住が検出されており、礫床木棺墓は盛土工法で構築されていたと推測されるため、重複して築かれていたことになってしまうが、地床炉を有することから生活空間であったと考えられる。住居址内出土遺物は中期後半に帰属するものが多いが後期に比定される土器が出土していることや、遺構形態も後期に多くみられる形状であること等から弥生時代後期に埋没したと考えたい。

住居址を構築する際、既に墓としての認識がなかったのであれば、とるにたらない問題とも言えるべきことだが礫床木棺墓に埋葬が行われたと想定される弥生時代中期後半から1住埋没時期までの時間幅では墓域としての認識がまだあったと考えられる。今回の調査結果からはこれ以上の追究は難しいため、今後類似するケースが発見されることを期待したい。

第3節 まとめ

今回の横田古屋敷遺跡の調査において次の成果を得ることができた。

- 1 竪穴式住居址、掘立柱建物址、平地式建物址が発見され、弥生式土器・石器の良好な遺物を得ることができた。出土遺物から弥生時代中期後半を主とする集落（一部後期初頭の土器が混じる遺構が存在する）、墓制などを明らかにすることができた。
- 2 集落に付随すると考えられる4基の礫床木棺墓が発見された。内1基は2.8×2.1mを測る大型墓址である。比較的小規模な他3基の礫床木棺墓は□の字状に配置されており、構築場所・主軸方位にも何らかの意図があるのだろう。これらの礫床木棺墓群は墓4の存在から集団墓の中に形態の差異が明らかに認められる段階にあたり、弥生時代墓制の変遷上で第2段階に相当するものと考えられる。
- 3 成人・未成人を問わずに礫床木棺墓に埋葬されているという、前例に合致するように本人骨中にも小児骨が含まれていた。
- 4 対象地北西部に設定したトレンチ内は奈良・平安時代の遺物包含層が発見されたに止まり、弥生時代包含層及び遺構は古代以降の洪水によって破壊されている状況が検出されたため、岡の宮遺跡・女鳥羽川遺跡までの

弥生集落の連続性を追うことはできなかった。しかし、直線距離約 200m で遺構検出面の比高が 1~2m、出土遺物が同時期であることなどから勘案すると互いの集落の関連性を推測するには十分な資料が得られた。

5 2 次調査地においては、古墳時代前~中期に帰属すると推測される土器集中や、平安時代に埋没した井戸址などが発見された。標高値が比較的近似する、南方の県町遺跡、西方の沢村遺跡との関連性も窺いながら、弥生時代以降の横田古屋敷遺跡像について追究していく必要があるだろう。

以上、今回の調査では西に位置する女鳥羽川遺跡、岡の宮遺跡と連続性を持つ大規模集落であるという結論を導きだすには資料が乏しい結果となってしまったが、古代以降の洪水性堆積物が遺跡間に確認されたことから、旧女鳥羽川の流路の 1 つが岡の宮遺跡との間に流れていたことが判明した。そうした中で 4 基の礫床木棺墓が発見され、集落内に存在する墓域の一端を垣間見ることができたのは大きな成果である。礫床木棺墓の 1 基は 2.8 × 2.1m を測る県下最大級の墓址であることにも注目したい。

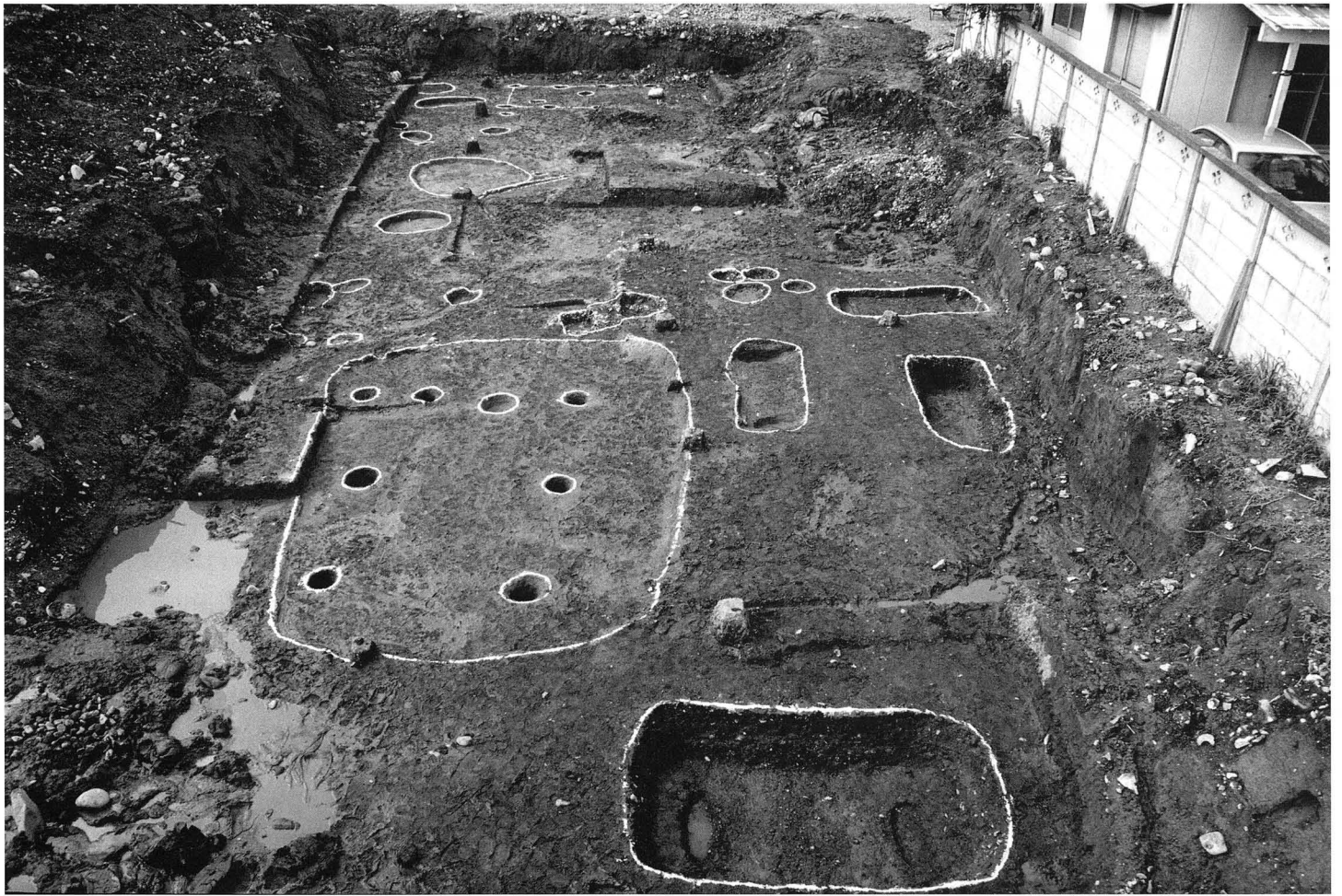
なお、本書作成中に出川南遺跡第 17 次発掘調査で礫床木棺墓が発見された。墓内からの遺物の出土は希薄ではあるが、同検出面の遺構分布の状況から弥生時代中期後半~後期に帰属するものと考えられている。出川南遺跡の墓域は構成する要素が本遺跡とは違い、円形周溝墓、土器棺墓、木棺墓、土坑墓等が密集する墓址集中地帯から 1 基の礫床木棺墓が発見されており、若干離れた位置からは方形周溝墓も発見されている。今後の整理・検討によって、本報告とは違った礫床木棺墓像が明らかになっていくだろう。

【注】

- (1) 『推定信濃国府 I』の分布調査で下水道工事の排土中より多量の弥生土器が採集されている。土器の含まれていた黒色土層は広範囲に認められ、女鳥羽川河川内の女鳥羽川遺跡（縄文晩期）でも検出されている。
- (2) 『推定信濃国府 I』や『松本市史研究 第 2 号』等で「元屋敷遺跡」として本遺跡が記載されている。
- (3) 『松本市史 第 4 章 弥生時代の生活と文化』を参考に記述した。
- (4) 『境窪遺跡』で長楕円形のピットで構成された平地式建物が確認されており、2 本程の柱材を組み合わせて一つの柱穴に立てた結果としている。
- (5) 『竹淵遺跡 II』で周溝のみが検出され、報告書内「第 4 章 まとめ」に環状の溝状遺構についての考察がなされているので参照されたい。
- (6) 礫床墓は長野県と群馬県にみられる特異な埋葬形態であり、群馬県有馬遺跡では 4 歳以下の乳幼児は土器棺墓に、5 歳以上は未成年と成人を問わず礫床墓に埋葬されているという結果がでている。

【参考文献】

- 長野県 1983 『長野県史』考古資料編 全 1 巻(三) 主要遺跡(中信)
- 松本市教育委員会 1983 『推定信濃国府 I』
- (財)長野県埋蔵文化財センター 2000 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 5 - 長野市内 その 3 - 松原遺跡』
- 直井雅尚 1992 「松本市域における弥生時代以降の開発と遺跡立地」『松本市史研究』第 2 号
- 松本市教育委員会 1996 『竹淵遺跡 II』
- 松本市 1996 『松本市史』歴史 I 原始・古代・中世
- 松本市教育委員会 1998 『境窪遺跡 川西開田遺跡 I・II』
- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004 『群馬の遺跡』3 弥生時代
- 久田正弘 2007 「弥生住居の想定復元」『石川県埋蔵文化財情報』第 18 号



1次A区 全景 (南から)



2次A区 全景 (南から)



1次A区 建1 北壁土層



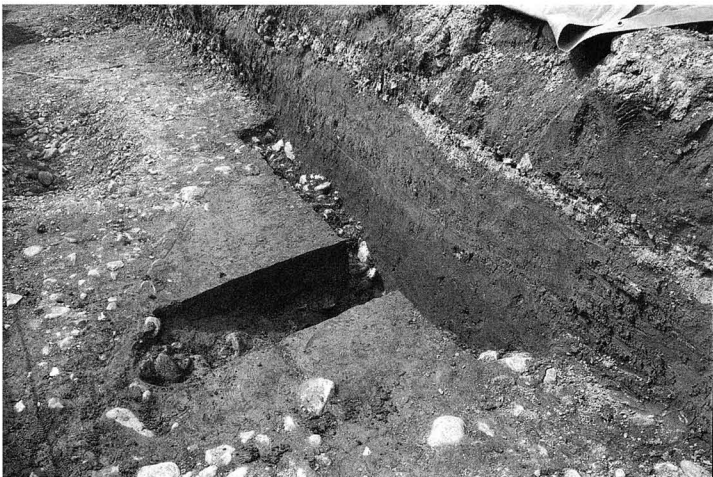
1次A区 墓2 東壁土層



2次B区 東壁土層断面



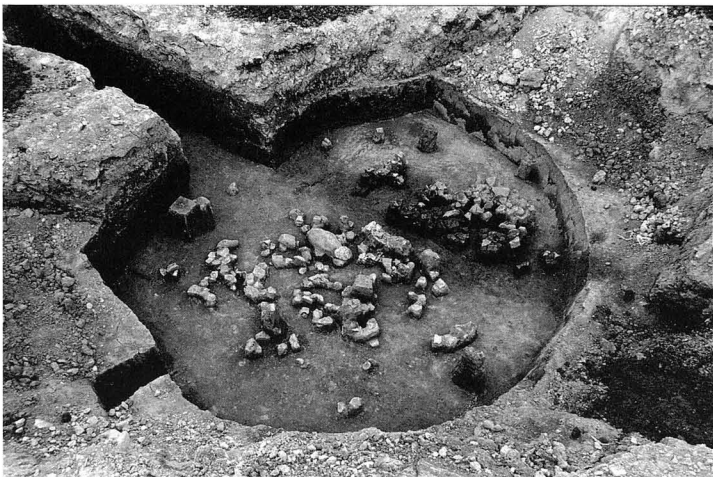
2次B区 土16土層断面



大規模試掘調査T1東壁土層断面



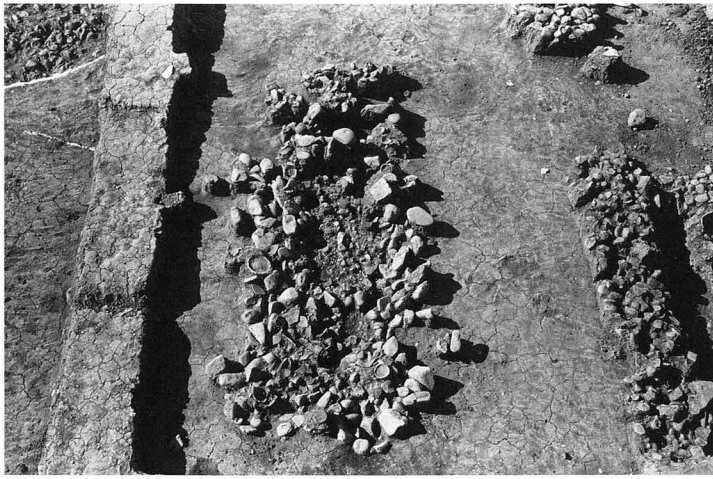
大規模試掘調査T1南壁土層断面



2住 遺物出土状況 (南から)



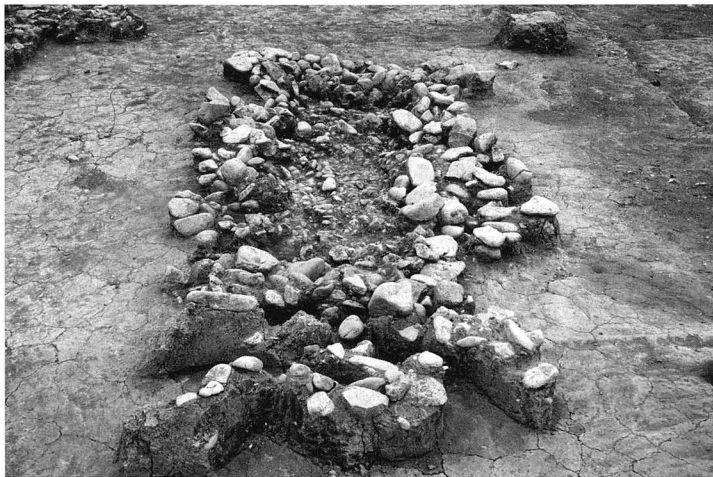
2~4住 完掘状況 (南から)



墓1 磔検出状況（南から）



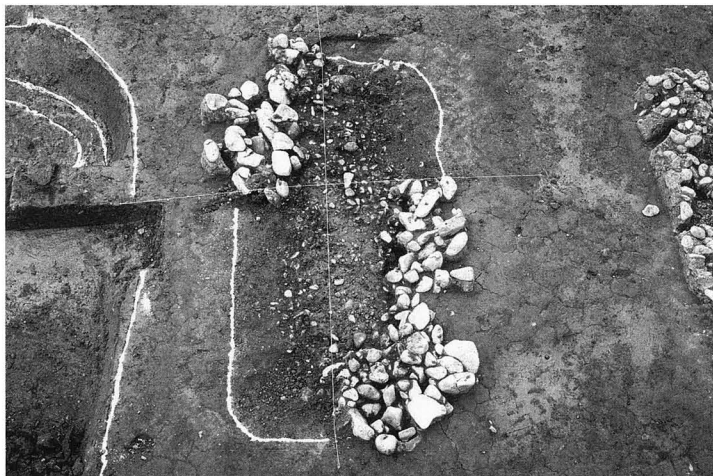
墓1 磔出土状況（西から）



墓1 磔出土状況（北から）



墓1 半截



墓1 半截（南から）



墓1 半截 南小口



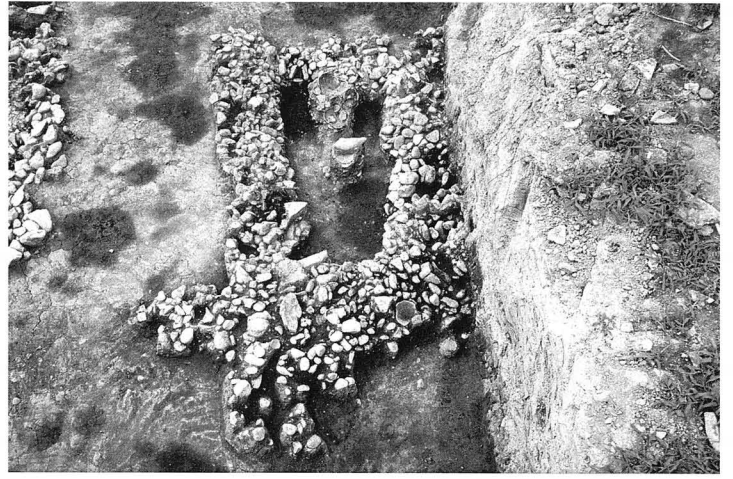
墓1 完掘状況



墓1 半截 北小口



墓2 磔検出状況（西から）



墓2 磔検出状況（南から）



墓3 磔検出状況（北から）



墓4 磔検出状況（北から）



墓3 東部磔検出状況



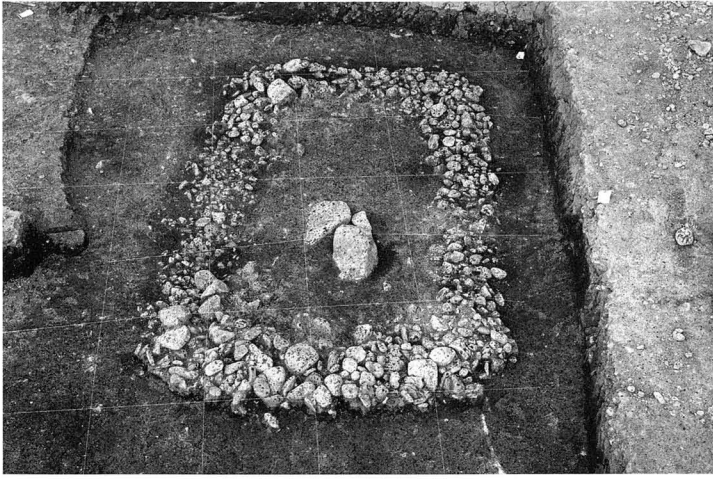
墓4 半截出況（北から）



墓3 西部磔検出状況



墓4 覆土除去後（北から）



墓4 磔検出状況（西から）



墓4 巨磔検出状況



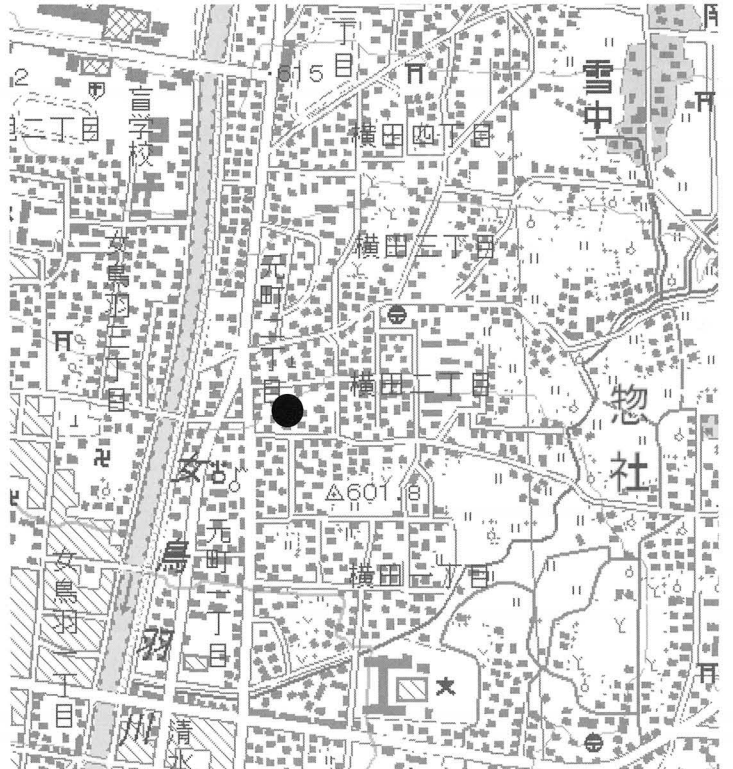
墓4 覆土除去後（西から）



墓4 完掘状況（西から）



平成元年 航空写真



同左地図（●が調査地）

長野県松本市 横田古屋敷遺跡第1・2次発掘調査 報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし よこたふるやしきいせき だい1・2じはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市 横田古屋敷遺跡 第1・2次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.209							
編著者名	直井雅尚、三村竜一、内田陽一郎、吉井理							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管:松本市考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2012(平成24)年3月30日 (平成23年度)							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
よこたふるやしき 横田古屋敷	ながのけんまつもとし 長野県松本市 もとまち 元町2-22	20202	82	36° 14' 34"	137° 58' 56"	1997.06.19 ～ 1997.07.14 2008.07.07 ～ 2008.08.11	第1・2次 調査 計463㎡	遊技場建 設、立体駐 車場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
横田古屋敷 第1次調査	集落 その他の墓	弥生	竪穴住居址 掘立柱建物址 土坑 ピット 溝 礫床木棺墓	4軒 1棟 9基 15基 1条 4基	弥生土器 環状石斧 磨製石鏃 磨製石斧 砥石 人骨	礫床木棺墓4基を調 査。住居址内から環状 石斧・磨製石斧・磨製 石鏃・大量の弥生土器 が出土している。		
横田古屋敷 第2次調査	集落	弥生 古墳 奈良～平安	竪穴住居址(弥生) 平地式建物址(弥生) 土坑(弥生) 土坑(平安)井戸址 ピット 溝 集石遺構	3軒 1軒 8基 1基 36基 4条 1基	弥生土器 磨製石鏃 打製石鏃 土師器 灰釉陶器	掘り込みをもたず、多 角形の柱穴列・地床炉 を3基有する平地式建 物址が1軒検出されて いる。		
要約	<p>第1次調査：A区は検出面上層において遺物包含層を3mグリッド調査を行った結果、非常に多量の遺物を得た。また、B区2住は遺物量が極めて多量であり、環状石斧が出土した。A区の南東部部分より長方形の礫集中箇所が4箇所みられ、これらは調査の結果、礫床木棺墓であることが判明した。墓壇の周囲に及ぶほどの大量の礫が検出されたほか、土器・石器・石製品・骨片などが出土している。特に礫床木棺墓のうち一つは規模が2.8×2.1を測る大型の墓址である。</p> <p>第2次調査：第1次調査を受け、礫床木棺墓の存在や墓域の範囲を確認する意味も含まれていた調査であったが、2次調査においては礫床木棺墓は発見されなかった。検出された遺構のうちの1つである平地式建物址は八角形状を呈すると推測され、3基の炉を持つ。建物址と関係が想定されるような周溝の存在は確認できなかったが、八角形の支柱穴群以外に支柱穴群が検出されている。5号住居址からは土器・石器などの良好な資料が得られた。また、一部甕片がまとまって出土して地点があり、これらの土器は古墳時代前～中期に帰属すると推定される。出土遺物は灰釉陶器の小杯1点に留まるが平安時代に帰属すると考えられる井戸址が1基検出されている。</p>							

松本市文化財調査報告 No.209

長野県松本市

横田古屋敷 第1・2次

-発掘調査報告書-

発行日 平成24年3月30日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 株式会社 二光印刷
